

授業シラバス

授業科目名	資格試験講座	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
開講科目名	ホテルビジネス実務検定 I						
開講科目英名	Hotelier Proficiency Test	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員、実務者経験】							
1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、2013リゾートトラスト等を経て現在はシンガポールに拠点を置くラグジュアリーホテル、Banyan tree グループのホテルのレストランオペレーションに携わっています。料飲を中心に宿泊、人事総務など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。							
【授業の学習内容】							
日本ホテル教育センター発行の”ホテルビジネス基礎編”を使用し、料飲部門と宴会部門そして宿泊部門について基礎的な知識を習得していきます。実際の職務に携わるにあたって「何が重要なのか」もあわせて学習していきます。							
【到達目標】							
ホテルビジネス実務検定試験を受験し合格することを目標とします。							

回数	授業計画・内容
1回目	開講にあたり、講義の進め方、目的などを理解することができる
2回目	料飲業務に関する知識を習得することができる
3回目	料飲業務に関する知識を習得することができる
4回目	料飲業務に関する知識を模擬試験を通じて確認できる
5回目	宴会業務に関する知識を習得することができる
6回目	宴会業務に関する知識を習得することができる
7回目	宴会業務に関する知識を模擬試験を通じて確認できる
8回目	宿泊業務に関する知識を習得することができる
9回目	宿泊業務に関する知識を習得することができる
10回目	宿泊業務に関する知識を模擬試験を通じて確認できる
11回目	その他の部門の業務に関する知識を習得することができる
12回目	その他の部門の業務に関する知識を習得することができる
13回目	後期試験(模擬試験)を通して知識の定着を確認できる
14回目	試験に関するレビューを行い、現在の強み・弱みを確認できる
15回目	模擬試験および答え合わせを行い、知識の定着を確認することができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	実践英会話 I					
開講科目英名	Practical English I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			2		

【担当教員・実務者経験】

英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、対面授業で会話やライティングを通して実践する。

【到達目標】

自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないでやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	イントロダクションとプレテスト。初対面のあいさつ～お別れまでの会話が出来るようになる
2回目	自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答えが出来るようになる
3回目	ちょっとした世間話の会話が出来るようになる
4回目	好き・嫌い等の好みについての会話が出来るようになる
5回目	意見を尋ねる/意見を述べる。お誘いを受けた際の返答が出来るようになる。
6回目	家族について話したり尋ねることが出来るようになる
7回目	性格について話すことが出来るようになる
8回目	人を褒める&褒められた際の会話表現。(衣服など)着ているものに関して述べる事が出来るようになる
9回目	日々の習慣について話したり尋ねることが出来るようになる
10回目	追加質問について学び、実践できるようになる
11回目	順序について話したり尋ねることが出来るようになる
12回目	総復習(筆記小テスト)
13回目	総復習(ロールプレイングテスト)
14回目	前期授業内容での期末テスト
15回目	前期期末テストの解説
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	対面授業はオンデマンド授業で学んだことを実践する場です。 頑張りましょう!
【使用教科書・教材・参考書】	
EVOLVE 5	

授業シラバス

授業科目名	外国語 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	実践英会話 II					
開講科目英名	Practical English II	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			2		

【担当教員、実務者経験】

英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、対面授業で会話やライティングを通して実践する。

【到達目標】

中学校レベルの英語の仕組みをマスターし、最低限のコミュニケーション(お店でのやりとり、道を聞かれた時の対応)ができるようになる。
(英検3級合格レベル)

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション、文の成り立ちを理解する。
2回目	「be動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「一般動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「過去形(be動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「過去形(一般動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
6回目	「進行形(現在 / 過去 / 未来)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
7回目	「未来形(will / be going to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
8回目	「助動詞(can / may / should / must / have to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
9回目	「受動態」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
10回目	「現在完了形①(概念 / 継続)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
11回目	「現在完了形②(経験 / 疑問 / 否定)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
12回目	「不定詞 / 動名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
13回目	「第4文型 / 第5文型」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
14回目	学期末試験・総復習
15回目	試験返却
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ(100%) ※①概念化②文章化③音声化の3観点で評価
受講生へのメッセージ	基本技術を身につけることが重要です。 休まず、授業後には、習ったことを復習をして、毎回の授業に出席してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
EVOLVE 5	

授業シラバス

授業科目名	外国語 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	実践英会話Ⅲ						
開講科目英名	Practical English III	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないでやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U1.1 困難に直面した時の表現方法を学ぶ 現在の習慣についての表現を学ぶ
2回目	U 1.2 困ったことを表す表現を学ぶ 過去にあった習慣、困難なことについての表現を学ぶ
3回目	U1.3 強調表現、/ʌf/の発音を学ぶ 様々なコミュニケーションの種類について学ぶ、問題についてディスカッションをする、また強く賛成する際の表現を学ぶ
4回目	U1.4 エッセイの組み立て方を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 宇宙、海洋探査に関する表現を学ぶ 比較を用いた表現を学ぶ
7回目	U2.2 自然界に関する単語を学ぶ 最上級を用いた表現を学ぶ
8回目	U2.3 アクセントの強弱、リズムについて学ぶ、/w/./v/の発音を学ぶ 情報を求める、また提供する際の表現を学ぶ
9回目	U2.4 数に関する表現を学ぶ 遠く離れた場所での生活についての記事を読む
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 性格のタイプに関する表現を学ぶ 関係詞を使った表現を学ぶ
12回目	U3.2 強い感情を表す単語を学ぶ 現在分詞を用いた表現を学ぶ
13回目	U3.3 語末の/ʌ/の発音を学ぶ 礼儀正しいイントネーション(発音)を学ぶ、リクエストをする、また答える際の表現を学ぶ
14回目	U3.4 動物園の求人広告を読む パーソナルステートメントの書き方を学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
16回目	U4.1 仕事上の関係に関する表現を学ぶ [so..that][such..that][even][only]を用いた表現を学ぶ
17回目	U4.2 アイディアの評価に関連する表現を学ぶ 再帰代名詞[self][selves]、[other][another]を用いた代名詞について学ぶ
18回目	U4.3 子音-母音のリンキング(発音)について学ぶ、2語(フレーズ)でのストレス(発音)について学ぶ 有利な点、不利な点について話す
19回目	U4.4 チームワークについての記事を読む サマリーの書き方を学ぶ
20回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
21回目	U5.1 感情のコントロールに関する表現を学ぶ 仮定法を用いた表現を学ぶ
22回目	U5.2 やりたい事、気が進まない事に関する表現を学ぶ 「if」以外の仮定法の表現を学ぶ
23回目	U5.3 /ɪ/./e/./æ/の発音について学ぶ、文中でのストレス(発音)を学ぶ 確かなもの、不確かなものを述べる際の表現を学ぶ
24回目	U5.4 翻訳アプリに関する記事を読む 自分の意見をサポートする例を述べる表現を学ぶ
25回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
26回目	U6.1 名声に関する表現を学ぶ 過去形・過去進行形・過去完了形・過去完了進行形を用いた表現を学ぶ
27回目	U6.2 「主張する」などの伝達動詞の表現を学ぶ [can]などの助動詞を用いた間接話法を学ぶ
28回目	U6.3 複合動詞の発音について学ぶ、母音の長短(発音)について学ぶ 憶測を立てる、また他人の憶測に反応する際の表現を学ぶ
29回目	U6.4 恥ずかしい失敗についての投稿を読む 長文や短文を用いた面白いストーリーの書き方を学ぶ
30回目	U6.5 Unitの復習 学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 各レッスン(30回)の小テストでの正解率にて評価 各Unit レッスン1-4の小テスト:10点満点、レッスン5の小テスト:20点満点 学期末の合計得点を100%換算にて計算する。
受講生へのメッセージ	対面授業はオンデマンド授業で学んだことを実践する場です。 頑張ってください！
【使用教科書・教材・参考書】	
EVOLVE 5	

授業シラバス

授業科目名	ホスピタリティヒューマンスキル	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	キャリアプログラム I					
開講科目英名	Career Program I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

ネバダ州ラスベガスのCollge of Southern Nevada卒業後、ロサンゼルス・トロントの日系旅行会社で1年ずつ旅行手配業務を経験。帰国後、同社名古屋支店で2年間勤務後、画廊へ転職し絵画販売受付業務を担当する。2017年より大阪ホテル・観光&ウェディング専門学校勤務。

【授業の学習内容】

- ・学校生活ルールの理解
- ・自己理解、他己理解の練習
- ・積極的な取り組み姿勢を身に着ける

【到達目標】

- ・安心安全なクラスづくり(皆でクラスを作っていく意識を持つ)
- ・自己肯定と他己肯定をしていく(自己と他者を受け入れ、他者と比べるのではなく、肯定する)
- ・自分と向き合い、考えを言語化できるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	キャリアプログラムの目的を理解することができる コミュニケーションワーク、ITリテラシーテスト他
2回目	全体カリキュラム・各授業の意味と習得する技能について理解することができる キャリアサポートアンケート
3回目	担任・副担任の自己紹介
4回目	副校長・伊藤大祐先生特別講義 ～思いは招く～
5回目	自由連想ゲーム(ジョハリの窓ワーク)でお互いのキャラクターを理解することができる
6回目	教務部長・田中健一先生特別講義 ～ファーストペンギン～
7回目	認知特性診断を通して、自分やクラスメイトの特性を理解できる
8回目	コミュニケーションワークを通じて傾聴力の重要性を理解し、適切な傾聴について学ぶことができる。
9回目	グループワーク:クラスの目標を設定することができる
10回目	学校ルールの再確認、情報共有、独自アンケート
11回目	コミュニケーションワークを通じて発信力に必要な技能を理解し、養う方法を学ぶことができる。
12回目	コミュニケーションワークを通じてチームワークの重要性を理解することができる。
13回目	Powerpointを用いて、自己紹介のプレゼンテーションを作ることができる
14回目	Powerpointを用いて、自分について開示することができる
15回目	後期に向けて、自分の目標を設定することができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
スマホ(主にTeams)、スケジュール帳、筆記用具(メモを取る意識) ※パソコンを使う際は事前に告知します。	

授業シラバス

授業科目名	ホスピタリティヒューマンスキル	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	キャリアプログラムⅡ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
開講科目英名	Career ProgramⅡ						
学科	ホスピタリティマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

ネバダ州ラスベガスのCollge of Southern Nevada卒業後、ロサンゼルス・トロントの日系旅行会社で1年ずつ旅行手配業務を経験。帰国後、同社名古屋支店で2年間勤務後、画廊へ転職し絵画販売受付業務を担当する。2017年より大阪ホテル・観光&ウェディング専門学校勤務。

【授業の学習内容】

- ・学校生活ルールの理解
- ・自己理解、他己理解の練習
- ・積極的な取り組み姿勢を身に着ける

【到達目標】

- ・安心安全なクラスづくり(皆でクラスを作っていく意識を持つ)
- ・自己肯定と他己肯定をしていく(自己と他者を受け入れ、他者と比べるのではなく、肯定する)
- ・自分と向き合い、考えを言語化できるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	キャリアサポートアンケート実施
2回目	自由連想ゲーム: 自己の公開とコミュニケーションの円滑な進め方を考えることができる
3回目	性格フィードバック: 「自分から見た自分」を理解し、「周りから見た自分」を知ることが出来る
4回目	守護霊プレイ: 自己開示することができ、相互理解を深めることができる
5回目	ブレインストーミングとポジティブフィードバック: ブレインストーミングで、性格フィードバックで学んだ、NP(養育的な親心)とFC(自由な子供心)を体感でき、ポジティブフィードバックで肯定的側面を見る必要性を感じ、実践することができる
6回目	内観レポート: 身近な人への感謝の気持ちを育てることができる
7回目	ブラインドワーク: 指示の出し方を改善して、問題解決できる方法を学ぶ
8回目	ティーチングとコーチング: フォロワー関心・願望を把握して、効果的に助言する方法を体験学習し、ティーチングとコーチングの効果的な方法を学ぶ
9回目	栄養学教室: どのように話し合えば、正しい人の意見を活かすことができるのかを体験学習する
10回目	ブラインドワーク: 危機対処時のリーダーとフォロワーの関係を学ぶ
11回目	価値交流学習: 類似性の要因を数量化して把握でき、相互理解と受容を体験学習する
12回目	アサーション: 自分と相手を大切に表現技法を学ぶ
13回目	提案力を鍛える: 提案力を養うために必要な技法を学ぶ
14回目	評価される人になるには: 他社の目線に立つことで、自身を客観的に自己判断できる方法を学ぶ
15回目	1年間の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
スマホ(主にTeams)、スケジュール帳、筆記用具(メモを取る意識) ※パソコンを使う際は事前に告知します。	

授業シラバス

授業科目名	ビジネス	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ビジネスコンピューティング I					
開講科目英名	Business Computing I	授業形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。						
【授業の学習内容】						
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。						
【到達目標】						
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。 ITリテラシーを学び、安心・安全な環境を作り、ホスピタリティ業界でも大切なメールマナーなどを学ぶ。						

回数	授業計画・内容
1回目	ITリテラシー Word① 入力練習・Word基礎(文字入力)・ビジネス文書作成・文書編集①
2回目	Word② 入力練習・文書作成・編集② (効率的な編集方法を知り、手早く文書作成が出来るようになる)
3回目	Word③ 入力練習・表の作成① (表を作成することにより、文書の可視化が出来るようになる)
4回目	Word④ 入力練習・印刷・図形(地図) (ペーパーロスのない印刷方法や図形描写に慣れ、印刷が出来るようになる)
5回目	Word⑤ 入力練習・便利な機能 (検索、置換機能などを知り、効率的な文書編集が出来るようになる)
6回目	Word⑥ 入力練習・ビジュアルな文書作成 (ワードアートや画像の利用により可視化された文書を作れるようになる)
7回目	Word⑦ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる)
8回目	Word⑧ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる)
9回目	Word⑨ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる)
10回目	Word⑩ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる)
11回目	PowerPoint① PowerPointの基本(プレゼンテーションを知る。スライド作りが出来るようになる)
12回目	PowerPoint② 図形やイラスト・画像の挿入(著作権について知り、コンプライアンスを学ぶ。効率のよい美しいスライド作りが出来るようになる)
13回目	PowerPoint③ 表やスマートアートグラフィックの挿入(見栄えのよいプレゼン資料を作ることが出来るようになる)
14回目	総復習問題(Word基礎・応用)
15回目	振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・演習問題・総復習問題 50% ・毎回の授業での提出課題 40% ・授業への取り組み度 10%
受講生へのメッセージ	現代社会においてWordやExcel、PowerPointが使えない(苦手)という事は、言えない時代になっています。社会人になってからでは遅いのです。授業を通して、苦手意識を無くし、もっとも得意な分野になってもらえるように一緒に取り組んで参りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
授業内配布	

授業シラバス

授業科目名	ビジネス	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ビジネスコンピューティングⅡ					
開講科目英名	Business Computing Ⅱ	授業形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。

【授業の学習内容】

Excelの表計算、データベース・グラフ機能などは、ブライダル業界のみならず、社会で必要とされるスキルである
この授業では、色々な文書(見積書・請求書・祝宴進行表など)を作成しながら、応用力を身につけ、どのような書類も作成できるようになる。

【到達目標】

職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPC・タブレットなどを使いこなせるようになる。職場においても業務を効率化するためのリーダーとなり、助言ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	PowerPoint④ スライドへアニメーション/画面切り替えなどの特殊効果を設定出来るようになる。
2回目	PowerPoint⑤ プレゼンテーションの実行方法を身に付け、発表者としてのスキルアップにつなげる。また、発表者用資料の作成方法を知る。
3回目	PowerPoint⑥ 効率の良いスライドの追加方法や共通の変更の設定が出来るようになる。
4回目	Excel① 基本操作・データ入力・表の作成編集 (Excelの基本操作を知り、効率的な表編集が出来るようになる)
5回目	Excel② 数式と関数Ⅰ (Excelの数式や関数を扱えるようになり、業務で応用出来るようになる)
6回目	Excel③ 表の編集・条件付き書式 (見栄えの良い表作成と条件付き書式を使えるようになり、効率の良い業務に応用出来るようになる)
7回目	Excel④ グラフ作成・練習問題実施 (用途に合わせて、グラフを作成出来るようになる。また、練習問題を実施し、実力養成を図る)
8回目	Excel⑤ 印刷方法、シート操作、関数Ⅱ (印刷方法、シート間の入力方法、関数Ⅱを実施し、業務での応用が出来るようになる)
9回目	Excel⑥ データベース機能 (データベース機能を学ぶ事により、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
10回目	Excel⑦ 演習問題実施 (演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
11回目	Excel⑧ 演習問題実施 (演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
12回目	Excel⑨ 演習問題実施 (演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
13回目	Excel⑩ 演習問題実施 (演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
14回目	総復習(Excel基礎・応用)
15回目	振り返り・総括まとめ
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・演習問題・総復習問題 50% ・毎回の授業での提出課題 40% ・授業への取り組み度 10%
受講生へのメッセージ	現代社会においてWordやExcel、PowerPointが使えない(苦手)という事は、言えない時代になっています。社会人になってからでは遅いのです。授業を通して、苦手意識を無くし、もっとも得意な分野になってもらえるように一緒に取り組んで参りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
授業内配布	

授業シラバス

授業科目名	ホスピタリティマナー	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	マナー・プロトコール I					
開講科目英名	Manor protocol I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケッカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定 I 種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション: 授業の目的、進め方等を理解できる。マナー・プロトコール検定3級の検定概要が理解できる マナーとは何か: 慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコールを学ぶ意義が説明できるようになる
2回目	マナーの歴史と意味①: 日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ちについて説明できるようになる
3回目	マナーの歴史と意味②: アジアのマナーについて説明できるようになる 確認テスト①: 序章・一章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 国際人としてのプロトコール①: プロトコールの原則、具体的な席次例が説明できるようになる
4回目	国際人としてのプロトコール②: 社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナー、挨拶・握手と紹介のマナーについて説明できるようになる
5回目	国際人としてのプロトコール③: 外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる 国旗掲揚ワークで掲揚方法を体感することにより、正しい国旗掲揚ができるようになる
6回目	確認テスト②: 二章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①: 第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞い、敬語の種類と変換について説明できるようになる
7回目	社会人に必要なマナー②: 敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるようになる 言葉遣いワークで正しい言葉遣いを徹底的に習得することにより、就職活動や社会人生活で適切な言葉が活用できるようになる
8回目	社会人に必要なマナー③: 和装・洋装のマナーについて説明できるようになる
9回目	社会人に必要なマナー④: 喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方について説明できるようになる 祝儀袋・不祝儀袋ワークで表書きを練習することにより、正しく表書きできるようになる
10回目	社会人に必要なマナー⑤: 手紙のマナーについて説明できるようになる 手紙作成ワークで書き方を練習することにより、正しく手紙が書けるようになる
11回目	確認テスト③: 三章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる ビジネスシーンのマナー①: ビジネスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方について説明できるようになる 名刺交換ワークで名刺交換を練習することにより、正しく名刺交換できるようになる
12回目	ビジネスシーンのマナー②: 電話対応のマナー、トラブル対応、来客対応のマナーについて説明できるようになる 電話対応・来客対応ワークで対応練習をすることにより、好印象な接客対応ができるようになる
13回目	ビジネスシーンのマナー③: ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる
14回目	★前期試験: 1～12回目の授業を振り返り、試験を行う。自身の強み・弱みを認識する
15回目	前期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 確認テスト④: 四章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 総合の振り返りおよび質疑応答をすることで、さらに自信を持ってマナーを実践できるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。
受講生へのメッセージ	前後期終了後にマナープロトコール3級検定を受験する授業です。合格することで自信につながり、就職活動時にもアピールができます。また、1年間かけてマナーを学ぶことで好印象を与えるマナーが実践できるようになります。1年間頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
マナー＆プロトコールの基礎知識	

授業シラバス

授業科目名	ホスピタリティマナー	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	マナー・プロトコールⅡ					
開講科目英名	Manor protocol Ⅱ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員・実務者経験】
 関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケッカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】
 日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】
 ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
 ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

回数	授業計画・内容
1回目	食事のマナー①: テーブルマナーの基本、和食のマナー、日本料理の基本知識、食事のいただき方、美しい箸使いについて説明できるようになる
2回目	食事のマナー②: 食事中のタブー、和室の作法、西洋料理のマナー、テーブルセッティング、カトラリーの使い方、食事のいただき方について説明できるようになる
3回目	食事のマナー③: 中国料理と各国料理のマナーについて説明できるようになる 確認テスト①: 五章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 「冠」のしきたり①: 冠婚葬祭、陰陽道の考え方、日本の主な通過儀礼について説明できるようになる
4回目	「冠」のしきたり②: 出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、その他のお祝い事について説明できるようになる 確認テスト②: 七章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 「婚」のしきたり①: 結婚の変遷、結納のマナーについて説明できるようになる
5回目	「婚」のしきたり②: 挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー、ふくさの使い方について説明できるようになる 確認テスト③: 八章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 「葬」のしきたり①: 仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀について説明できるようになる
6回目	「葬」のしきたり②: 葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて説明できるようになる 確認テスト④: 九章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 「祭」のしきたり: 1月～2月の行事について説明できるようになる
7回目	「祭」のしきたり: 3～12月の行事の行事について説明できるようになる 確認テスト⑤: 十章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる
8回目	模擬試験問題への取り組みにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる
9回目	検定直前対策テスト①: 序章～三章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 検定直前対策テスト①の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる
10回目	検定直前対策テスト②: 四章～五章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 検定直前対策テスト②の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる
11回目	検定直前対策テスト③: 七章～十章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 検定直前対策テスト③の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる
12回目	模擬試験問題への取り組みにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる
13回目	★後期試験: 1～12回目の授業を振り返り、試験を行う
14回目	後期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 模擬試験問題への取り組みにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる
15回目	マナー・プロトコール検定3級 試験実施
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。
受講生へのメッセージ	前後期終了後にマナープロトコール3級検定を受験する授業です。合格することで自信につながり、就職活動時にもアピールができます。また、1年間かけてマナーを学ぶことで好印象を与えるマナーが実践できるようになります。1年間頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
	マナー＆プロトコールの基礎知識

授業シラバス

授業科目名	伝統文化	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	着付 I					
開講科目英名	Kitsuke I	授業形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

装道礼法着付学院で資格を取得後、複数の美容院で着付を担当する。ブライダル業界で新郎新婦列席者の着付及びアテンドをフリーで行っている。

【授業の学習内容】

数ある日本の伝統文化に関わりのある着物に関わる知識を深めることで広く伝統文化にふれ、着付という現代では専門的な技術を学ぶ。

【到達目標】

着物にまつわる知識や歴史を知り、着物や帯のたたみ方、浴衣の自装・他装の習得から長襦袢と袴の着物までの自装ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 ミニ講義「サービス業での着付けの重要性」 座礼、着物のたたみ方、準備を学ぶ。
2回目	【ペア練習①】デモンストレーション 浴衣の他装を学ぶ。
3回目	【ペア練習②】 浴衣の他装を学ぶ。
4回目	【ペア練習③】 浴衣の半幅帯の他装を学ぶ。
5回目	【ペア練習④】 ミニ講義「着物の歴史」 浴衣の他装ができるようになる。
6回目	【個人練習①】 浴衣の自装を学ぶ。
7回目	【個人練習②】 半幅帯の自装を学ぶ。
8回目	【個人練習③】 半幅帯の変わり結びができるようになる。
9回目	【個人練習④】 浴衣の自装ができるようになる。
10回目	【前期試験】 浴衣の自装テスト20分 筆記テスト15分
11回目	浴衣でカフェにお出かけ 着物の所作を学ぶ。(予定)
12回目	【袴の着物自装①】 ミニ講義「冠婚葬祭の着物」 長襦袢のたたみ方、着方を学ぶ。
13回目	【袴の着物自装②】 デモンストレーション 着物の着方を学ぶ。
14回目	【袴の着物自装③】 ミニ講義「着物の模様・染」 着物の着方を学ぶ。
15回目	【袴の着物自装④】 着物までの自装ができるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・自装テスト+筆記テスト
受講生へのメッセージ	実技中心の授業となります。復習しながら新しいことを積み重ねて習得するので、毎回の授業の流れがとても大切になります。一緒に頑張りましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
足袋、肌襦袢、長襦袢、補正タオル 髪が長い方は必ず髪ゴム・髪留めをもってきてください。	

授業シラバス

授業科目名	伝統文化	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	着付Ⅱ					
開講科目英名	Kitsuke Ⅱ	授業形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

装道礼法着付学院で資格を取得後、複数の美容院で着付を担当する。ブライダル業界で新郎新婦列席者の着付及びアテンドをフリーで行っている。

【授業の学習内容】

数ある日本の伝統文化に関わりのある着物に関わる知識を深めることで広く伝統文化にふれ、着付という現代では専門的な技術を学ぶ。

【到達目標】

着物にまつわる知識や歴史を知り、着物や帯のたたみ方、浴衣の自装・他装の習得から長襦袢と袴の着物までの自装ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	名古屋帯のたたみ方 太鼓結びの自装を学ぶ。
2回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
3回目	ミニ講義「織の着物・織の帯・染の帯」 名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
4回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
5回目	袴のたたみ方 袴の他装を学ぶ。
6回目	袴の他装ができるようになる。
7回目	ミニ講義「季節の舞妓かんざし」 帯揚げ・帯締めの変り結びができるようになる。
8回目	名古屋帯で変り結びの他装ができるようになる。
9回目	ミニ講義「家紋」 名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
10回目	着物の自装テスト(15分)
11回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
12回目	名古屋帯で太鼓結びの自装ができるようになる。
13回目	名古屋帯の自装テスト (帯・帯揚げ・帯締め 25分)
14回目	振袖の他装を学ぶ。
15回目	振袖の他装を学ぶ。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・自装テスト+筆記テスト
受講生へのメッセージ	実技中心の授業となります。復習しながら新しいことを積み重ねて習得するので、毎回の授業の流れがとても大切になります。一緒に頑張りましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
足袋、肌襦袢、長襦袢、補正タオル 髪が長い方は必ず髪ゴム・髪留めをもってきてください。	

授業シラバス

授業科目名	マーケティング・セールス	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	マーケティング I					
開講科目英名	Marketing I	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。

【授業の学習内容】

企画立案は、ただ単にアイデアを考えれば良いというものではありません。そこにはいくつかの段階とノウハウがあります。それらの段階とノウハウを身に着け、プランナーとしての基礎能力をつける。

【到達目標】

サービス内容や新しいプランなどを的確かつ効率的に組立て、提案できるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 企画立案から企画書作成、プレゼンテーションまでの流れと概要を理解する
2回目	【マーケティング①】 課題を構成する要素を分析し、定義を明確にできるようになる
3回目	【マーケティング②】 分解要素をリサーチし、課題を再定義できるようになる
4回目	【マーケティング】 業界の動向やトレンドを調査し、ポジショニングできるようになる
5回目	【コンセプト】 ミッションとコアアイデアを立案できるようになる
6回目	【ブレインストーミング①】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
7回目	【ブレインストーミング②】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
8回目	【ブレインストーミング③】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる
9回目	【ブレインストーミング④】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる <演習実施>
10回目	【企画立案】 アイデアの実現性を検討し、プロジェクトへ昇華できるようになる
11回目	【プレゼン資料の作成】 プレゼン資料の効果的な構成を理解し、土台を作れるようになる
12回目	【プレゼン資料の作成】 効果的なプレゼン資料が作成できるようになる
13回目	【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習①とフィードバック <演習実施>
14回目	【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習②
15回目	【振り返り】 半年間の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	これから創造力が重要性を増す時代です。 創造力は生まれ持った才能ではなく、知識と技術で向上します。 入社した時点で、戦力になれるよう準備しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
パワーポイントのスライド、模造紙、付箋紙、カラーペン	

授業シラバス

授業科目名	マーケティング・セールス	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	マーケティングⅡ					
開講科目英名	MarketingⅡ	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。						
【授業の学習内容】						
企画立案は、ただ単にアイデアを考えれば良いというものではありません。そこにはいくつかの段階とノウハウがあります。それらの段階とノウハウを身に着け、プランナーとしての基礎能力をつける。						
【到達目標】						
サービス内容や新しいプランなどを的確かつ効率的に組立て、提案できるようになる。						

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション) マーケティングの全体像を理解する
2回目	【購買心理①】 購買意欲を刺激する心理を理解し、効果的なアプローチができるようになる
3回目	【購買心理②】 購買意欲を刺激する心理を理解し、効果的なアプローチができるようになる
4回目	【インターネットマーケティング①】 インターネットマーケティングの基礎を理解し、実践できる知識をつける
5回目	【インターネットマーケティング②】 インターネットマーケティングの基礎を理解し、実践できる知識をつける
6回目	売り方を変えて業績を伸ばした企業を研究し
7回目	売り方を変えて業績を伸ばした企業例
8回目	【セールスライティング①】 効果的なセールスライティングを学び、実践できるようになる
9回目	【セールスライティング②】 効果的なセールスライティングを学び、実践できるようになる
10回目	【グループワーク 課題①】 学んだマーケティング手法を用いて、課題対象のマーケティング案を考案する
11回目	【グループワーク 課題②】 学んだマーケティング手法を用いて、課題対象のマーケティング案を考案する
12回目	【グループワーク 課題③】 学んだマーケティング手法を用いて、課題対象のマーケティング案を考案する
13回目	【グループワーク 発表】 課題対象のマーケティング案を発表する (レポート提出)
14回目	【一年間の振り返り】 前期の振り返り
15回目	【一年間の振り返り】 後期の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	マーケティングはあらゆる企業にとって必要な活動です。 学生時代にしっかり基礎を抑えておきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
筆記用具	

授業シラバス

授業科目名	サービススキル	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	料飲・レストランオペレーションⅠ					
開講科目英名	Food & Beverage・Restaurant OperationⅠ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、及び(株)リゾートトラストを経て、現在 ㈱北山貿易のホテル部門に在籍中。神戸ベイシェラトンにおいてはシェラトンのブランドトレーナーをしていました。料飲部を中心に宿泊部、人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。						
【授業の学習内容】						
レストラン、バー、ラウンジおよびバンケットを中心に動作、知識を学びます。また料飲部以外の他部門のオペレーションにも言及し、料飲部がホテル組織のなかでどう位置付けがなされているのかなども学びます。レストランでのサービス動作の習得のみに終わらず企業人としての基礎的な心構えや所作をも身につける授業にしたいと考えています。						
【到達目標】						
FBオペレーションに携わるうえで必要な基礎知識と動きを習得する。さらにキャプテンクラスをサポートできる程度の知識の習得を目指します。						

回数	授業計画・内容
1回目	開講に際して講師挨拶と自己紹介、学生全員の自己紹介自己PRなどを行う ホテルの業種や業界、組織図について知ることができる
2回目	ソーシャルスタイル(4つの個性、特徴)を学び自分を知る、さらに相手を知ることができる
3回目	基本の動作および接客用語を実際に使い習得することができる(接客用語と礼、歩き方、ノック、お迎え、お見送りまで)
4回目	OE(シルバーウェア、チャイナウェア、グラスウェア、リネン)、FF&Eなどの用語や用途、取り扱いが理解できる サービススタンダードとは何かを理解できる
5回目	レポーティングと5W1Hの重要性及び”ホウレンソウ”とは何かを知ることができる プレゼンテーションスキルを身につけることができる (相手にメッセージを伝える技術)
6回目	基本的なテーブルマナーを知ることができる
7回目	レストランとバンケットの基本のテーブルセッティングを習得できる
8回目	メニューとオーダーテイク、ドリンクサービスを体験しそれを理解できる (コーヒーカップ、ソーサー、ゴブレット、タンブラー、ワイングラスなどの扱い方)
9回目	オーダーテイクとフードサービスを体験しそれを理解できる (プレート、プラッター、サーバー、チューリンなどの扱い方)
10回目	予約と電話応対を実際に行い重要なポイントを習得できる
11回目	FBサービスの一連の動作確認とゲストとの会話を体験し重要なポイントを習得できる
12回目	コンプレイン、クレームとは何か、そしてどのように対応をするのかを理解できる 課題指示
13回目	課題について各自でプレゼンを行い、講評を行う
14回目	振り返りと前期試験
15回目	試験についてのフィードバック 後期の学習内容について
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満し、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	全員参加を基本とします。グループワークやアクティビティも取り入れ授業を進めていきます。 講師からの一方通行ではなく出席者には必ず発言を求め、動きを求める授業にしたいと考えます。 一流のホテルエを目指して頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
テキスト、OE、リネンなど	

授業シラバス

授業科目名	サービススキル	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	料飲・レストランオペレーションⅡ					
開講科目英名	Food & Beverage・Restaurant OperationⅡ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			2		
【担当教員、実務者経験】						
<p>1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、及び(株)リゾートトラストを経て、現在 ㈱北山貿易のホテル部門に在籍中。 神戸ベイシェラトンにおいてはシェラトンのブランドトレーナーをしていました。 料飲部を中心に宿泊部、人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>レストラン、バー、ラウンジおよびバンケットを中心に動作、知識を学びます。また料飲部以外の他部門のオペレーションにも言及し、料飲部がホテル組織のなかでどう位置付けがなされているのかなども学びます。 レストランでのサービス動作の習得のみに終わらず企業人としての基礎的な心構えや所作をも身につける授業にしたいと考えています。</p>						
【到達目標】						
<p>FBオペレーションに携わるうえで必要な基礎知識と動きを習得する。さらにキャプテンクラスをサポートできる程度の知識の習得を目指します。</p>						

回数	授業計画・内容
1回目	ホテルにおけるブランド&カルチャーとは何かを理解することができる
2回目	ホテルにおけるブランド&カルチャーとは何かを理解することができる
3回目	コーポレートガバナンス・コンプライアンス及びリスクマネジメントとは何かを理解することができる
4回目	コーポレートガバナンス・コンプライアンス及びリスクマネジメントとは何かを理解することができる
5回目	オペレーションとマネジメントとは何かを理解することができる
6回目	オペレーションとマネジメントとは何かを理解することができる
7回目	スタンダードオペレーティングプロシージャー(SOP)とホテルポリシーとは何かを理解することができる
8回目	スタンダードオペレーティングプロシージャー(SOP)とホテルポリシーとは何かを理解することができる
9回目	品質管理、クオリティーコントロールとは何かを理解することができる
10回目	品質管理、クオリティーコントロールとは何かを理解することができる
11回目	FBサービスの一連の動作確認とゲストとの会話を体験し重要なポイントを習得できる
12回目	コンプレイン、クレームとは何か、そしてどのように対応をするのかを理解できる 課題指示
13回目	課題について各自でプレゼンを行い、講評を行う
14回目	振り返りと後期試験
15回目	試験についてのフィードバック 後期の学習内容について
評価基準	<p>A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される</p>
評価方法	<p>本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。</p>
受講生へのメッセージ	<p>全員参加を基本とします。グループワークやアクティビティも取り入れ授業を進めていきます。 講師からの一方通行ではなく出席者には必ず発言を求め、動きを求める授業にしたいと考えます。 一流のホテルエを目指して頑張りましょう。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	
テキスト、OE、リネンなど	

授業シラバス

授業科目名	企業研究	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	企業研究 I					
開講科目英名	Company Research I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					
【担当教員 実務者経験】						
ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。 CGBサーヴィスコンクール日本大会 審査員						
【授業の学習内容】						
企業(ホテル)のプロモーションを実際に企画提案することにより、企画提案書の立案、作成、プレゼンテーションを学ぶ。						
【到達目標】						
ホテルのプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、プレゼンテーション力を高める。						

回数	授業計画・内容
1回目	【科目概要・目標解説】科目の概要、目標解説を行い、プロジェクトの目的を確認することができる。
2回目	【テーマ発表】 企業訪問を行い、見学、課題説明を受けた後、情報収集、ヒアリング、質疑応答を行い、プロジェクトをスタートさせる。
3回目	【現地視察】 クライアント元を視察し、プロジェクトに必要な情報を収集できる。
4回目	【現地視察】 クライアント元を視察し、プロジェクトに必要な情報を収集できる。
5回目	【研究概要の構築】 企画書の目的設定を行う。
6回目	ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出を行い、個人のプロジェクト開始の土台を形成することができる。
7回目	プランの絞込みを行い、提案内容の実行できる方法論を策定できる
8回目	予算を計算し、スケジュールの策定を行うことができる。
9回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認を行うことができる。
10回目	問題点の整理を行い、提案内容(プラン)の決定、提案のメリット構築を行う。
11回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法を決定させることができる。
12回目	提案書の作成ができる
13回目	問題点の整理、提案内容、提案のメリット、予算、スケジュールを再度確認し決めることが出来る。また 問題点とその解決方法を考えることができる。
14回目	問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。
15回目	問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。
16回目	プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。
17回目	最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる
18回目	【第1回プレゼンテーション】 ・プレゼンテーション ・フィードバックを行い、プランの見直し、不足点をあらい出すことができる。
19回目	【プレゼンテーション内容精査】 企画書の目的設定精査、ゲストターゲットの設定精査を行う。
20回目	前回のプレゼンテーションの反省を踏まえ、プレゼンテーション・プランの最終決定させることができる。
21回目	提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。
22回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。
23回目	提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。
24回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。
25回目	プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。
26回目	最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる
27回目	【最終プレゼンテーション】 ・企業様の前でプレゼンテーションを行い、採用プランの決定を行う。 ・フィードバックをいただき、改善点を見つめなおすことができる。
28回目	フィードバックを踏まえ、プレゼンテーションを改善できる
29回目	改善したプレゼンテーションを改めて発表し、他者の発表に対するフィードバックを行うことができる
30回目	プロジェクトを通して学んだ内容、授業を通じて成長した点を確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	Global Communication I						
開講科目英名	Global Communication I	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U1.1 be動詞、代名詞の所有格を使って、知人・家族について話す
2回目	U1.2 「～のもの」を表す表現を使って、所有物について話す
3回目	U1.3 挨拶をして会話を始める練習をする 興味や驚きを表す表現を練習する
4回目	U1.4 自己紹介をする 職場でのフォーマルなEメールを読む、書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング評価: ロールプレイ・プレゼンテーション「人と共通していることについて」 ・前期発表と連動する内容
6回目	U2.1 [Wh-question]を練習する 一般動詞の疑問文、否定文を使って、習慣・ルーティンについて質問する、返答する
7回目	U2.2 指示代名詞を使って、仕事や勉強をする空間について話す・質問する
8回目	U2.3 意思疎通に問題があったことを説明する 繰り返しを求める表現を練習する
9回目	U2.4 ポッドキャストについての意見を読む、書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて」 ・前期発表と連動する内容
11回目	U3.1 「現在進行形」を使って、今まさに起こっていることについて話す
12回目	U3.2 「現在進行形」「現在形」を練習する スポーツ、運動について話す
13回目	U3.3 知らない情報を人に尋ねたり、情報を読み取ったりできるよう、会話を練習する
14回目	U3.4 サービスや会社に対するコメントを読む、書く
15回目	U3.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「フィットネスプログラムを作る」 ・前期発表と連動する内容
16回目	U4.1 「現在進行形」を使って、これから予定している計画について話す
17回目	U4.2 目的格代名詞を使って、人に物をプレゼントする会話を練習する
18回目	U4.3 誰かを誘う、人から誘われた際の会話を練習する 誘いを断る理由を説明する
19回目	U4.4 未来のイベント案内を読む、書く イベントを企画してアナウンスメントする
20回目	U4.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「プレゼントを選ぶ」 ・前期発表と連動する内容
21回目	U5.1 過去の出来事について話す 自分の意見を述べる; 自分の気持ちを相手に伝える
22回目	U5.2 過去の出来事について質問する 過去形の疑問文、否定文を練習する
23回目	U5.3 適切な英語表現を用いて、相手を祝ったり、慰めたりする会話を練習する 自分の認識が正しいかどうかを確認する
24回目	U5.4 投稿に対して、賛成・反対のコメントを書く
25回目	U5.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「過去の有名な出来事をまとめる」 ・前期発表と連動する内容
26回目	U6.1 [be going to]を使って、買い物に行くことについて会話する
27回目	U6.2 特定・不特定の物や人の数量を表し、買い物習慣について話す
28回目	U6.3 お店で買いたい物、探している物を伝える会話を練習する 物事の言い方を英語で聞く
29回目	U6.4 新しい商品の説明を読む、Vlog(ビデオブログ)のためのスクリプトを書く
30回目	U6.5 Time to Speak: 前期発表
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語 II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	Global Communication II						
開講科目英名	Global Communication II	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U1.1 身近な人を表す言葉を学ぶ be動詞の使い方、代名詞の所有格を学ぶ
2回目	U 1.2 「～のもの」を表す使い方を学ぶ 「誰のものですか」の聞き方を学ぶ
3回目	U1.3 挨拶や会話を始める表現を学ぶ、驚きの気持ちを表す表現及び関心を示す表現を学ぶ /l/の発音を学ぶ
4回目	U1.4 Eメールの基本ルールを学ぶ 丁寧な書き方を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 一般動詞(現在形)の基本的な使い方を学ぶ 一般動詞の疑問文、否定文、頻度を尋ねる文を学ぶ
7回目	U2.2 デスク上にある「物」についての単語を学ぶ 名詞の代わりに[this, that, these, those]の使い方を学ぶ
8回目	U2.3 トラブルが起こった時、繰り返しを求める表現を学ぶ /h/の発音を学ぶ
9回目	U2.4 日常のトピックについての語彙を学ぶ 相手の意見を聞く、またそれに対し意見を述べる表現を学ぶ
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 「現在進行形」を学ぶ・復習する 今まさに起こっていることを表現する
12回目	U3.2 動きを表す表現を学ぶ 現在形や現在進行形の違いを学ぶ
13回目	U3.3 情報を得るため、必要な表現を学ぶ、聞き返す、もう一度言ってほしい時の表現を学ぶ /ou/と/o/の発音を学ぶ
14回目	U3.4 意見を表す表現を学ぶ 公共サービスに関する意見聞き、内容を理解する
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
16回目	U4.1 be動詞+～ingを使った未来の表現を学ぶ
17回目	U4.2 贈り物を人に渡したり、もらった際の表現を学ぶ 目的格代名詞の適切な使い方を学ぶ
18回目	U4.3 誰かを誘う、人から誘われた際の表現を学ぶ /v/の発音を学ぶ
19回目	U4.4 未来のイベント案内の表現を学ぶ 発音(Reduction)を学ぶ
20回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
21回目	U5.1 過去の思い出や出来事について話す際の表現を学ぶ
22回目	U5.2 一般動詞の過去形の疑問文、否定文を学ぶ 様々なライフイベントの表現を学ぶ
23回目	U5.3 誰かを祝ったり慰めたりする時の表現を学ぶ 相手の言ったこと確認する時の表現を学ぶ、シラブル(音節)とストレス(発音)を学ぶ
24回目	U5.4 外国での体験談を読んで理解を深める 短い投稿に対して、同意・反対の表現を学ぶ
25回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
26回目	U6.1 買い物に関連した単語や熟語を学ぶ [be going to + 動詞の原形]を復習する
27回目	U6.2 買い物時のフレーズを学ぶ 「限定詞」の使い方を学ぶ、数えられる名詞、数えられない名詞の数量の表し方を学ぶ
28回目	U6.3 欲しいものを伝える表現を学ぶ、名称がわからない物の聞き方を学ぶ 会話内の単語レベルのストレス(発音)についてを学ぶ
29回目	U6.4 お金にまつわるストーリーを聞く、読む 代名詞に注意しながら文を読む
30回目	U6.5 Unitの復習 学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語 II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	Global Communication II (O)						
開講科目英名	Global Communication II (O)	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U7.1 オンデマンド: 食べ物を表す単語を学ぶ、「数量詞」(加算名詞・不可算名詞)を学ぶ 対面: 数量詞を使って、一番好きな食べ物について話す
2回目	U7.2 オンデマンド: 食品や味の調理方法の英単語を学ぶ、「動名詞」と「to不定詞」を学ぶ 対面: 食品の味や調理方法について話す、動名詞とto不定詞を使った会話を練習する
3回目	U7.3 オンデマンド: 料理を注文する際の表現を学ぶ、言いたいことを明確に伝える表現を学ぶ、/g/の発音を学ぶ 対面: [I mean]を使って、会話を練習する、飲食店で料理を注文する会話を練習する
4回目	U7.4 オンデマンド: オンライン上の記事を読み、コメントを投稿する、意見を述べる表現 [I think], [I don't think] を学ぶ 対面: オンライン記事の内容を読み、自分の意見をコメントをする
5回目	U7.5(対面のみ): スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティを計画する」
6回目	U8.1 オンデマンド: 旅行に関わる単語を学ぶ、接続詞[if / when]の使い方を学ぶ 対面: 自分の町で何をするのかについて話す
7回目	U8.2 オンデマンド: 移動に伴う様々な動きを表す表現を学ぶ、[to/for]の使い方を学ぶ 対面: [to / for]を使って、理由を説明する、過去に行った旅行について話す
8回目	U8.3 オンデマンド: アドバイスや提案する際の表現、その反応の表現を学ぶ、母音の発音パターンを学ぶ 対面: 適切なアドバイスや提案する会話を練習する、アドバイスに対する反応を練習する
9回目	U8.4 オンデマンド: 旅行に関する適切なアドバイスを述べる表現を学ぶ、語尾の上げ下げ(発音)について学ぶ 対面: 海外旅行・生活についてのアドバイスを読む、書く
10回目	U8.5(対面のみ): スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「短期旅行のプランを立てる」
11回目	U9.1 オンデマンド: アクセサリーに関する英単語を学ぶ、「形容詞の比較級」を学ぶ 対面: いろいろな物を比較する会話を練習する
12回目	U9.2 オンデマンド: 顔や髪などの特徴に関する英単語を学ぶ、「形容詞の最上級」を学ぶ 対面: [形容詞の最上級]を使って、写真に写った人について話す
13回目	U9.3 オンデマンド: アドバイスをしたり、受けたりする際の表現を学ぶ、/ə/の発音を学ぶ 対面: [I guess]を使って、アドバイスを相手に求める、またはアドバイスをずる会話を練習する
14回目	U9.4 オンデマンド: 写真についての説明に使う表現を学ぶ 対面: 写真についての説明を読む、書く
15回目	U9.5(対面のみ): スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「広告を作り、発表する」
16回目	U10.1 オンデマンド: 職業に関する単語を学ぶ、[have to]の使い方を学ぶ 対面: 仕事でどのように危険を避けるかを話し合う
17回目	U10.2 オンデマンド: 怪我や病気の表現を学ぶ、未来に起こるかもしれないことを予測する表現を学ぶ 対面: これから先のことについて、適切に表現できるよう、練習する
18回目	U10.3 オンデマンド: 相手の体調を尋ねる、症状を述べる際の表現を学ぶ、語末の子音の発音を学ぶ 対面: [It feels like (it's like)]を使って、体調不良や怪我の症状などについて話す
19回目	U10.4 オンデマンド: [be afraid of]などの表現を学ぶ 対面: 将来の自分に向けたメッセージを読む、書く
20回目	U10.5(対面のみ): スピーキング評価: ロールプレイ・プレゼンテーション「リアリティ番組を計画する」
21回目	U11.1 オンデマンド: インターネット上で使用するフレーズを学ぶ、「現在完了形(経験)」を学ぶ 対面: 今までに経験したことや経験したことのないことについて話し合う
22回目	U11.2 オンデマンド: ソーシャルメディアで用いる単語やフレーズを学ぶ、「現在完了形」と「過去形」の違いを学ぶ 対面: ソーシャルメディアについての内容を読む、話す、質問する
23回目	U11.3 オンデマンド: お願い(頼み事)をする、許可を得る際の表現を学ぶ、/n/と/m/の発音を学ぶ 対面: 誰かに頼み事をしたり、許可を得ることができるよう、練習する、または、その反応をする表現を練習する
24回目	U11.4 オンデマンド: 情報画像、インフォグラフィック(図、表など)を用いたブログを読む、 [I always thought.../I think it's interesting that.../Who cares?] などの表現を学ぶ 対面: インフォグラフィックを読む、コメントを書く
25回目	U11.5(対面のみ): スピーキング評価: ロールプレイ・プレゼンテーション「ビデオ、またVlogを作る」
26回目	U12.1 オンデマンド: 天気に関する単語を学ぶ、[be like]の疑問文での使い方を学ぶ 対面: [be like]を使って、天気について話す
27回目	U12.2 オンデマンド: 風景や都市の景観を表す英単語を学ぶ、「関係代名詞(who, which, that)」の使い方を学ぶ 対面: 関係代名詞を使って、場所、人、物事を説明する
28回目	U12.3 オンデマンド: 道を尋ねる、また道を教える際の表現を学ぶ、単語の始めの/w/の発音を学ぶ 対面: 道を尋ねる、また道を聞かれた時に答える会話を練習する
29回目	U12.4 オンデマンド: 手順を説明する際に使用する順序を表す単語を学ぶ、/t/の音が/d/寄りになる時の発音について学ぶ 対面: 簡単な指示文を書く
30回目	学期末発表
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	料飲オペレーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	料飲・レストランオペレーションⅢ					
開講科目英名	F&B Operation Ⅲ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャペル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャペル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランのグループ長に就任 ホテル32年勤務のうち 2023年人材会社 株式会社ホテリアスタフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格)ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級						
【授業の学習内容】						
初めは、ホテルから外食産業・その他幅広いレストランに興味を持つように全般的な概要で机上での講義形式で行います。また夏休みのインターンシップに向けてサービス基本実践の演習で各自基礎を習得させます。次にHRS3級の実技試験の概要を説明し実際の演習で各自練習し試験に備える授業を行い、最後に実技試験のシュミレーションを行うことで緊張感を持って生徒が授業に取り組めるように致します。						
【到達目標】						
レストランに関して興味を持ってもらうため、料理や飲み物・サービスなど幅広く奥が深いことを認識してもらいます。次に実践演習で初心者の実技習得を目指します。そして最終はHRS3級実技試験を実際に体験し 試験に必要なスキル課題を明確にしてもらうことを最終の目標に致します。						

回数	授業計画・内容
1回目	自己紹介及び生徒の入学した動機や意気込みを発表しながら全員でコミュニケーションを図る。元気で爽やかな挨拶が出来るようになる。
2回目	おじきの仕方から接客用語唱和 言葉遣いの基本マナーを学び 習得出来る
3回目	テーブルマナー講座@セントレジス大阪
4回目	ホテルのレストランを知る。おすすめ料理のセールストークを発表
5回目	アメリカンブレイクファーストを学び、簡単なオーダーテイクが出来るようになる
6回目	レストランの業務の流れを知りトレーサーサービスの基礎を全員が習得する
7回目	テーブルセッティング方法の習得する(テーブルクロス チャイナ シルバー グラス ナプキン カスターセット)
8回目	オーダーテイクの留意点を学び及び実習 全員がスムーズにオーダーテイク出来るようになる
9回目	西洋料理フルコースの構成の把握と基礎的なサーバーサービスの実習 技術取得
10回目	サービス時の応用対応例紹介とワイン お水サービスの実習及び技術習得
11回目	苦情の種類 処理方法 基本的な苦情処理が出来るようになる
12回目	アメリカンブレイクファースト連のサービス流れを把握出来るようになる
13回目	朝食サービス (HRS実技試験対応) 基本的なサービスを習得
14回目	前期試験シュミレーション
15回目	前期試験試験フィードバック
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	レストラン実務で必ず役立つ実技を多く取り入れ 講義もこちらからの一方的な教えではなくアクティブラーニングを取り入れ 記憶に残る授業を致します 90分アツと言う間に時間が経ちます 真剣そして楽しくレストランオペレーションを皆さんと共に学びましょう!!
【使用教科書・教材・参考書】	
西洋料理 料飲接客サービス技法	

授業シラバス

授業科目名	ホテル宿泊オペレーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	宿泊オペレーション I					
開講科目英名	Operations for Accomodation I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

ホテルの宿泊部門にて約15年勤務後に営業支配人を經由しながら本社営業部長にて約6年勤務後に自身にてW-makesを開業し、その後法人にて株式会社CRIOを立ち上げて現在はホテル業界のコンサルタント業務全般ならびに企業の社員研修等を行い、ホテル業界への人材育成部門を中心に活動しております。

【授業の学習内容】

ホテル業界の宿泊部門の解説及びオペレーションによる実施にて宿泊部門について勉強して頂き、授業後半部分においては宿泊予約や営業企画などの商品造成などをグループワークにて意見を出し合いグループとしての見解の発表をして頂きます。

【到達目標】

序盤はホテル業界とは？というテーマの元で幅広く理解して頂き、終盤部分ではグループ内でのリサーチ力&企画力&伝達力を学び、後々の就活での自己PRの作成や志望動機の発表などに生かせる授業にしたいと思えます。

回数	授業計画・内容
1・2回目	①講師の自己紹介並びに生徒の自己紹介 ②授業目的の説明
3・4回目	①ホテルの宿泊フロントサービス課にある部署について解説出来るようになる。②ドアマンの必要性を解説してドアマン業務を理解して大まかな業務説明が出来るようになる。
5・6回目	①ドアマンの主な業務及び必要な知識、他部署との連携など解説する。後半部分はドアマンになる為のCityinfoを習得する。
7・8回目	①ベルマンの歴史、ホテルのロビー内での待機中の要点&役割を理解する。②ベルマンの主な業務及び接客サービスを解説して理解する。ベルマンの小テストに使うトークスクリプト配布して暗記をする。
9・10回目	①小テストにおけるベルボーイの一連の動作を解説する。ベルマンの動きを習得出来るようになる。②4回目における授業での反復練習を行い来週のテストに向けて個々のレベルを上げるようになる。
11・12回目	①ベルマンの小テストにおける最終確認を行い ベルマンの習得テストの実施を行う。 ②ベルボーイの疑似実務体験
13・14回目	①コンシェルジュの歴史と資質 必要なスキル求められるや行動を理解し、コンシェルジュの業務説明が出来るようになる。コンシェルジュの実務疑似体験を行い ②コンシェルジュの仕事のレベルを理解する。(各個人にて情報収集を行う。)
15・16回目	①7回目の授業を今度はグループワークにて行い、グループとしての意見の統合や整合性を理解する。
17・18回目	仮想設定しているホテルにて勤務という事からお客様への情報サービスを行う定義を理解する。それにより、リサーチ力並びに伝達力を養うようにして一部のコンシェルジュの業務が出来るようになる。
19・20回目	①客室係(ハウスキーパー)部門の業務とサービスに関する知識を理解する。教科書にて解説 PART①
21・22回目	客室係(ハウスキーパー)の復習テスト 客室の名称におけるそれぞれの呼称をテストする。②ホテル客室係の勤務においては、特に報連相が必要な業種であり、表現力及び伝達力のトレーニングを行い、いずれの力も身につけるようになる。
23・24回目	フロントデスクの仕事① レセプションの業務内容を解説することにより、レセプション業務を説明できるようになる。 PART①
25・26回目	フロントデスクの仕事② インフォメーションの業務内容を解説することにより、インフォメーション業務を説明できるようになる。 PART①
27・28回目	グループディスカッションにて大阪市内のホテルに勤務という想定の下で宿泊プランの造成&簡単な資料作成もして発表。 PART1
29・30回目	グループディスカッションにて大阪市内のホテルに勤務という想定の下で宿泊プランの造成&簡単な資料作成もして発表。 PART2
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	基本技術を身につけることが重要です。ホテル業界の基本動作も覚えて行きましょう。 授業後には、習ったことを復習をして、毎回の授業に出席してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
ホテルテキスト宿泊Ⅰ フロント・オフィス編 ホテルテキスト宿泊Ⅱ フロント・サービス編	

授業シラバス

授業科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
開講科目名	国際観光 I						
開講科目英名	International Tourism I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

1988年から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる
 ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	理解度確認テスト実施
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験でいる様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
	スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語) ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

授業科目名	リゾート・ホテルオペレーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	ウォーキング I						
開講科目英名	Walking I	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起る健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。							
【授業の学習内容】							
「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。							
【到達目標】							
人前にて実際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	講師自己紹介、学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目	正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
4回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
5回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
6回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけくわて、トータル的に美しく歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
7回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけくわて、トータル的に美しく歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
8回目	途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで美しく歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
9回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで美しく歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
10回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで美しく歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
11回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで美しく歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
12回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで美しく歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
13回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで美しく歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
14回目	フィードバックを行い、試験できていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。
15回目	前期の総復習ならびに前期終えての感想、反省点など後期の目標を改めて落とし込み後期への意識を高めることができるようになる。
16回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
17回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
18回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
19回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
20回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
21回目	前期に続き姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手ぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕事一つで表現できるようになる。
22回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようになる。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行えるようになる。(手鏡ご持参ください。)
23回目	前期に続き姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りポイントやコツ、並びに物のひろい方、書類の渡し方・受け取り方など日常シーンでの仕事を綺麗にできるようになる。
24回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの敷きを学ぶことができるようになる。
25回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしくないマナーを理解してできるようになる。)
26回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。靴の取り扱い、お手入れ方法、磨き方が理解できるようになる。
27回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
28回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
29回目	フィードバックを行い、試験できていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。
30回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	地域創生	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
開講科目名	業界研究 I						
開講科目英名	Industry Reserch I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 1	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員、実務者経験】							
2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。報奨旅行の準備段階からの内勤業務や数千人規模のハワイツアーでの現地スタッフ業務も経験あり。現在は京都でのインバウンド向けサービスにも従事。							
【授業の学習内容】							
ホスピタリティ業界の中から…特に 観光に関連する3つの業界(旅行・ホテル・航空業界)について基本的な内容を学びます。 主な話題は①業界の特色 ②代表的企業と人気の理由 ③主な職種や働き方 ④基礎的な業界用語 ⑤最近の話題と今後の課題 です。 座学とあわせてフィールドワークとして実際の店舗や施設を訪れて見学をします。							
【到達目標】							
3つの業界それぞれの 特徴やお互いの結びつき、関係性が説明できるようになります。 実際の仕事の現場を見学することで、自分自身で各職業の役割や雰囲気、他業種との違いを体感できます。 今後、より深く学んでいくうえで必要な基礎的な知識を得ることができます。							

回数	授業計画・内容
1回目	<概要・ガイダンス> 授業展開と学ぶ目的が理解できる <ホスピタリティ産業とは> 授業で取り上げる3業界と、観光が持つ魅力>について知ることができるようになる
2回目	<観光3業界の結びつき> 旅行には何が必要なのか?それぞれの業界の役割を理解できるようになる
3回目	<観光産業の現状と課題>業界全体が抱える問題や最新のニュースなどから仕事の特殊性や意義を考えられるようになる
4回目	<旅行業界>座学:概要④⑤ 旅行パンフレットをもとに旅行会社の幅広い仕事内容について理解できるようになる
5回目	<旅行業界>座学:概要④⑤ MICE や IR とのつながりについて 知ることができるようになる
6回目	<旅行業界> フィールドワーク @旅行会社・対面カウンター店舗
7回目	<旅行業界> フィールドワーク @旅行会社・対面カウンター店舗
8回目	<宿泊業界>座学:概要①~③ ホテルと旅館の違いについて理解できるようになる
9回目	<宿泊業界>座学:概要④⑤
10回目	<宿泊業界> フィールドワーク @ホテル
11回目	<航空業界>座学:概要① 航空会社の役割の業務内容を理解することができる
12回目	<航空業界>座学:概要② 主な航空会社、アライアンス、空港コードを学ぶことができる
13回目	<航空業界>フィールドワーク @関西国際空港
14回目	<航空業界>フィールドワーク @関西国際空港
15回目	座学:ふりかえり。ホスピタリティ業界で働く意義や役割、求められる人材について考えられるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点~80点をB、79点~70点をC評価とし、69点~60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA~D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	MICE・インバウンド	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員
開講科目名	MICE基礎 I					
開講科目英名	MICE Basic I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】
2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。報奨旅行の準備段階からの内勤業務や数千人規模のハワイツアーでの現地スタッフ業務も経験あり。現在は京都でのインバウンド向けサービスにも従事。
【授業の学習内容】
MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。
【到達目標】
MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス-MICE産業とは？ 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界 MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	Convention(国際会議)ビジネスの世界 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	Exhibition(展示会)ビジネスの世界 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	MICE産業の歴史 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでどのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	MICE産業の現状①(世界、日本) 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	MICE産業の現状②(大阪) 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー) 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	MICE産業を支える施設①(国際会議場) MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	試験
14回目	国際会議場視察(国立京都国際会館) 日本最古で唯一の国立国際会議場である国立京都国際会議場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに細部を視察し理解を深める。
15回目	講義のレビュー
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	MICE・インバウンド	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
開講科目名	MICE基礎Ⅱ						
開講科目英名	MICE BasicⅡ	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科				2		
【担当教員、実務者経験】							
2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。報奨旅行の準備段階からの内勤業務や数千人規模のハワイツアーでの現地スタッフ業務も経験あり。現在は京都でのインバウンド向けサービスにも従事。							
【授業の学習内容】							
展示場・ホテル・ユニークベニュー等のMICEビジネス関連施設を実際に視察しながら、具体的な仕事内容についてイメージし、理解を深める。							
【到達目標】							
MICEビジネスが実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し、実務内容について説明できるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	MICE産業を支える施設と仕事②(展示場) 地域の経済産業の活性化に必要な不可欠装置である展示場の役割について理解を深める。
2回目	展示場視察(インテックス大阪) 西日本最大規模の本格的展示場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに展示場細部を視察し理解を深める。
3回目	MICE産業を支える施設と仕事③(ホテル) ホテルのMICE機能について知識を深め、どのようなMICEビジネスを受入れ運営するかについての理解を深める。
4回目	ホテル視察(ハイアットリージェンシー大阪・ヒルトン大阪) MICEビジネスの取り組みに実績のある外資系ホテルを訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受け、ホテルにおけるMICEビジネスの理解を深める。
5回目	国際会議の作り方 国際会議が実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し国際会議ビジネスについて理解を深める。
6回目	展示会の作り方 展示会がどのように企画され、実施されていくかの一連の流れを把握し展示会ビジネスについての理解を深める。
7回目	インセンティブ・イベントの作り方 MICEビジネスの中で一般ではほとんど触れることのないインセンティブ・イベントについて映像等の事例も踏まえ実態を把握し理解を深める。
8回目	国際会議におけるプロトコール 国際会議、特にハイレベル国際会議受入れに必要な不可欠なプロトコール(国際儀礼)についてG20サミットの実例などを踏まえて理解を深める。
9回目	ユニークベニューの開発と活用 ユニークベニューの概念や実際にどのように開発し活用していくか等を実例を踏まえて理解し、開発や活用に関する演習を行う。
10回目	ユニークベニュー視察(大阪市中央公会堂、大阪市立自然史博物館) 大阪で実際に活用されているユニークベニューを訪問し、担当者から施設の概要やMICEイベントを開催する際の留意点などをの説明を受け理解を深める。
11回目	MICEの統計、経済波及効果及びMICE商品の作り方 MICEビジネスの効果測定に必要な統計や経済波及効果について理解を深めるとともに経済波及効果を高めるために必要なMICE商品の作り方について理解する。
12回目	MICEの実務体験(インターンシップ) MICEトレードショー等の運営に一部携わり、展示商談会の運営を実体験する
13回目	試験・振り返り
14回目	IR(統合型リゾート)におけるMICEビジネス 今後の日本におけるMICEビジネスにとって重要な施設となるIR内のMICE施設に関して知識を深めるとともに、今後のビジネスへの発展性について理解を深める。
15回目	MICEビジネス概論総括 今年度の講義を振り返り理解を深めるとともに、次年度実施される海外実習でのMICEビジネス実務習得のポイントを認識する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	ILC
開講科目名	English Communication I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	後期
開講科目英名	English Communication I						
学科	ホスピタリティマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、対面授業で会話やライティングを通して実践する。

【到達目標】

自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないでやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション、自己紹介ができる ディスカッション: 留学中の経験・体験について
2回目	ディスカッション/ショートプレゼンができる オーストラリアと日本の文化の違いについて
3回目	ディスカッション/ショートプレゼンができる オーストラリアでの生活について(食べ物や住環境、交通などに関連した日本との違いについて)
4回目	ディスカッション/プレゼン(ホテルでの接客)ができる 予約、チェックイン、ホテル内の案内、チェックアウト・支払 等についてロールプレイ
5回目	ディスカッション/プレゼン(ホテルでの接客)ができる レストランでの接客。スタッフ/客に分かれてロールプレイ
6回目	ディスカッション/プレゼン(ブライダル/海外旅行)ができる Speak Now 2 Unit 21 旅行の経験について話す
7回目	ディスカッション/プレゼン(ブライダル/海外旅行)ができる Speak Now 2 Unit 26 お土産について話す
8回目	履歴書(英語)、パーソナルステートメント(英語/日本語)を書くことができる 面接ロールプレイの準備
9回目	面接ロールプレイを行う。 面接者/候補者に分かれてロールプレイを行う。
10回目	プレゼン準備①: テーマ「Wedding Anniversary Package Tour」 パッケージツアーに関するアイデアを出し合う。
11回目	プレゼン準備②: テーマ「Wedding Anniversary Package Tour」 プレゼンテーション(PPTやビジュアルイメージ等)の準備を行う。スクリプトを書くことができる
12回目	プレゼン準備③: テーマ「Wedding Anniversary Package Tour」 プレゼンのリハーサルを行う。スクリプト、発音などを確認する。
13回目	プレゼン実施: テーマ「Wedding Anniversary Package Tour」 各プレゼン後はQ&Aを行う。
14回目	授業内容での期末テストの準備ができる
15回目	期末テストの解説を通して学習進捗の確認ができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ホスピタリティヒューマンスキル	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田中 久美子
開講科目名	就職対策 I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	後期
開講科目英名	Employment Support I						
学科	ホスピタリティマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

自己分析・他者理解・相互理解による関係性構築力を目的とした能力開発のための研修やセミナーを行う。自分らしさを仕事に活かすことを目的とした就活のための自己分析シート作成セミナーを実施している。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。

【授業の学習内容】

職場や地域社会で多様な人たちと仕事をしていくための必要な基礎力を養うことを目的としている。特に重要なコミュニケーションを様々なコミュニケーションワークや教材を通じて、自分や相手との関係性の中で共に学び合う授業。「自己理解」「他者理解」「相互理解」を柱として進めていく。

【到達目標】

1. 社会人基礎力「考えぬく力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」を理解することができる。2. 社会人としての基本的なマナーを実践できるようになる。3. 主体的にコミュニケーションを取ることができるようになる。4. 自分と自分以外のコミュニケーションの取り方を理解し実践できるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション(社会人基礎力が理解できるようになる)
2回目	未来設計が分かるようになる(ビジョンマップ)
3回目	社会人に必要なマナーが分かるようになる①
4回目	社会人に必要なマナーが分かるようになる②
5回目	チームで働く①自分の事を知ることができるようになる(行動色彩心理学®診断①)
6回目	チームで働く②相手の事を知ることが出来るようになる(行動色彩心理学®診断②)
7回目	チームで働く③相手の事を知ることが出来るようになる(行動色彩心理学®診断②)
8回目	チームで働く④自分も相手も大切にしながら主体的に行動できるようになる
9回目	チームで働く⑤お互いの役割が理解できる
10回目	チームで働く⑥お互いへのコミュニケーションの取り方がわかるが分かる(ほめ方・しかり方)
11回目	コミュニケーション試験
12回目	自分と相手の違いを知ることができるようになる(読書ワーク ①)
13回目	お金について学ぶことができる
14回目	未来設計のための行動を主体的に促すことができるようになる
15回目	授業内容のまとめを行い、学習内容を確認できる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ビジネス	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	堤谷 孝人
開講科目名	ビジネス文書						
開講科目英名	Business Document	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科			2			

【担当教員、実務者経験】

フリーランス取材記者・編集者・デザイナー・カメラマン。雑誌編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材執筆、ブックレビュー、写真撮影、雑誌や書籍の編集・制作を行なう。

【授業の学習内容】

- ・様々なビジネス文書の書き方を学ぶ。
- ・社会マナーや考え方を身につける。
- ・社会人として即戦力で活躍するために必要な力を身につける。
- ・PCでの文書スキルを身に付ける(本講義の文書は基本的にPCで作成するものとする)

【到達目標】

- ・様々なビジネス文書が独力で書けるようになる。
- ・社会人としてのマナーや考え方、スキルを身につける。

回数	授業計画・内容
1回目	ビジネス文書と文書作成の基本(構成、時候の挨拶など)を、例文の模写を通じて理解し、活用できるようになる。PCで文書を作成する最低限の知識、スキルを身に付けることができるようになる。
2回目	挨拶状の書き方を理解し、就職内定の報告を含めた挨拶状を実際に書くことができるようになる。
3回目	お礼状の書き方を理解し、就職内定でお世話になった人へのお礼状を実際に書くことができるようになる。
4回目	手紙と封筒、メール文の書き方やマナーを知り、実際に書くことができる。文書など郵送のマナーについても理解することができる。
5回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を自分の思いや言葉で書くことができるようになる。
6回目	案内状の書き方を理解し、就職先等でのシミュレーションをしながら案内状を実際に書くことができるようになる。
7回目	祝い状の書き方を理解し、お客様への祝い状を実際に書くことができるようになる。
8回目	見舞い状の書き方を理解し、お客様へのや関係者への見舞い状を実際に書くことができるようになる。
9回目	暑中見舞いの書き方を理解し、お客様への書状を実際に書くことができるようになる。
10回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を自分の思いや言葉で書くことができるようになる。
11回目	お詫び状の書き方を理解し、お客様へのお詫び状を実際に書くことができるようになる。
12回目	依頼状の書き方を理解し、自分に関わる環境でのシミュレーションをしながら依頼状を実際に書くことができるようになる。
13回目	通知書と指示書の書き方を理解し、自分に関わる環境でのシミュレーションをしながら通知書と指示書を実際に書くことができるようになる。
14回目	報告書、始末書の書き方を理解し、自分に関わる環境でのシミュレーションをしながら報告書、始末書を実際に書くことができるようになる。
15回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を自分の思いや言葉で書くことができるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	サービススキル	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	茶道 I						
開講科目英名	Japanese Tea Ceremony I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科			2			

【担当教員、実務者経験】

1992年～2010年まで、グラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザイン、専門学校関連にてディレクション等の仕事を行う。華道歴25年、個人にて華道教室を行って10年。茶道歴17年、茶道教室を行って4年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。

【授業の学習内容】

茶道全般にわたる基礎事項(あいさつ、おじぎ、立ち居振る舞い)と・お茶お菓子のいただき方、茶道の基本、薄茶のたて方を学びます。また日常生活において異空間の時間(実習)と感じると思います。難しいとにならないように親しみやすく行います。

【到達目標】

15回の授業では茶道の基本(知識や技能を習得)と、盆略点前が出来るようになります。茶道のお稽古を通じて、自然と礼儀作法を身に付けることや、心構え、感性を磨き、おもてなしの心を養います。家でも行えるカジュアル茶道も行います。

回数	授業計画・内容
1回目	茶道の心得と基礎知識・・・注意事項、お辞儀のしかた、袱紗さばきが出来ようになる。
2回目	茶道基礎知識と割稽古・・・道具の説明、お菓子、抹茶のいただき方が出来るようになる。
3回目	割稽古・・・前週の復習、袱紗さばき、お菓子、抹茶のいただき方が出来るようになる。
4回目	盆略点前・・・茶巾のたたみ方が出来るようになる。点てるまでの通し稽古が出来ようになる。
5回目	盆略点前・・・お仕舞いまでの通し稽古が出来ようになる。
6回目	盆略点前・・・復習、お仕舞いまでの通し稽古が出来ようになる。
7回目	盆略点前・・・お仕舞いまでの通し稽古が出来ようになる。
8回目	カジュアル茶道:テーブルでの茶道が出来ようになる。
9回目	盆略点前の通し稽古・・・お茶会風
10回目	盆略点前の通し稽古・・・お茶会風
11回目	盆略点前の通し稽古・・・実技試験に向けての復習
12回目	復習をしてから、盆略点前の実技試験
13回目	復習をしてから、柄杓を使ったお点前が出来ようになる。
14回目	柄杓を使ったお点前が出来ようになる。筆記試験に向けて復習
15回目	筆記試験、他の茶道お点前の体験
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	企業研究	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
開講科目名	企業研究基礎					
開講科目英名	Corporate Project II	授業形態	講義	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			4		
【担当教員 実務者経験】						
五感ワークデザイン主催・代表：メーカーでマーチャンダイザーとしてリアルとオンラインのマーケティングや人間行動心理学に基づく旗艦店設計を実施後、ブランディングデザイン会社でコーポレートブランディングに従事。現在は企業の課題解決プログラムを設計(リーダーシップコーチング・成果を出すチーム)・企業ブランディング(ビジョン・ミッション・バリュー・パーパス設定とコンセプト設定)・パーソナルブランディングやセルフマネジメントを実施。アントレプレナーシッププログラム(ビジネスモデル)を社会人・大学生・中高生対象に企業や学校と連携して実施。						
【授業の学習内容】						
1年次では人間を軸に、脳の仕組みや心理・行動・観察する方法を知り、実際にもの・サービスを提供する企業を題材にそのマーケティング手法を考察し企業側と顧客側の両者の視点を理解することで、適切なマーケティング設計をするために必要なことをアクティブラーニング形式で習得しました。さらに企業研究でJWマリオット奈良の課題解決やブランディングを考案し、プレゼンテーションしました。2年次では、自ら課題を発見し企業側と顧客側の両視点でプランニングができ、そのための手法を実践できるようになることをゴールとします。						
【到達目標】						
人間中心のデザイン思考を実践でき、次の1-7を含めた企画提案を自ら考案でき実践できることをゴールとします。 1・デザイン思考で考えることができる 2・観察法と質問法を実践できる。3・共感インタビューができる。4・アイデア拡散方法と分類方法を実践できる。5・共感マップからニーズとインサイトを特定できる。6・企業独自の価値を見つけることができる。そこから新たな案を考案できる 7・企業らしさを踏まえたコンセプト設計ができる 6・企画のキャッチコピーとイメージを提案できる 7・人に伝える方法を実践できる						
回数	授業計画・内容					
1回目	1-1・人間中心デザイン思考:デザイン思考の思考法を実践できる。●アクティブラーニング					
2回目	1-1・人間中心デザイン思考:デザイン思考の観察法と質問法を実践できる。●アクティブラーニング●課題レポート1					
3回目	1-2・人間中心デザイン思考:共感インタビューができる。●アクティブラーニング					
4回目	1-2・人間中心デザイン思考:類推共感ができる。●アクティブラーニング●課題レポート2					
5回目	1-3・人間中心デザイン思考:アイデア拡散方法と分類方法を実践できる。●アクティブラーニング					
6回目	1-3・人間中心デザイン思考:共感マップからニーズとインサイトを特定できる。●アクティブラーニング●課題レポート3					
7回目	1-4・人間中心デザイン思考:ストーリーテリングと動画撮影を実践できる。●アクティブラーニング					
8回目	1-4・人間中心デザイン思考:ストーリーテリングと動画撮影を実践できる。●アクティブラーニング●課題レポート4					
9回目	2-1・実践・実態調査(リサーチ):サービス・商品の価値:実際の商品やサービスがどのような価値を提供しているか分析できる。商品やサービスが解決する課題・ニーズをまとめて発表。●アクティブラーニング					
10回目	2-1・実践・実態調査(リサーチ):サービス・商品の価値:実際の商品やサービスがどのような価値を提供しているか分析できる。商品やサービスが解決する課題・ニーズをまとめて発表。●アクティブラーニング●課題レポート5					
11回目	2-2・実践・サービスや商品の価値創造:企業視点と顧客視点の価値をまとめることができ、新たな価値を創造できる。「サービスや商品の新たな提供価値を考案できる」●アクティブラーニング					
12回目	2-2・実践・サービスや商品の価値創造:企業視点と顧客視点の価値をまとめることができ、新たな価値を創造できる。「サービスや商品の新たな提供価値を考案できる」●アクティブラーニング●課題レポート6					
13回目	2-3・実践・サービスや商品の価値創造:新たな価値をプレゼンテーション「サービスや商品の新たな提供価値を考案・発表できる」●アクティブラーニング●プレゼンテーション					
14回目	2-3・実践・サービスや商品の価値創造:新たな価値をプレゼンテーション「サービスや商品の新たな提供価値を考案・発表できる」●アクティブラーニング●プレゼンテーション●課題レポート7					
15回目	3-1・実践・企業研究・企業らしさをまとめる・コンセプト:ブランディングの理解(言葉と世界観)「企業らしさ・コンセプトを設計できる」 ●アクティブラーニング●発表					
16回目	3-1・実践・企業研究・企業らしさをまとめる・コンセプト:ブランディングの理解(言葉と世界観)「企業らしさ・コンセプトを設計できる」 ●アクティブラーニング●課題レポート8					
17回目	3-2・実践・企業研究・企業らしさをまとめる・コンセプト:ブランディングの理解(言葉と世界観)「企業らしさ・コンセプトを設計できる」 ●アクティブラーニング●発表					
18回目	3-2・実践・企業研究・企業らしさをまとめる・コンセプト:ブランディングの理解(言葉と世界観)「企業らしさ・コンセプトを設計できる」 ●アクティブラーニング●課題レポート9					
19回目	3-3・コンセプト:コンセプト作成ができる「コンセプト発表・リフレクション」 ●アクティブラーニング					
20回目	3-3・コンセプト:コンセプト作成ができる「コンセプト発表・リフレクション」 ●アクティブラーニング●課題レポート10					
21回目	4-1・実践・企画書を作成できる●アクティブラーニング					
22回目	4-1・実践・企画書を作成できる●アクティブラーニング●課題レポート11					
23回目	4-2・【企画書・プレゼンテーション資料】をまとめることができる「提供価値」「顧客の価値:理想と課題解決」「メインターゲット」「企業らしさ」「顧客獲得」「顧客レポート・ファン」「キャッチコピー」「動画」●アクティブラーニング					
24回目	4-2・【企画書・プレゼンテーション資料】をまとめることができる「提供価値」「顧客の価値:理想と課題解決」「メインターゲット」「企業らしさ」「顧客獲得」「顧客レポート・ファン」「キャッチコピー」「動画」●アクティブラーニング●課題レポート12					
25回目	5-1・【プレゼンテーション】●発表 伝わるプレゼンテーションができる●アクティブラーニング					
26回目	5-1・【プレゼンテーション】●発表 プレゼンテーションのリフレクションができる●アクティブラーニング●課題レポート13					
27回目	5-2・【プレゼンテーション資料】●発表(英語版) 伝わるプレゼンテーション英語版作成ができる●アクティブラーニング					
28回目	5-2・【プレゼンテーション】●発表(英語版) 伝わるプレゼンテーション英語版作成ができる・プレゼンテーション練習●アクティブラーニング●課題レポート14					
29回目	5-3・【プレゼンテーション】●発表(英語版) 伝わるプレゼンテーションができる●アクティブラーニング					
30回目	5-3・【プレゼンテーション】●発表(英語版) プレゼンテーションのリフレクションができる●アクティブラーニング●課題レポート15					
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される					
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。					
受講生へのメッセージ						
【使用教科書・教材・参考書】						

授業シラバス

授業科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	
開講科目名	Global CommunicationⅢ						
開講科目英名	Global CommunicationⅢ	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U1.1 [WH-question]を使って相手の性格について尋ねる会話を練習する
2回目	U1.2 「間接疑問文」を使って、人に質問をする、また質問に答える練習をする
3回目	U1.3 自己紹介と他己紹介に関する会話を練習する
4回目	U1.4 誰かと知り合いになるためのメールを書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「良いリーダーになるために必要なこと」 ・前期発表と連動する内容
6回目	U2.1 現在進行形を使って持ち物について話す
7回目	U2.2 現在完了形を使って持ち物やその機能などについて話す
8回目	U2.3 聞き返しの表現や話題を変える際の表現を使ってディスカッションをする
9回目	U2.4 欲しいものについての広告を書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「出かける時の持ち物について」 ・前期発表と連動する内容
11回目	U3.1 冠詞に注意しながら、自分の町について尋ねる、また質問に答える練習をする
12回目	U3.2 [would/could/should]を使って、他の場所への生き方について話す
13回目	U3.3 建物内の道案内の場面で会話を練習する
14回目	U3.4 求人に対して志望動機を書く
15回目	U3.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町の人気な場所についてプレゼンをする」 ・前期発表と連動する内容
16回目	U4.1 [be going to/will]を使って、週末の予定について話す
17回目	U4.2 [be going to/will]を使って、旅行の計画について話す
18回目	U4.3 心配や不安になる状況での会話を練習する
19回目	U4.4 イベント内容やスケジュールについての情報を伝えるメールを書く
20回目	U4.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「さまざまな人に異なるアクティビティをアサインする」 ・前期発表と連動する内容
21回目	U5.1 単純過去形を使って、失くした物や、見つけたものについて話す
22回目	U5.2 単純過去形、過去進行形を使って、助けが必要になる場面の会話を練習する
23回目	U5.3 驚いたできごとについて話す
24回目	U5.4 短い物語を書く
25回目	U5.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「おもしろい、驚くストーリー」 ・前期発表と連動する内容
26回目	U6.1 数量詞を使って、都会の問題について話す
27回目	U6.2 現在・未来の条件節を使って、問題と解決策について話す
28回目	U6.3 [though]を使って反対意見を述べる練習をする 心配や安心を表す表現を使った会話を練習する
29回目	U6.4 価値観についてのネット投稿に対し、自分のコメント(考え)を書く
30回目	U6.5 Time to Speak: 前期発表
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
開講科目名	Global CommunicationⅢ(O)	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
開講科目英名	Global CommunicationⅢ(O)						
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U1.1 性格を表す単語を学ぶ [WH-question]を使った表現を学ぶ
2回目	U1.2 個人の情報(ライフステージ)に関する表現を学ぶ 間接疑問文を学ぶ
3回目	U1.3 新しい情報を伝える時の文中のストレス(発音)を学ぶ 自己紹介、他己紹介の表現を学ぶ
4回目	U1.4 段落を意識したメールの読み方、書き方を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 持ち物や持ち物に関連する表現を学ぶ [ever/never/for/since]を用いた現在完了形を学ぶ
7回目	U2.2 スマホやPCの機能に関する表現を学ぶ [already/yet]を用いた現在完了形を学ぶ
8回目	U2.3 語頭の/t/の発音を学ぶ 話題を変える際の表現を学ぶ、簡単な聞き返し(興味を示す)の表現を学ぶ
9回目	U2.4 ネット広告の読み方、書き方を学ぶ 代名詞としてのoneの使い方を学ぶ
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 街中の橋や建物などの特徴に関する単語を学ぶ 冠詞について学ぶ
12回目	U3.2 公共交通機関に関する単語を学ぶ 助動詞[would/could/should]を使った提案の表現を学ぶ
13回目	U3.3 語頭の子音連結(発音)を学ぶ 道順を尋ねる、また教える際の表現を学ぶ、理解を示すための繰り返し(言い直し)の表現を学ぶ
14回目	U3.4 求人広告を読み、志望動機の書き方を学ぶ 大文字やピリオドなど、基本的なルールを学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
16回目	U4.1 意見や反応を示す単語を学習する [be going to/will]を使った未来についての表現を学ぶ
17回目	U4.2 計画を立てる際の表現を学習する [will]を用いた突然の決定、予定に関する表現を学ぶ
18回目	U4.3 語頭の/p/の発音を学ぶ 安心させる言葉、またその反応を学ぶ、[at least]を用いた表現を学ぶ
19回目	U4.4 イベントの内容、スケジュールについての英文メールの読み方、書き方を学ぶ 順序に関する表現を学ぶ
20回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
21回目	U5.1 ものを失くす、見つける際の表現を学ぶ 単純過去形の使い方を学ぶ
22回目	U5.2 助けを求める、助ける際の表現を学ぶ 単純過去形と過去進行形について学ぶ、復習する
23回目	U5.3 驚きを表す際の発音(ストレス)を学ぶ 驚いたことを示す、リアクションに関する表現を学ぶ
24回目	U5.4 短い物語を読み理解し、書き方を学ぶ
25回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
26回目	U6.1 都会の問題に関する表現を学ぶ 数量詞について学ぶ
27回目	U6.2 マナーに関する副詞を学ぶ [if/when]を用いた現在・未来の条件節を学ぶ
28回目	U6.3 語末のyの発音を学ぶ 様々な状況での心配、また安心を示す際の表現を学ぶ、[though]を使った反対意見の述べ方を学ぶ
29回目	U6.4 価値観についてのネット投稿を読み、書き方を学ぶ ライティングにおける質問文の書き方を学ぶ
30回目	U6.5 Unitの復習 学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	料飲オペレーション	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員
開講科目名	料飲解説・BAR実習 I					
開講科目英名	BAR Practice I	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャペル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャペル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランのグループ長に就任 ホテル32年勤務のうち 2023年人材会社 株式会社ホテリアスタフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格)ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級

【授業の学習内容】

初めは、ホテルから外食産業・その他幅広いレストランに興味を持つように全般的な概要で机上での講義形式で行います。また夏休みのインターンシップに向けてサービス基本実践の演習で各自基礎を習得させます。次にHRS3級の実技試験の概要を説明し実際の演習で各自練習し試験に備える授業を行い、最後に実技試験のシミュレーションを行うことで緊張感を持って生徒が授業に取り組めるように致します。

【到達目標】

レストランに関して興味を持ってもらうため、料理や飲み物・サービスなど幅広く奥が深いことを認識してもらいます。次に実践演習で初心者の実技習得を目指します。そして最終はHRS3級実技試験を実際に体験し 試験に必要なスキル課題を明確にしてもらうことを最終の目標に致します。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション バーテンダーとしての仕事内容や、今後の授業のスケジュールの告知や最終目的の揭示、および最終試験や成績評価などの明確な基準の説明。
2回目	カクテルの調合スキル「ビルド」の授業。(シャーリーテンプル、サルトガクーラー) ミニ講義「バーでのトレイサービス」「バーでの必須アイテムのグラス」について。
3回目	カクテルの調合スキル「シェイク」の授業。(シンデレラ、フロリダ) ミニ講義「バーでの氷」「バーツール」について。
4回目	カクテルの調合スキル「ステア」の授業。(プッシーキャット、カルピスラッシー) ミニ講義「バーのオペレーション」「バーの清掃や整頓の重要性」「ゲストに対するあいさつがどう生きるか」について。
5回目	カクテルの調合スキル「ブレンド」「フローズンカクテル」の授業。(大阪喫茶店の定番 みつくすジュース) ミニ講義「デコレーション、ガーニッシュ」「切っても切り離せないフルーツ」について。
6回目	カクテルの調合スキル「フルーツカクテル」(ノンアルコールモヒート、ノンアルコールネバダ)とバーテンダースキル「フルーツカット」「デコレーション」。 学園祭の課題の試作および、出店に伴うアドバイスや考え方について。
7回目	学園祭での提供オリジナルカクテルの決定。製作およびオペレーションやポジションの決定。 「その他カクテル調合スキル」「フードとのマリアージュおよびフードとの関係性」について。 ミニ講義「接客スキル」「バーでのレディーファーストやドレスコード」について。
8回目	学園祭でのオペレーションおよびカクテル提供、製作の練習。 ミニ講義「バーでのオーダーテイクや電話対応」「お酒の各種飲み方の種類など」について。
9回目	学園祭でのオペレーションおよびカクテル提供、製作の最終デモンストレーション。 ミニ講義「お酒の概要および種類など」について。
10回目	前期最終試験の内容および配点基準の告知。今までのバーテンダースキルのおさらい。 ミニ講義「ワインや日本酒などの醸造酒」について。
11回目	前期最終試験のオリジナルカクテルの決定および試作。「現状のホテルバーおよびバーなどの飲食業の現在と今後」について。 ミニ講義「ウイスキーなどの蒸留酒」について。
12回目	前期最終試験の各自オリジナルカクテルの製作および、オペレーションなどの練習。 ミニ講義「その他のお酒やカクテル」について。
13回目	前期試験・振り返り
14回目	追再試予備日・復習
15回目	授業内容の再確認。今後に生かせる点などの説明。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	新型コロナウイルスの蔓延の終息から、ホテル業界およびサービス業界はふたたび活況を取り戻しつつあるが、新型コロナウイルス禍での業界としての人材の流出が影響し、現状としてホテル業界および飲食業界などのサービス業界はどの業界も人材不足に陥っています。 だからこそ、今より良い人材を各種業界は求めています。あなたたちにとって、幸いながら恵まれた求人環境です。ですが、誰でも業界で生きていけるわけじゃないです。よりよいスキル、知識などが求められますので、卒業までしっかり将来に備えて、自分を磨いてほしいです。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ホテル宿泊オペレーション	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員
開講科目名	宿泊マネジメント I					
開講科目英名	Accommodation Management I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			2		
【担当教員、実務者経験】						
ザ・リッツカールトン大阪オープニングスタッフからホテルマン人生を始め、在籍13年間でドアマンからベルマン、フロント、リザーベーションの全ての業務を経験、マネージメント職も経験後、スモールラグジュアリーホテルへ移り、ホテル全体の運営統括支配人を経て、現在はホテルでの副総支配人兼本社経営企画室 室長						
【授業の学習内容】						
宿泊部門のマネジメントの方法論、具体的な事例を挙げて解説し、マネジメントを習得するための基礎を理解させる。						
【到達目標】						
実際のホテル現場レベルの具体例を学ぶことにより、現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事が出来るようになる。						

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 様々なカテゴリーのホテルの説明 その運営と特徴を理解することができるようになる。
2回目	宿泊部門の組織について 各セクションの特徴と役割を、更に理解することができるようになる
3回目	宿泊部門の使命と役割について 宿泊部門で働くうえでの特徴を、更に理解することができるようになる
4回目	宿泊部門の業務の流れについて 宿泊部門で働くうえでの業務の流れを、更に理解することができるようになる
5回目	宿泊部門で働く人材にこれから求められる能力と資質について 宿泊部門で働くうえ求められる能力と資質を、更に理解することができるようになる
6回目	ゲストサービス(ドアマン・ベルマン)業務の基礎や特徴について ゲストサービスの業務の基礎や特徴を、更に理解することができるようになる
7回目	フロント業務の基礎や特徴について フロントの業務の基礎や特徴を、更に理解することができるようになる
8回目	リザーベーション業務の基礎や特徴について 宿泊予約の業務の基礎や特徴を、更に理解することができるようになる
9回目	レベニューマネジメントについて レベニューマネジメントの基礎を学び、その考え方を理解することができるようになる
10回目	ホテル全体のオペレーション(運営)について ホテル運営についての基本的な考え方を理解することができるようになる
11回目	顧客満足度について いくつかの体験談を交え、ゲスト満足度を向上させる考え方を理解することができるようになる
12回目	従業員満足度について いくつかの体験談を交え、従業員満足度を向上させる考え方を理解することができるようになる
13回目	理想のリーダー像について 求められるリーダーの資質や考え方などを、体験談などを交え、理解することができるようになる
14回目	期末試験・復習授業
15回目	振り返り: 1. 試験解説 2. その他質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
宿泊業務の基礎	

授業シラバス

授業科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
開講科目名	エアライン実務						
開講科目英名	Practical Airline	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員・実務者経験】							
【授業の学習内容】							
講義、演習を通して職業理解を深めると共に、エアライン業界において求められる基本的な知識を身に付けていく。							
【到達目標】							
エアライン業界において求められる基本的な知識を身に付け、入社後に自信を持って行動できるレベルになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション) 授業の流れを説明。自己紹介を通して現在の自分の姿を確認する。
2回目	(エアライン業界で働く①) 航空会社全体の仕事とそれぞれのサービスを学び、職業理解を深める。
3回目	(エアライン業界で働く②・航空業界の現状と変化) 航空業界の現状と変化から、求められる人材像を理解する。
4回目	(接遇基本5原則①) 第一印象の重要性を学び、普段の行動に活かすことができる。(身だしなみ・挨拶・表情)
5回目	(接遇基本5原則②) 品のある立ち居振る舞いを習得するとともに、正しい言葉遣いを身に付けることができる。(立ち居振る舞い・言葉遣い)
6回目	(社会人としての基本①) 「受命・報告・相談」「報告・連絡・相談」の重要性を学び、習得する。
7回目	(社会人としての基本②) 好印象を与える話し方の紹介と声の表情トレーニングを通して、状況に応じた話し方ができる。気づきの態度を高め、気づいたことを声に出し、声かけができるトレーニングを通して、接客の基本となる気づきと声かけを身に付けることができる。
8回目	(エアライン実務①) CA/GSの基本業務を学ぶ。グループディスカッションを通して、職業理解を深める。 (接客英会話①) チェックインカウンターで使用する基本的なフレーズを学び、実践に移すことができる。
9回目	(エアライン実務②-1) 機内サービス/チェックインカウンターでのロールプレイを行い、職業理解を深めるとともに自身の課題を認識・改善につなげることができる。 (接客英会話②) チェックインカウンターで座席案内時に使用するフレーズを学び、実践に移すことができる。
10回目	(エアライン実務②-2) 機内サービス/チェックインカウンターでのロールプレイを行い、職業理解を深めるとともに自身の課題を認識・改善につなげることができる。 (接客英会話③) チェックインカウンターで手荷物に関する案内時に使用するフレーズを学び、実践に移すことができる。
11回目	(エアライン実務③) エアラインでの仕事に必要な基礎知識を習得する。(Airline Code・City/Airport Code※国内のみ) (接客英会話④) チェックインカウンターで手荷物に関する案内時に使用するフレーズを学び、実践に移すことができる。(超過時のご案内)
12回目	(エアライン実務④) アナウンスの基本を学ぶ。グループディスカッションを通して、職業理解を深める。 (接客英会話⑤) ゲートで使用する基本的なフレーズを学び、実践に移すことができる。
13回目	(エアライン実務④) 機内アナウンス/チェックインカウンターでのアナウンスを行い、職業理解を深めるとともに自身の課題を認識・改善につなげることができる。 (接客英会話⑥) ラウンジで使用する基本的なフレーズを学び、実践に移すことができる。
14回目	(試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
15回目	(復習) 初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。 これまでの授業内容を通しての質疑応答を行い、自信を持って次回以降授業に臨むことができるようになる。
16回目	(エアライン実務①-1) サービスの種類を学ぶことができる。
17回目	(エアライン実務①-2) お客様が求めていること理解することができる。
18回目	(エアライン実務①-3) 機内/チェックインカウンターでのロールプレイにおいて、前回の内容を実践に移すことができる。
19回目	(エアライン実務②-1) 他社との差別化を図る機内食について学ぶ。 エアラインでの仕事に必要な基礎知識を習得する。(航空用語)
20回目	(エアライン実務②-2) 機内/チェックインカウンターでのロールプレイにおいて、前回の内容を実践に移すことができる。 航空用語を使用したブリーフィングの内容を理解することができる。
21回目	(エアライン実務③-1) 接客に相応しい言葉遣いを身に付けることができる。
22回目	(空港見学) 空港の現状を理解するとともに、求められる知識を再確認し後期後半の授業に対する意識を高める。
23回目	(エアライン実務③-2) 機内/チェックインカウンターでのロールプレイにおいて、前回の内容を実践に移すことができる。
24回目	(エアライン実務④-1) エアラインでの仕事に必要な基礎知識を習得する。(Airline Code・City/Airport Code ※国内/国際共に) 英語での接客における基本的な知識を身に付けることができる。
25回目	(エアライン実務④-2) 機内/チェックインカウンターでのロールプレイにおいて、前回の内容を実践に移すことができる。
26回目	(エアライン実務⑤-1) クレーム対応、イレギュラー対応の基本を身に付けることができる。
27回目	(エアライン実務⑤-2) 機内/チェックインカウンターでのロールプレイにおいて、前回の内容を実践に移すことができる。
28回目	(試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
29回目	(総復習①) 試験の振り返りを実施し、課題を認識・改善することができる。
30回目	(総復習②) 1年間の振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。 エアライン業界で求められる人材像を理解し、自信を持って行動に移すことができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員
開講科目名	国際観光Ⅱ					
開講科目英名	International TourismⅡ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

1988年から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる
 ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	理解度確認テスト実施
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験でいる様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語) ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)	

授業シラバス

授業科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	
開講科目名	国際観光Ⅲ						
開講科目英名	International TourismⅢ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

1988年から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

回数	授業計画・内容
1回目	外国人から見た日本人の印象 日本人の心、本音と建て前の根底にあるもの(英語と日本語)で説明出来る様になる、
2回目	日本文化 神社仏閣の説明と参拝方法を英語と日本語で案内出来る様になる
3回目	京都の歴史(英語と日本語)神社仏閣について(英語と日本語)で案内出来る様になる 京都の観光地研究
4回目	京都を英語で案内(竜安寺、三十三間堂、二条城)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現①
5回目	外国人の選ぶ人気の観光地とお土産物(国別)好きな食べ物、嫌いな食べ物について知る、浮世絵について(英語と日本語)で案内出来る様になる
6回目	奈良を英語で案内(東大寺、春日大社、鹿について)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現②
7回目	広島を英語で案内【厳島神社、宮島、原爆ドーム)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現③
8回目	今まで学習したところの総復習、各自英語で案内出来る様、観光地を調べたり調べをする
9回目	京都、奈良、大阪についての質問に英語で答える練習をし、英語で答える事が出来る様になる
10回目	東京を英語で案内出来る様モデル会話学習(浅草寺、築地、皇居について)英語で質問に答える事が出来る様になる。
11回目	富士、箱根を英語で案内(富士山、富士五湖、箱根について)(英語で質問に答える事が出来る様になる
12回目	北海道を英語で案内(知床、阿寒湖、札幌等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
13回目	東北地方を英語で案内(松島、平泉、ねぶた等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
14回目	九州を英語で案内(別府、湯布院、阿蘇等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
15回目	総復習 今まで学習した地方についての質問に英語で答える事が出来る様になる。 レポート提出

評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
------	---

評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
------	--

受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらおう事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

授業科目名	地域創生	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
開講科目名	国内地理						
開講科目英名	Domestic Geography	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科			2			
【担当教員、実務者経験】							
2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。							
【授業の学習内容】							
日本国内の知っておくべき地理を素に風習・祭・名産品・歴史と結びつけ知識を増やす 日本、関西、大阪の地理に関する雑学を増やす							
【到達目標】							
日本の地理や大阪を知ることで、接客時の会話のきっかけ作りが出来る、対応力をあげることができる。 お客様の出身地にあう商品の提案力に活かすことができる 日本の地理を知ることでSDGsの取り組みに参加することができる							

回数	授業計画・内容						
1回目	ガイダンス 地理の基本①	都道府県の位置を正しく知る。 各地方の特徴を知るとお天気の傾向がわかり仕事や生活に活かすことができる。					
2回目	地理の基本②	地図、地理用語を知る 地図が有効的に使うことができる					
3回目	地理の基本③	日本の地理的特徴を知る 各地方の特徴を知ると特産品の傾向や旬がわかり買物に活かすことができる。					
4回目	神話と地理①	神話と日本の成り立ちを知ると日本の風習がわかる。				【小テスト・課題】	
5回目	神話と地理②	願い事に合わせた神社と神様がわかる。					
6回目	祭と地理①	有名な祭りの「由来」と「場所」を知り、見物が楽しくなる				【小テスト・課題】	
7回目	祭と地理②	有名な祭りの「由来」と「場所」を知り、見物が楽しくなる					
8回目	季節と地理①	夏に最適な観光地と旅をするときのポイントを知ることができる				【小テスト・課題】	
9回目	季節と地理②	秋に最適な観光地と旅をするときのポイントを知ることができる					
10回目	季節と地理③	冬に最適な観光地と旅をするときのポイントを知ることができる				【小テスト・課題】	
11回目	季節と地理④	春に最適な観光地と旅をするときのポイントを知ることができる					
12回目	世界遺産①	なぜ世界遺産に認定されたのか理解できる				【小テスト・課題】	
13回目	世界遺産②	なぜ世界遺産に認定されたのか理解できる					
14回目	期末試験	習得した知識を確認する				【テスト・課題】	
15回目	振り返り	期末試験と習得知識の振り返りをし、定着に役立てる					
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

授業科目名	地域創生	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員
開講科目名	海外地理					
開講科目英名	Overseas Geography	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			2		

【担当教員、実務者経験】

2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。

【授業の学習内容】

ニュースでよく目にする【あの国】・・・どこにあって、どのような人々が住み、どんな素敵な場所があるのでしょうか？

社会人として知っておくべきニュース内容の理解＋その国や地域の有名なものについて学びます。
いつか行ってみたい場所を探しつつ、おもてなしの為の基礎知識を学びます。

【到達目標】

最近のニュースに登場する国の位置・首都名、その国に行くための手段(直行便の有無など)を答えられるようになる。
代表的な有名観光地・世界遺産などについて、写真を見て地名が分かるようになる。
有名な観光地、人気の食事、物産などの土産品について紹介できるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	<概要・ガイダンス> ヨーロッパ地域の概要を理解し、地図を見て国名と首都が言える様になります <ヨーロッパの地理>① ロシアと周辺国・北欧:最近のニュースと有名観光地について理解します
2回目	<ヨーロッパの地理>② フランス・ドイツ:最近のニュースと有名観光地について理解します
3回目	<ヨーロッパの地理>③ イタリア・スペイン:最近のニュースと有名観光地について理解します
4回目	<ヨーロッパの地理>④ イギリス、そのほか:最近のニュースと有名観光地について理解します
5回目	<北米地域>最近のニュースと有名観光地などについて理解し、食事やお土産の提案ができるようになります 【地図課題】
6回目	<オセアニア地域>世界遺産・有名観光地などについて理解し、食事やお土産の提案ができるようになります
7回目	アジア地域編 <韓国・台湾>最近のニュースと有名観光地などについて理解し、食事やお土産の提案ができるようになります
8回目	<中国・香港>最近のニュースと有名観光地などについて理解し、食事やお土産の提案ができるようになります
9回目	<アジアそのほかの国>最近のニュースと有名観光地などについて理解し、食事やお土産の提案ができるようになります 【地図課題】
10回目	<テーマ別:各国の世界遺産>旅番組やクイズ番組でよく見る場所について所在地や名物を紹介できるようになります
11回目	<テーマ別:有名絵画>旅番組やクイズ番組でよく見る作品について作者やテーマを紹介できるようになります 【発表・レポート】
12回目	振り返りテストを行い、これまで学んだ知識の定着を確認できる
13回目	フィールドワーク @国立民族学博物館(大阪府吹田市 万博記念公園内)
14回目	フィールドワーク @国立民族学博物館(大阪府吹田市 万博記念公園内)
15回目	<テーマ別:食>旅番組やクイズ番組でよく見る品について味の特徴や地域を紹介できるようになります
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	MICE・インバウンド	必修 選択	選択	年次	2	担当教員
開講科目名	MICE基礎Ⅲ					
開講科目英名	MICE BasicⅢ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。報奨旅行の準備段階からの内勤業務や数千人規模のハワイツアーでの現地スタッフ業務も経験あり。現在は京都でのインバウンド向けサービスにも従事。

【授業の学習内容】

MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。

【到達目標】

MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス-MICE産業とは？ 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界 MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	Convention(国際会議)ビジネスの世界 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	Exhibition(展示会)ビジネスの世界 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	MICE産業の歴史 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでどのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	MICE産業の現状①(世界、日本) 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	MICE産業の現状②(大阪) 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー) 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	MICE産業を支える施設①(国際会議場) MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	試験
14回目	国際会議場視察(国立京都国際会館) 日本最古で唯一の国立国際会議場である国立京都国際会議場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに細部を視察し理解を深める。
15回目	講義のレビュー
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	イベント実践	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	MCスキル I					
開講科目英名	MC Skill I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスタリティマネジメント科				2	

【担当教員・実務者経験】
SUTVの情報番組のキャスター、地元のFM局のパーソナリティー等を経てブライダル司会者へ。2000組のカップルの司会を担当。関西一円のゲストハウスやホテルで司会、また関西4つのゲストハウスのオープニングに携わり司会も担当。ブライダル専門の司会事務所株式会社 株式会社カルテットを経営。司会者の育成と共に20名の司会者とともに「言葉の力でいい結婚式を」と毎週たくさんの結婚式をお任せいただいている。
【授業の学習内容】
<p>社会人になると、話し方一つでその後の仕事が左右されることもある。 その重要な話し方を、腹式呼吸や滑舌などと共に、どのように話せば人に伝わりやすくなるのかを学習する。 同時に、プランナーとMCのかかわり方やMCの果たす役割を学び、人前式の司会者コメントを考えながら、現場での流れを知る。</p>
【到達目標】
イベントでの司会業をこなせるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 自己紹介(動画撮影) / 印象の良くなる話し方ができるようになる
2回目	腹式呼吸で相手へ届く声の出し方ができるようになる / MCとしての結婚式における役割と重要性を理解できるようになる
3回目	一言一言の発声をしっかりとできるようになる / 挙式前の打ち合わせの内容や重要性を理解出来るようになる
4回目	口周りのトレーニングをし、滑舌良く話すことができるようになる / 接客における敬語を話すことができるようになる
5回目	【発声・滑舌テスト】 正しいアクセントで発声できるようになる / 人前式の流れを知り、理解できるようになる
6回目	新郎新婦入場の司会コメントを考え、話すことができるようになる
7回目	開式の司会コメントを考え、話すことができるようになる
8回目	誓いの言葉シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
9回目	誓いのキスシーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
10回目	指輪の交換シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
11回目	結婚誓約書シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
12回目	フラワーシャワー退場シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
13回目	グループごとに人前式司会コメントを通して話すことができるようになる
14回目	グループごとに人前式司会コメントを通して発表し、相手の良い点。改善点を評価し、レベルアップを図ることができる①
15回目	グループごとに人前式司会コメントを通して発表し、相手の良い点。改善点を評価し、レベルアップを図ることができる②
評価基準	<p>A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される</p>
評価方法	<p>本授業における評価は以下の割合にておこなう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい式の流れができている 20% ・アレンジを加えた台本作りができている 20% ・正しい言葉遣いができている 20% ・発表時の総合評価 40%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	長期海外留学 Long-term Study Abroad	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	500 33	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
<p>スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行い、英語レベルの向上を行なう。 また、様々なイベントや現地のネイティブとの交流を通して海外の生活や環境、文化の違いを知ることができる。</p>							
【到達目標】							
<p>この経験を通して視野を広げ、国際感覚が身につく。 また、それぞれの専門分野で必要な英語力を身につけることができる。</p>							
授業計画・内容							
出国前	<p>オリエンテーション/ガイダンス 出国半年前より、オリエンテーションやガイダンスを行い、留学に対しての心構えと学校生活や普段の生活を理解できるようになる。</p>						
1～5週目	<p>現地提携校にて、5週間の英語授業(1日5時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 最終週に行われるレベルチェックテストを受験。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。</p>						
6～10週目	<p>現地提携校にて、5週間の英語授業(1日5時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 最終週に行われるレベルチェックテストを受験。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。</p>						
11～15週目	<p>現地提携校にて、5週間の英語授業(1日5時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 最終週に行われるレベルチェックテストを受験。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。</p>						
16～20週目	<p>現地提携校にて、5週間の英語授業(1日5時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 最終週に行われるレベルチェックテストを受験。</p>						
帰国後	<p>留学の振り返りとフィードバック</p>						
評価基準	<p>A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。</p>						
評価方法	<p>出席評価50% + 演習態度(演習に臨む姿勢に対する態度)10% + 技術(レポート)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「レポート提出率」とする。</p>						
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

授業科目名	外国語 I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	English Communication II	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
開講科目英名	English Communication II						
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U7.1 オンデマンド: コミュニケーションに関する表現を学ぶ、「間接語法」について学ぶ 対面: メッセージアプリの重要性について話す
2回目	U7.2 オンデマンド: オンラインでのコミュニケーションに関する表現を学ぶ、疑問文の間接語法について学ぶ 対面: 話す・書くコミュニケーションについてディスカッションをする
3回目	U7.3 オンデマンド: 語末の /s/ /z/ の発音を学ぶ、話(ストーリー)を語る際の表現を学ぶ 対面: 会話やニュース、記事について詳しく話す
4回目	U7.4 オンデマンド: Eメール中でのフォーマル/インフォーマルな表現を学ぶ 対面: フォーマル/インフォーマルなEメールを書く
5回目	U7.5(対面のみ): スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「コミュニケーションに関する調査」
6回目	U8.1 オンデマンド: 様々な仕事を表す表現を学ぶ、仮定法(現在)について学ぶ 対面: 仮定法の表現を使って、異なるライフスタイルについて話す
7回目	U8.2 オンデマンド: ワーク・ライフバランスに関する表現を学ぶ、I wish(仮定法)について学ぶ 対面: I wishを用いて願望や後悔について話す
8回目	U8.3 オンデマンド: 母音 /ɜ/ /u/ の発音を学ぶ、選択を迫られた時の表現、その際の提案や警告に関する表現を学ぶ 対面: 様々な選択肢がある状況での会話を練習する
9回目	U8.4 オンデマンド: 文中の強調表現(発音)について学ぶ、他人の文言や意見を参照する際の表現を学ぶ 対面: ポッドキャストのコメントを読む、また反応を書く
10回目	U8.5(対面のみ): スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「デジタル・デトックスの計画を立てる」
11回目	U9.1 オンデマンド: 様々な場所を表す表現を学ぶ、禁止・許可・義務(現在)を表す表現を学ぶ 対面: 禁止・許可などの表現を使って、日常のルールや制限について話す
12回目	U9.2 オンデマンド: ルールに関する表現を学ぶ、禁止・許可・義務(過去)を表す表現を学ぶ 対面: 禁止・許可などの表現を使って、過去にあったルールや制限について話す
13回目	U9.3 オンデマンド: 語頭の /d/ の発音を学ぶ、一般的な基準を定める際に使う表現を学ぶ 対面: 社会ルール/文化の比較についてディスカッションをする
14回目	U9.4 オンデマンド: 批判を読む・書く際の表現を学ぶ、態度を示す副詞について学ぶ 対面: ビジネスにおける批判を読む、書く
15回目	U9.5(対面のみ): スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町の改善点について」
16回目	U10.1 オンデマンド: 発見や研究に関する表現を学ぶ、仮定法(過去)について学ぶ 対面: 過去の出来事について思索し、話す
17回目	U10.2 オンデマンド: 正しいこと/間違っていることに関する表現を学ぶ、[should have, could have, might have]を用いた過去の可能性の表現を学ぶ 対面: 可能性の表現を用いて、代用品と可能性について話す
18回目	U10.3 オンデマンド: 母音の発音(長短)について学ぶ、相手の関心を惹く際、関心を示す際の表現を学ぶ 対面: 話し相手の関心を維持しながらディスカッションをする
19回目	U10.4 オンデマンド: 文中での強弱(発音)を学ぶ、同様のもの、対照的なものを表す表現を学ぶ 対面: なくては生きていけないもの、生きていけるものについてのコメントを読む、書く
20回目	U10.5(対面のみ): スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画する」
21回目	U11.1 オンデマンド: 大学教育に関する表現を学ぶ、[forget, remember, stop]の後のto不定詞、動名詞について学ぶ 対面: to不定詞、動名詞の表現を使って、大学の生活について話す
22回目	U11.2 オンデマンド: 科学に関する表現を学ぶ、使役動詞[help, let, make]の使い方を学ぶ 対面: 科学的な事実についてディスカッションをする
23回目	U11.3 オンデマンド: 音節のストレス(発音)について学ぶ、代替品を勧める、他の選択肢について尋ねる、デメリットについて述べる際の表現を学ぶ 対面: 代わりになるものについてディスカッションをする
24回目	U11.4 オンデマンド: 議論を始める・追加する、結論を述べる際の表現を学ぶ 対面: 議論を含むコメントを読む、書く
25回目	U11.5 スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「問題解決についての提案」
26回目	U12.1 オンデマンド: 知覚(においや音、触感など)に関する表現を学ぶ、強調表現を学ぶ 対面: 特別な写真について、またその背景のストーリーについて話す
27回目	U12.2 オンデマンド: 記憶、思い出に関する表現を学ぶ、[one] (代入)、[it/this] (参照)の使い方を学ぶ 対面: 子どもの頃の思い出について話す
28回目	U12.3 オンデマンド: 子音連結(発音)について学ぶ、返答を促す、記憶を思い起こす際の表現を学ぶ 対面: 過去の経験を振り返り、話す
29回目	U12.4 オンデマンド: 文と文の連結する際の表現の発音(ストレス)を学ぶ、メリット、デメリットを述べる際の表現を学ぶ 対面: ペットを飼うことのメリット・デメリットについての分析を読む、書く
30回目	後期発表
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ホスピタリティヒューマンズスキル	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	就職対策Ⅱ						
開講科目英名	Employment Support II	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
<p>社会で自分らしく働くためには自己分析が必須。多様な教材を使用し、多面的に持つ自分の強みを発見し自己理解を深めていく。「自分を知る」「自分のことを話す」「相手のことを聴く」を軸に進めていく。仲間と相互作用しながらキャリア選択を学ぶ。</p>							
【到達目標】							
<p>自己受容・自己効力感を高め、自信を持って自主的に就職活動に挑めるようになる。様々なワークを通して、自分の強みと企業での再現性を含めたエントリーシートや面接に必要な自己PRが文章もしくは口頭で伝えることができるようになる。</p>							

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション) 就活に求められていることを理解できるようになる
2回目	自己分析が必要である理由を理解できるようになる(桃太郎の事例から)
3回目	自己分析①将来のビジョンを視覚化し、自分の価値観に触れることができる(ビジョンマップワーク)
4回目	自己分析②自分の歴史を振り返り、好きや得意に気づくことができる(ライフチャートワーク)
5回目	自己分析③色から自分の強みを活かした職種傾向が分かるようになる(カラータイプ®診断実施)
6回目	自己分析④他者から見た自分の印象が解るようになる(カラーカードワーク)
7回目	自己分析⑤自分の弱みを強みにする方法を理解できるようになる(カードワーク)
8回目	自己分析⑥自分のハッシュタグ#をつけ表現できるようになる
9回目	自己分析⑦自分にマッチングした企業を知ることができるようになる
10回目	自己PR文の作成法が分かるようになる①(シートワーク)
11回目	自己PR文の作成法が分かるようになる②(シートワーク)
12回目	就職活動を乗り切るマインド法を知ることができる
13回目	模擬面接①
14回目	模擬面接②
15回目	まとめ
16回目	就活に必要なことを知る(カラーカード)
17回目	自己分析シート作成①自分の歴史から知る強みを自己分析シートを書けるようになる(カラーライフチャート)
18回目	自己分析シート作成②タイムラインを歩き、自分の方向性が具体的になる
19回目	自己分析シート作成③自分の価値観を知ることができるようになる(参考質問シート)
20回目	自己分析シート作成④他者視点から気づき自己PRできるようになる
21回目	自己分析シート作成⑤色と漢字から自分のストーリーを作り自己PRができるようになる
22回目	履歴書を作成する①自分のPRを文章化できるようになる
23回目	履歴書を作成する①自分のPRを文章化できるようになる
24回目	履歴書を発表できるようになる
25回目	面接の流れがわかるようになる
26回目	面接で質問されたことに論理的に答えることができる
27回目	面接で理想的な立居振舞ができる
28回目	模擬面接①
29回目	模擬面接②
30回目	まとめ
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ビジネス	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	電話応対					
開講科目英名	Telephone Reception	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員・実務者経験】
<p>関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電話ユーザ協会講師として電話応対コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を多数輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。</p>
【授業の学習内容】
<p>業種、業界問わず、社会人になくはならないビジネススキルの一つに電話応対スキルがある。取引先やお客様との電話応対を正確、迅速、丁寧に行うことができれば、企業イメージの向上につながり、CS実現にもつながる。当授業は、ビジネスにおける電話応対の重要性や具体的な知識・スキル・マインドを学び、習得するものである。実践型授業に積極的に参加していただくことにより、自身の電話応対に自信をつけることができ、就職活動や社会人生活におけるキャリア形成に役立てていただける。</p>
【到達目標】
<ul style="list-style-type: none"> ・電話応対の重要性を理解し、好印象を与える電話応対が実践できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「電話応対知識・スキル・マインド」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	<p>オリエンテーションにより、授業の目的、進め方等を理解できる CS、電話の特性、基本マナーについて正しい知識を持つとともに、説明できるようになる 口の閉鎖練習、基本の五十音練習、苦手な言葉の特化練習、滑舌強化練習、間合い・スピード改善練習を通じて、音声表現の重要性を知り、説明できるようになる</p>
2回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 顔の表情・姿勢を意識した音声練習、声のトーンコントロール練習、抑揚強化練習、際立たせ(プロミネンス)強化練習、朗読による感情表現練習、電話応対でよく使うフレーズ強化練習、口癖改善ワークを通じて、音声表現の重要性を知り、説明できるようになるとともに第一印象の重要性について理解し、説明できるようになる</p>
3回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる オープニング練習により第一印象を向上させることができるようになるとともに言葉遣いについて正しい知識を持ち、適切な言葉を活用できるようになる</p>
4回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 担当者に取り次ぐ際のポイントおよび担当者が不在時のポイント・伝言メモの書き方を理解したうえで応対練習をすることで、取次ぎ・伝言対応ができるようになる</p>
5回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 受電応対総合発表(スクリプト作成・練習・発表)をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる</p>
6回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる コミュニケーションの重要性、電話における観察スキル、傾聴スキル、質問スキルについて正しい知識を持ち、説明できるようになる</p>
7回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 電話における説明スキル、問い合わせ応対スキルについて正しい知識を持ち、説明できるようになる</p>
8回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 問い合わせ応対練習を通じて問い合わせ応対がスムーズにできるようになるとともに、携帯電話のマナーについて正しい知識を持ち、説明できるようになる</p>
9回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 問い合わせ応対総合発表(スクリプト作成・練習・発表)をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる</p>
10回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる クレーム対応(定義、期待と結果の関係性、クレーム要因、クレームの基礎知識、お客様心理、対応のプロセス)について正しい知識を持ち、説明できるようになる</p>
11回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる クレーム対応(必要なスキル・マインド、初期対応、傾聴法、謝罪の種類と使い分け、質問による現状把握、説明・提案による解決、クローージング、理不尽な要求時の対処法)について説明できるようになる</p>
12回目	<p>★後期試験: 1～12回目の授業を振り返り、試験を行う</p>
13回目	<p>後期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 総合発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる</p>
14回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる クレーム対応総合発表(スクリプト作成・練習・発表)をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる</p>
15回目	<p>前回授業の復習により、より一層理解を深め、他者に自信を持って説明できるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 就職活動時の電話応対(マナーと注意点、よく使うフレーズ)について理解し、練習することで就職活動時の電話応対に自信が持てるようになる</p>
評価基準	<p>A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される</p>
評価方法	<p>本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。</p>
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	ホスピタリティマナー	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	おもてなしセルフスタイリング						
開講科目英名	OMOTENASHI Manners	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
<p>大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>業界に関わらず社会人のマナーは必要である。 相手に好印象を与え、信頼につなげられる社会人マナーを習得する。</p>							
【到達目標】							
<p>1年次では社会人として戦力となるための基本的なマナーを身に着けた。 2年次ではマナーの応用編を学び、自然と行動に移すことが出来るようになる。</p>							

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション) 授業の流れ説明。社会人になるにあたってのマナーを復習。自己紹介を通して1年前からの成長を実感することができる。
2回目	(第一印象) 第一印象の大切さについて復習。 (身だしなみ) 社会人として求められる身だしなみを復習、改善につなげることができる。
3回目	(挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さについて復習。 (表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。ペアで相互チェックを行う。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
4回目	(立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いについて復習。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等) まで習得した社会人としての基礎知識を活かしチームごとで相互チェックを行い、お互いの成長につなげることができる。
5回目	(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
6回目	(コミュニケーション力) 自身のコミュニケーション力を知り、良いコミュニケーションが与える影響を知ることができる。 (話し方・聴き方) 感じの良い話し方、聴き方を実践を再習得することができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
7回目	(報告書作成) 報告書の書き方を復習し、実際に記入する。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
8回目	(来客対応) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を復習する。 今まで習得した社会人としての基礎知識を活かしチームごとで相互チェックを行い、お互いの成長につなげることができる。
9回目	(来客対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
10回目	(ビジネス文書) ビジネス文書について復習し、実際に記入する。 (封筒) 封筒の書き方を復習し、実際に記入する。 (FAX) FAXを送る際のマナーを学ぶ。
11回目	(電話対応) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を復習する。 今まで習得した社会人としての基礎知識を活かしチームごとで相互チェックを行い、お互いの成長につなげることができる。
12回目	(電話対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
13回目	(総復習) 前期で習得した内容を網羅したロールプレイを実施。
14回目	(前期試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
15回目	(試験解説) 試験の解説後、1年間の振り返りを実施し、成長を実感することができる。
16回目	(オリエンテーション) 授業の流れ説明。社会人になるにあたってのマナーを復習。自己紹介を通して1年前からの成長を実感することができる。
17回目	(第一印象) 第一印象の大切さについて復習。 (身だしなみ) 社会人として求められる身だしなみを復習、改善につなげることができる。
18回目	(挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さについて復習。 (表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。ペアで相互チェックを行う。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
19回目	(立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いについて復習。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等) まで習得した社会人としての基礎知識を活かしチームごとで相互チェックを行い、お互いの成長につなげることができる。
20回目	(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
21回目	(コミュニケーション力) 自身のコミュニケーション力を知り、良いコミュニケーションが与える影響を知ることができる。 (話し方・聴き方) 感じの良い話し方、聴き方を実践を再習得することができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
22回目	(報告書作成) 報告書の書き方を復習し、実際に記入する。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
23回目	(来客対応) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を復習する。 今まで習得した社会人としての基礎知識を活かしチームごとで相互チェックを行い、お互いの成長につなげることができる。
24回目	(来客対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
25回目	(ビジネス文書) ビジネス文書について復習し、実際に記入する。 (封筒) 封筒の書き方を復習し、実際に記入する。 (FAX) FAXを送る際のマナーを学ぶ。
26回目	(電話対応) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を復習する。 今まで習得した社会人としての基礎知識を活かしチームごとで相互チェックを行い、お互いの成長につなげることができる。
27回目	(電話対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
28回目	(総復習) 前期で習得した内容を網羅したロールプレイを実施。
29回目	(前期試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
30回目	(試験解説) 試験の解説後、1年間の振り返りを実施し、成長を実感することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	伝統文化	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	華道					
開講科目英名	Flower Arrangement	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
1992年～2010年まで、グラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザイン、専門学校関連にてディレクション等の仕事を行う。華道歴25年、個人にて華道教室を行って10年。茶道歴17年、茶道教室を行って4年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う						
【授業の学習内容】						
ホテルのロビー、レストラン、部屋、化粧室、職場のさまざまな場所にお花が飾られています。また日本人に限らず海外の人もいます。本授業では、日本の伝統文化の1つ「華道」の基本を実習形式で行います。飾る場所に応じて空間を活かすこと、同じ材料でも人によって違った作品になること、短期間で複数の花や枝の名前や季節感なども触れます。センスが問われるのでは？と思われがちですが「工夫すること」で、個性やセンスが得られることを華道(実習)を通して学んでいきます。						
【到達目標】						
華道(生け花)の基本「盛り花」を中心に、骨格作り、空間の取り方、置く(飾る)場所を考えていけていきます。器の大きさ、置く(飾る)場所、空間に合わせて、高さ全体の大きさを考えていけるように。また壺いけや創作物も行います。						

回数	授業計画・内容
1回目	華道の説明(道具、注意事項、華道の種類等)、フラワーアレンジメントと生け花の違いについて説明。 盛り花の基本(枝):生け花の基本、生け方の基本ができるようになる。
2回目	盛り花の復習(枝):盛り花の基本、枝でいけるようになる。
3回目	盛り花の基本(葉):葉ものを使った盛り花ができるようになる(枝から葉ものになると創作作業があり新しい技法工夫の修得)
4回目	盛り花の基本(葉):葉ものを使った盛り花ができるようになる(前週と葉を変えて、生け方、創作作業の違いができるようになります)
5回目	壺いけの実習:ホテルや職場では壺や花瓶にお花が飾っています。どのようにいけているか体験し、壺いけ花瓶いけができるようになる。
6回目	壺いけの実習:壺に使う材料で、盛り花としていけて、壺いけとの違いを学びます。
7回目	盛り花の復習:骨格を作り、空間を意識し、足元、奥行き、置く場所によって変わる等ができるようになる。
8回目	創作①クリスマスリース作成:4限にて、生け方の種類に「木流儀」という生け方があり「矯める」という技法があります。矯めるという技法をクリスマスリース作りを通してできるようになります。
9回目	5限にて 実際には生の木(薩摩杉)を使って、矯めて型を作り、飾り付けなど、バランス感覚も合わせて修得します。
10回目	水盤流儀の基本:水盤流儀の修得。基本1種類の花で1本に見えるようにいけこむ。1種類の花で、お客様に見て頂ける水盤流儀の技法ができるようになる。(授業の進捗によっては復習に変更します)
11回目	盛り花の復習:基本的な生け方から、素材を活かす、流れ、メリハリを意識した生け方ができるようになる。
12回目	盛り花の復習:自分の型や空間の活かし方を今一度確認。限られた時間で出来るようになります。
13回目	盛り花の復習:盛り花の復習をします(回を重ねる中で個性、センス、拘りを活かすことや注意点)今迄のプリント等で筆記対策を行います。
14回目	試験/筆記試験と盛り花の実技試験を行います。創作②ハーバリウム作成:準備
15回目	創作②ハーバリウム作成:小瓶の中に、素材の量、角度、見せ方の工夫等を考えて作成できるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	サービススキル	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	ウォーキングⅡ					
開講科目英名	WalkingⅡ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員・実務者経験】

大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Cs'にてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。

【授業の学習内容】

「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・美しい所作」を学ぶ。外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形で表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。信頼感の与えられる人材を育てる。

【到達目標】

フラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身に付ける。
また様々なシーンにおいて美しくふるまう所作を具体的に練習していく。
外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形で表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。信頼感の与えられる人材を育てる。

回数	授業計画・内容
1回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
2回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
3回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
4回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
5回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手しぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕草一つで表現できるようになる。
6回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようになる。笑顔もたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行えるようになる。(手鏡ご持参ください。)
7回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びに物のひろい方、書類の渡し方・受け取り方など日常シーンでの仕草を綺麗にできるようになる。
8回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学ぶことができるようになる。
9回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問したシーンにおけるマナーを理解してできるようになる。)
10回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。基本のお辞儀に加え、印象に残るお辞儀ができるようになる。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行えるようになる。
11回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行えるようになる。
12回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行えるようになる。
13回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行えるようになる。
14回目	試験日/復習
15回目	フィードバック
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	企業研究	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	企業研究Ⅱ						
開講科目英名	Company Research II	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 2	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。 CGBサーヴィスコンクール日本大会 審査員							
【授業の学習内容】							
企業(ホテル)のプロモーションを実際に企画提案することにより、企画提案書の立案、作成、プレゼンテーションを学ぶ。							
【到達目標】							
ホテルのプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、プレゼンテーション力を高める。							

回数	授業計画・内容
1回目	【科目概要・目標解説】科目の概要、目標解説を行い、プロジェクトの目的を確認することができる。
2回目	【テーマ発表】 企業訪問を行い、見学、課題説明を受けた後、情報収集、ヒアリング、質疑応答を行い、プロジェクトをスタートさせる。
3回目	【現地視察】 クライアント元を視察し、プロジェクトに必要な情報を収集できる。
4回目	【現地視察】 クライアント元を視察し、プロジェクトに必要な情報を収集できる。
5回目	【研究概要の構築】 企画書の目的設定を行う。
6回目	ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出を行い、個人のプロジェクト開始の土台を形成することができる。
7回目	プランの絞込みを行い、提案内容の実行できる方法論を策定できる
8回目	予算を計算し、スケジュールの策定を行うことができる。
9回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認を行うことができる。
10回目	問題点の整理を行い、提案内容(プラン)の決定、提案のメリット構築を行う。
11回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法を決定させることができる。
12回目	提案書の作成ができる
13回目	問題点の整理、提案内容、提案のメリット、予算、スケジュールを再度確認し決めることが出来る。また 問題点とその解決方法を考えることができる。
14回目	問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。
15回目	問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。
16回目	プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。
17回目	最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる
18回目	【第1回プレゼンテーション】 ・プレゼンテーション ・フィードバックを行い、プランの見直し、不足点をあらい出すことができる。
19回目	【プレゼンテーション内容精査】 企画書の目的設定精査、ゲストターゲットの設定精査を行う。
20回目	前回のプレゼンテーションの反省を踏まえ、プレゼンテーション・プランの最終決定させることができる。
21回目	提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。
22回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。
23回目	提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。
24回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。
25回目	プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。
26回目	最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる
27回目	【最終プレゼンテーション】 ・企業様の前でプレゼンテーションを行い、採用プランの決定を行う。 ・フィードバックをいただき、改善点を見つめなおすことができる。
28回目	フィードバックを踏まえ、プレゼンテーションを改善できる
29回目	改善したプレゼンテーションを改めて発表し、他者の発表に対するフィードバックを行うことができる
30回目	プロジェクトを通して学んだ内容、授業を通じて成長した点を確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	Global CommunicationⅣ						
開講科目英名	Global CommunicationⅣ	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U 1.1 単純時制や進行時制を使って、個人の業績について話す
2回目	U 1.2 雇用者が求める人材について話す、個人や他人の業績を説明する
3回目	U1.3 自己紹介、他己紹介をする場面での会話を練習する
4回目	U1.4 ブログの投稿を読む、投稿にコメントを書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「面接のロールプレイ」 ・前期発表と連動する内容
6回目	U2.1 流行に関する表現を使って、トレンドについて話す
7回目	U2.2 接続詞を使って、料理の手順について話す
8回目	U2.3 提案をする際の表現を使って、社交の場や料理を注文する場面での会話を練習する
9回目	U2.4 調査についての結果を読む、また報告書を書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「レストランの改善策を計画する」 ・前期発表と連動する内容
11回目	U3.1 [too/enough]を使い、物事の「程度」について話す 時間とお金の相対的な重要性について話す
12回目	U3.2 比較級の表現を使って、物事の価値や価値を判断する基準について話す
13回目	U3.3 謝罪が必要な場面での会話を練習する
14回目	U3.4 商品のレビューを読む、書く
15回目	U3.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「批判的な商品レビューへの対応についてディスカッション」 ・前期発表と連動する内容
16回目	U4.1 推測の表現を用いて、絵や写真の描写をする
17回目	U4.2 関係代名詞を使って、ネット等で注目されている人、ストーリーについて話す
18回目	U4.3 [all]を使い、強調したい内容を述べる練習をする 意見を交換し、ディスカッションをする
19回目	U4.4 ローカルビジネスについての記事に対する反応を読む、書く
20回目	U4.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「広告をデザインする」 ・前期発表と連動する内容
21回目	U5.1 過去完了を使って、 様々な種類のストーリーについて話す
22回目	U5.2 [was/were going to, was/were supposed to]を使って、計画の変更について話す
23回目	U5.3 失望を表す表現を使って、残念なニュースへのリアクションをする
24回目	U5.4 会社の(公式)謝罪についての記事を読む、謝罪の手紙を書く
25回目	U5.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「偶然の出会いについてのストーリー」 ・前期発表と連動する内容
26回目	U6.1 チャリティやボランティア活動について話す
27回目	U6.2 近所の人の親切な行為について話す
28回目	U6.3 様々な助けが必要な場面での会話を練習する
29回目	U6.4 コミュニティ計画についてのレポートを読む、書く
30回目	U6.5 Time to Speak: 前期発表
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	Global Communication V	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
開講科目英名	Global Communication V						
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U1.1 業績に関する表現を学ぶ 「単純時制」「進行時制」を学ぶ、復習する
2回目	U1.2 資質などを表す表現について、形容詞・名詞での表現を学ぶ 動作動詞・状態動詞の違いを学ぶ
3回目	U1.3 yの発音を学ぶ 人を紹介する時の表現、また人を紹介された時の受け答えの表現を学ぶ
4回目	U1.4 賛成・反対・より多くの情報を求める際の表現を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 流行に関する表現を学ぶ 条件節(If節)について学ぶ
7回目	U2.2 食材や調理法についての表現を学ぶ 接続詞(after, until, whenなど)を用いた表現を学ぶ
8回目	U2.3 /aɪ/, /i:/, /eɪ/の発音を学ぶ、提案をする、また提案を受ける・断る際の表現を学ぶ 提案を相手が受け入れた際の受領の表現を学ぶ
9回目	U2.4 消失する/h/の発音について学ぶ 調査報告に用いられる表現を学ぶ
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 時間とお金に関連する表現を学ぶ [too, enough]について学ぶ
12回目	U3.2 価格と価値に関連する表現を学ぶ 形容詞の比較級について学ぶ、復習する
13回目	U3.3 /s/で始まる語の発音を学ぶ 謝罪をする、謝罪を受ける際の表現を学ぶ
14回目	U3.4 商品レビューに関するポジティブ、ネガティブな表現を学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
16回目	U4.1 広告に関する表現を学ぶ [might, must, can't](推測)の使い方を学ぶ
17回目	U4.2 メディア関連の人を表す表現を学ぶ 関係代名詞の主格、目的格について学ぶ
18回目	U4.3 /ɔ:/, /ɑ:/の発音について学ぶ 意見交換・ディスカッションする際の表現を学ぶ、allを用いた強調表現を学ぶ
19回目	U4.4 [because, so]を用いて理由や結果を述べる表現を学ぶ
20回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
21回目	U5.1 ストーリーの種類を表す表現を学ぶ [had/would](過去完了形)の使い方を学ぶ
22回目	U5.2 計画を立てる・破る際の表現を学ぶ [was/were going to, was/were supposed to]の使い方を学ぶ
23回目	U5.3 語末の子音の発音について学ぶ 問題への対応、解決策の提示・受領の表現を学ぶ、失望を表す表現を学ぶ
24回目	U5.4 謝罪の気持ちを表す様々な表現を学ぶ
25回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
26回目	U6.1 善い行いに関する表現を学ぶ 「受動態(現在形、過去形)」を学ぶ、復習する
27回目	U6.2 良い行いを表す動詞・名詞・形容詞の形を学ぶ 「受動態助詞」[must, might, can, will]の使い方を学ぶ
28回目	U6.3 /b/, /v/の発音について学ぶ 助けを求める、また断る際の表現を学ぶ
29回目	U6.4 語中の/j/の発音について学ぶ レポート中での意見を述べる表現を学ぶ
30回目	U6.5 Unitの復習 学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	Global CommunicationⅥ(O)						
開講科目英名	Global CommunicationⅥ(O)	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U7.1 オンデマンド:音楽の種類に関する単語を学ぶ、[used to]を用いた過去の習慣に関する表現を学ぶ 対面:[used to]を使って音楽についての好みの変化について話す
2回目	U7.2 オンデマンド:TV番組や映画に関連する表現を学ぶ、[(not) as...as]を用いた比較の表現を学ぶ 対面:比較の表現を使って、TV番組や映画について話す
3回目	U7.3 オンデマンド:[r]の発音を学ぶ、誘いを断る、またそれに答える表現を学ぶ、[kind of]を用いた、言い方を和らげる表現を学ぶ 対面:誘いを断る必要がある場面の会話練習
4回目	U7.4 オンデマンド:映画のレビューを読み、書き方を学ぶ、映画に関する意見を述べる表現を学ぶ 対面:映画のレビューを書く
5回目	U7.5(対面のみ):スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「メディアやエンターテインメントにおける好みの違い」
6回目	U8.1 オンデマンド:経験を表す単語を学ぶ、現在完了進行形について学ぶ 対面:現在完了進行形を使って、最近していることについて話す
7回目	U8.2 オンデマンド:進捗を表す表現を学ぶ、現在完了形と現在完了進行形について学ぶ 対面:現在完了形や現在完了進行形を使って、物事の進捗について話す
8回目	U8.3 オンデマンド:/ə/、/æ/の発音、久しぶりにあった際の挨拶、近況を尋ねる表現、[that would be]を用いた自分の意見(コメント)の述べ方を学ぶ 対面:他人のニュースについて、自分の意見を離す
9回目	U8.4 オンデマンド:タイムマネジメントについての投稿を読む、物事が起こった際の時間を表す表現を学ぶ 対面:タイムマネジメントについての投稿を書く
10回目	U8.5(対面のみ):スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「時間を有効に使う方法」
11回目	U9.1 オンデマンド:大学での科目に関する表現を学ぶ、助詞[have to, need to, must]を学ぶ 対面:助詞[have to, need to, must]を使って、大学や学校で学ぶ科目について話す
12回目	U9.2 オンデマンド:雇用、仕事に関する表現を学ぶ、助詞[can't, must not]を使った許可・禁止の表現を学ぶ 対面:助詞[can't, must not]を使って、在宅勤務・自宅学習のルールについてディスカッションをする
13回目	U9.3 オンデマンド:文中の区切り(発音)を学ぶ、自信の有無を表す表現を学ぶ、[the thing is]を用いた理由を述べる表現を学ぶ 対面:心配していること(自身がいないこと)、自身があることについて話す
14回目	U9.4 オンデマンド:履歴書を読む、履歴書の要点、構成を学ぶ 対面:自分の履歴書について、要点を書く
15回目	U9.5(対面のみ):スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「自分に合った完璧な仕事をデザインする」
16回目	U10.1 オンデマンド:材質に関する単語を学ぶ、単純現在形の受動態について学ぶ 対面:商品の素材や材料について話す
17回目	U10.2 オンデマンド:商品や輸送に関する単語を学ぶ、単純過去形の受動態について学ぶ 対面:商品の生産地について話す
18回目	U10.3 オンデマンド:/u/、/ʊ/、/ə/の発音、他人の選択に関して質問する際の表現、[Now that I think...]などを用いた考えを変える際の表現を学ぶ 対面:買いたいものについて話す、理由を尋ねる練習をする
19回目	U10.4 オンデマンド:商品に関するレビューの読み方、書き方を学ぶ、[However/Although]を用いた逆説の表現を学ぶ 対面:商品に関するレビューを書く
20回目	U10.5(対面のみ):スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「商品のCMを作成する」
21回目	U11.1 オンデマンド:句動詞[work out, set up, など]の表現を学ぶ 対面:句動詞[work out, set up, など]を使って、成功の秘訣について話す
22回目	U11.2 オンデマンド:機会や危険に関する単語を学ぶ、現在・未来の条件節について学ぶ 対面:現在・未来の条件文を使って、想像上のチャレンジについて話す
23回目	U11.3 オンデマンド:/ʃ/、/ð/の発音、了承を得る、了承を求め際の表現、言葉を和らげる表現[I guess/I feel like]を学ぶ 対面:意見を述べる、了承を求め際の練習をする
24回目	U11.4 オンデマンド:自身の身に起きた出来事についての書き方を学ぶ、[On the one hand, ... and on the other hand.]を用いた比較の表現を学ぶ 対面:自身の身に起きた出来事について書く。
25回目	U11.5(対面のみ):スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「憧れの人について」
26回目	U12.1 オンデマンド:事故に関する表現を学ぶ、不定代名詞について学ぶ 対面:事故について話す
27回目	U12.2 オンデマンド:過激なことに関連する表現を学ぶ、直接話法と間接話法について学ぶ 対面:体験した極端な出来事について話す
28回目	U12.3 オンデマンド:語末のedの発音を学ぶ、自分の感情を述べる、相手の感情を尋ねる表現を学ぶ、[in the end" / "after all that"]の使い方を学ぶ 対面:ある出来事に関する、自身の感情、気持ちを話す
29回目	U12.4 オンデマンド:人生の教訓についての逸話を読み、書く方法を学ぶ、同じ意味をもつことばやフレーズの異なる表現方法を学ぶ 対面:教訓となった出来事と学んだことについて書く
30回目	学期末発表
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	民族と宗教						
開講科目英名	Ethnic and Religion Study	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
様々な民族・宗教について、それぞれの宗教感による考え方、マナー、禁止行為、食事、服装等広い範囲の知識を学ぶ。前期はアジア全般について学習します。							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・最近ニュースをにぎわせる様々なトピックについて論じられるようになる。 ・違う文化・考え方をを持った人を理解し受け入れることができる力を育む。 ・センシティブな話題についても冷静に話し合うことで、客観的な視点と日本人としてのアイデンティティを獲得する。 							

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス 世界の民族と宗教の歴史について理解出来る様になる
2回目	世界の民族と宗教全般について理解出来る様になる
3回目	(日本)神道の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる
4回目	儒教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる
5回目	道教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる
6回目	仏教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる 孔子の教えについて1点ずつ発表する
7回目	仏教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる
8回目	学校近くの神社仏閣に行き建物について、参拝方法について理解出来る様になる。
9回目	ヒンドゥー教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる 課題発表とレポート提出(古事記の物語について調べる)①
10回目	ヒンドゥー教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる 前期学習した民族と宗教について課題発表とレポート提出②
11回目	課題レポートの作成 グループ分けをする 前期に学習したアジアの宗教以外の宗教と民族について研究
12回目	課題レポートの作成 前期に学習したアジアの宗教以外の宗教と民族について研究
13回目	課題レポートの作成 前期に学習したアジアの宗教以外の宗教と民族について研究
14回目	課題レポート発表を通じて、学習内容を確認できる
15回目	これまでのまとめを通じて、学習した知識を確認できる
16回目	ガイダンス ユダヤ教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる
17回目	ユダヤ教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる(各グループで食習慣と祭りマナーについて研究=レポート提出①)
18回目	キリスト教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる
19回目	キリスト教神道の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる(各グループで食習慣と祭り、マナーについて研究=レポート提出②)
20回目	イスラム教の歴史、文化、習慣などについて理解出来る様になる
21回目	イスラム教、歴史、文化、習慣について理解出来る様になる(各グループで食習慣と祭り、マナーについて研究=レポート提出③)
22回目	奈良の歴史と文化について 神道と仏教について復習と課題研究
23回目	奈良フィールドワーク課題研究(東大寺、興福寺、春日大社)レポート提出④
24回目	奈良フィールドワーク仏教の歴史、文化を研究理解する 興福寺、東大寺建学 課題レポート提出④
25回目	奈良フィールドワーク
26回目	奈良フィールドワーク
27回目	奈良フィールドワークの振り返り、ジャイナ教の歴史、文化、習慣について理解出来る様になる
28回目	シーク教、歴史、文化、習慣について理解出来る様になる
29回目	ゾロアスター教の歴史、文化、習慣について
30回目	総まとめ 各宗教別にお付き合い&おもてなしの心得えとタブーを再認識、理解出来る様にする。宗教的な衣類や食べ物も体験して理解を深めることが出来る様にする 課題レポート⑤
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	プレゼンテーションスキルⅡ						
開講科目英名	Presentation skillⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科				2		
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書業務に就く。その後、企業研修講師、講師育成講師を行いながら、専門学校では就職指導の講師を担当する。産業カウンセラー協会では研修の企画、広報を担当する。現在は、若年者への指導と共に、女性活用を推進させるプロジェクトにも参加、活動を行っている。							
【授業の学習内容】							
伝えなければいけないことを明確にでき、自分の言葉にするためには、常に考え伝える練習が必要である。プレゼンテーションの練習だけではなく、ディスカッションを通して、自分の言葉で語れるようにする。							
【到達目標】							
社会で必要とされるプレゼンテーションスキルを身に付け、聴き手を確実に行動に導くことができるプレゼンテーションができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション
2回目	プレゼンテーションの基本(良いプレゼンと悪いプレゼンの違いを認識することができる)
3回目	演習(プレゼンテーション)2回目の内容を理解して、現時点での自分自身のプレゼンテーションスキルを理解できるようになる
4回目	演習(プレゼンテーション)2回目の内容を理解して、現時点での自分自身のプレゼンテーションスキルを理解できるようになる
5回目	プレゼンテーションの構成を考える(相手に伝わるプレゼンテーションの構成を考えることができる)
6回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる
7回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる
8回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる
9回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる
10回目	課題(課題の内容発表、計画書作成)
11回目	演習(プレゼンテーション)構成や内容を考え、相手が行動に移せるプレゼンテーションができるようになる
12回目	演習(プレゼンテーション)構成や内容を考え、相手が行動に移せるプレゼンテーションができるようになる
13回目	演習(プレゼンテーション)構成や内容を考え、相手が行動に移せるプレゼンテーションができるようになる
14回目	課題発表で成果を見せる①
15回目	課題発表で成果を見せる②
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合を単位認定とする。
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・課題に対して適切に答えているか 30% ・自分の言葉で発表することができるか 40% ・論理的な説明ができているか 30%
受講生へのメッセージ	プレゼンテーションは社会人として重要なスキルの1つです。何を伝えるか内容も重要ですが、伝わるように構成や言葉選びも必要です。1つ1つの授業を大切に、学んだことを自分のものにしていけるように取り組んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	
授業に必要な資料は配布します。	

授業シラバス

授業科目名	料飲オペレーション	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	料飲・レストランオペレーションⅣ					
開講科目英名	F&B、Restaurant OperationⅣ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
アルバイト経験を含めおよそ10年間、レストランサービスの現場に携わる。フレンチのサービスから始まり、イタリアン、ブッフェ、和食、宴会、婚礼、カフェレストランなど、さまざまな業態のサービスに精通する。						
【授業の学習内容】						
プロフェッショナルとして料飲接客サービスを行うためには、料理を構成する食材の知識とルーツを知る必要がある。また、料理とともに楽しむ飲物の知識とサービススキルも欠かすことのできないものである。 本授業では上記を、座学と実習形式の授業を通じて習得する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・料飲(Food&Beverage)部門の興味、関心を高める ・基本的なレストランオペレーションフローが理解し、実践できるようになる。 ・レポートや授業を通じ、敬語表現や語彙力を高め活用できるようになる。 						

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)学びにあたって、知識や技術習得の必要性と活用、サービスの目的を理解する。
2回目	(座学①)レストランサービス / グリーティング～退店までの一連の流れが頭で理解できるようになる。
3回目	(座学②)宴会・婚礼サービス / ホテルにおける宴会の種類と重要性を理解できるようになる。
4回目	(座学③)コースの理解 / フレンチ、イタリアン、和食、中華の歴史や違いが説明できるようになる。
5回目	(座学④)料理 / 素材、調理法、調味料
6回目	(座学⑤)食品衛生 / 食中毒の種類と代表的なアレルギー
7回目	(確認テスト)座学2～5回の講義で学んだ知識の理解度確認
8回目	(アクティビティ①)メニュー研究)ホテルレストランのメニュー研究および解説
9回目	(アクティビティ②)私の好きなレストラン)趣旨説明およびプレゼン用資料作成 / PC使用
10回目	(アクティビティ③)私の好きなレストラン)発表および講評 / PC使用
11回目	(ワイン①)赤、白、スパークリングそれぞれの特徴が説明できるようになる。
12回目	(ワイン②)ワインづくりに使用される代表的なブドウの種類が説明できるようになる。
13回目	(サービス実習①)お皿の取り扱いを習得する。 / 料理出し、料理下げ、重ね下げ
14回目	(サービス実習②)トレイサービスができるようになる。 / グラス運び、グラス下げ、グラス提供
15回目	(サービス実習③)ワイン(スティル、スパークリング)の提供、抜栓ができるようになる。
16回目	(確認)サービス実習①～③の習得度確認
17回目	(座学⑥)朝食 / 代表的な朝食の説明、構成、重要性について
18回目	(調理体験)卵料理、肉料理
19回目	HOTEL INSPECTION: インターコンチネンタル大阪 サービス体験・施設見学
20回目	HOTEL INSPECTION: インターコンチネンタル大阪 サービス体験・施設見学
21回目	(座学⑦)ENGLISH TRAINING : 座学によるレストランサービスにおける接客英語
22回目	(座学&実習) ENGLISH TRAINING : 座学によるレストランサービスにおける接客英語 + 英語によるレストランサービス実習
23回目	前期実技試験前練習
24回目	(確認テスト)ENGLISH / General & Phrases
25回目	前期実技試験前練習
26回目	(アクティビティ②)メニュー研究)ホテルレストランのメニュー研究および解説
27回目	前期実技試験・振り返り
28回目	前期実技試験およびフィードバック
29回目	(調理体験)パンケーキづくり / 準備、実食
30回目	(調理体験)パンケーキづくり / 講義(クリーム、原価)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・確認テスト(座学&英語) 各15% ・HOTEL INSPECTIONレポート 30% ・前期実技試験 40%
受講生へのメッセージ	本稿では料飲接客サービスに関わる技術や知識の習得のほか、多様な価値観の存在、チームとしての意識を高めることを通じて、現場で通用するプロフェッショナルの育成を目指すものです。 体を動かす機会、外部との交流機会などを通じて、楽しい学びの時間としていきたいと思います。
【使用教科書・教材・参考書】	
1. 西洋料理 料飲接客サービス技法 2. ホテルビジネス 基礎編 3. ホテルビジネス 基礎編・管理編 練習過去問題集700選	

授業シラバス

授業科目名	ビジネス	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	宿泊システム I					
開講科目英名	Accommodation Dept. System I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			2		
【担当教員、実務者経験】						
ホテルの宿泊部門にて約15年勤務後に営業支配人を経由しながら本社営業部長にて約6年勤務後に自身にてW-makesを開業する。現在はホテル業界のコンサルタント業務全般ならびに企業の社員研修等を行い、ホテル業界への人材育成部門を中心に活動する。						
【授業の学習内容】						
実際にホテルのシステムを使って予約入力作業及びチェックインの作業も出来るようになる。						
【到達目標】						
宿泊課における予約課員及びフロント課員になる為の必要知識を理解し、現職のフロントクレーク同等のレベルになるようにする。						

回数	授業計画・内容
1回目	①講師の自己紹介並びに生徒の自己紹介 ②授業目的の説明
2回目	基本操作説明&へボン式入力練習 (例題を出して入力作業の反復練習を行う。)
3回目	予約入力練習 実際の画面を見ながら共有して予約作成する、
4回目	予約入力の反復練習 簡単な予約入力ができるようになる。
5回目	宿泊業務の説明と演習(宿泊料金についての知識及び予約変更も出来るようになる。)
6回目	プロフィール入力ができるようになる。(氏名、住所、緊急連絡先、職業など)
7回目	プロフィールと予約画面の手配事項を入力ができるようになる。(プロフィールと予約画面の関連性理解を深める。)
8回目	授業内小テスト実施
9回目	予約画面に色々な手配項目があることを理解して入力出来るようになる。
10回目	チェックイン処理演習
11回目	予約作成・予約変更・チェックイン処理演習
12回目	チェックイン処理演習の反復練習 PART-1 (グレードアップなどを理解して対応出来るようになる。)
13回目	チェックイン処理演習の反復練習 PART-2 (ルームチェンジなどを理解して対応出来るようになる。)
14回目	チェックインにおける小テスト
15回目	ホテルにおける宿泊の立ち位置の解説及び予約の重要性を理解する。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	企業研究	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	宿泊プランニング					
開講科目英名	Accommodation Planning	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			2		
【担当教員、実務者経験】						
1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、2013リゾートトラスト等を経て現在シンガポールに拠点を置くラグジュアリーホテル、Banyan tree グループのホテルのオペレーションに携わっています。料飲を中心に宿泊、人事総務など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。						
【授業の学習内容】						
想定されたホテルの料飲施設における商品醸成を試み、その作成過程で多岐にわたる条件に見合うプランを構築する。加えてパワーポイントなどを駆使しプレゼンテーションスキルを身につけ訴求力を高める また、実際に参考とするホテルを見学し具体的なイメージを作る。						
【到達目標】						
実際のホテルで通用するプランを考え作成することにより創造、企画、思考、訴求などの能力を高めることができる。						

回数	授業計画・内容
1回目	企業プロジェクトの目的とゴールを確認しスケジュールを組み立てることができる
2回目	商品醸成の条件設定を理解しそれに基づきプランのアウトラインを構築することができる
3回目	収支を勘案しながら実現可能なプランを作成することができる
4回目	ホテル視察を通じてプラン構築に必要な情報を収集できる
5回目	プレゼンテーションスキルを学び効果的なノウハウを習得することができる
6回目	プレゼンテーション用にパワーポイントでスライドを作成することができる
7回目	プレゼンテーションを実際に行い評価することによって改善点を見出すことができる
8回目	プレゼンテーション用にパワーポイントで発表することができる
9回目	ホテル視察を通じてプラン構築に必要な情報を収集できる
10回目	プレゼンテーション用にパワーポイントでスライドを作成することができる
11回目	プレゼンテーション用にパワーポイントでスライドを発表することができる
12回目	ホテル視察を通じてプラン構築に必要な情報を収集できる
13回目	プレゼンテーション用にパワーポイントでスライドを作成することができる
14回目	プラン内容の完成度を高め、同時にプレゼンテーションの訴求力を向上させることができる
15回目	最終プレゼンテーション および フィードバックにより完成度を確認することができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	3	担当教員	
開講科目名	エアライン接客 I						
開講科目英名	Airline Service I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
相手に好印象を与え、信頼につなげられるよう基本的なマナーを身につける。 仕事や社会生活に活かすべく実践演習を行う。							
【到達目標】							
社会人として必要なマナーの習得を目標とする。 本授業終了時には、自信を持って自ら考え行動ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)授業概要説明。自己紹介。良好な人間関係を築く要となる礼儀とマナーを理解する。
2回目	(第一印象)第一印象の重要性を学び、好印象へ導くポイントを理解することができる。
3回目	(身だしなみ)身だしなみチェックシートを用いて身だしなみを整える。 (立ち居姿勢)正しい立ち居姿勢、美しいお辞儀・挨拶ができるようになる。
4回目	(挨拶・お辞儀)挨拶・お辞儀をVTR撮影し、自己を認識し改善ができるようになる。
5回目	(表情トレーニング)表情筋を鍛えることで、豊かな表情を作ることができるようになる。 (言葉遣い)社会人としての正しい敬語を身につけることができるようになる。
6回目	(言葉遣い小テスト)社会人としての正しい敬語を身につけることができるようになる。
7回目	(コミュニケーション)コミュニケーションの重要性を理解する。 (話し方・聴き方)感じの良い話し方、聴き方ができるようになる。
8回目	(来客対応)良い印象を与える来客対応ができるようになる。
9回目	(訪問対応)訪問先にて、責任のある行動ができるようになる。
10回目	(電話対応)電話対応の基本的流れを習得する。 (発声練習)腹式呼吸を意識して、印象の良い応対ができるようになる。
11回目	(電話対応)電話対応の基本的流れを復習し、取りついでみる。
12回目	(顧客心理)ご要望を理解し、満足いただけるサービスを提供することができるようになる。
13回目	(試験対策)前期授業内容の振り返り。 (接客サービス動作チェック)様々なシチュエーションに対応することができるようになる。
14回目	(前期試験)筆記試験実施。
15回目	(試験解説)試験の解説後、前期の振り返りを実施し、成長を実感することができるようになる。
16回目	(オリエンテーション)後期授業の流れを説明。 (学生と社会人の違い)「働く、社会人」への理解を深め、仕事の品質を高めるための意識を習得する。
17回目	(第一印象)表情が相手に与える影響を実感して、改善につなげることができるようになる。 (身だしなみ)社会人として求められている身だしなみを復習。
18回目	(挨拶・お辞儀)対面・オンラインでの感じの良い挨拶・お辞儀を復習し、誠意ある対応ができるようになる。
19回目	(立ち居振る舞い)品格のある立ち居振る舞いについて復習。 ビデオ撮影をして自身の対応を振り返り、改善に繋げることができるようになる。
20回目	(電話対応)電話対応の知識について復習し、正しい姿勢・声の出し方を習得することができるようになる。 (コミュニケーション)円滑なコミュニケーションができるようになる。
21回目	(来客・訪問対応)良い印象を与え、責任ある行動ができるようになる。
22回目	(名刺交換)スムーズな名刺交換ができるようになる。 (言葉遣い)社会人としての正しい言葉遣いを身につけることができるようになる。
23回目	(手紙・封筒)手紙と封筒の基本的な書き方を学び、実際に記入する。 (FAX・メール)FAX・メールを送る際の基本的なマナーを学ぶ。
24回目	(贈答とお返し)相手への気持ちをより分かりやすく、形にして伝えることができるようになる。 (冠婚葬祭)人生や生活の節目の重要な行事について理解することができるようになる。
25回目	(食事のマナー)基本的なテーブルマナーを身につけ、美しい振る舞いができるようになる。 (和のマナー)和の基本的な知識を学びし、説明することができるようになる。
26回目	(仕事の進め方)組織の一員として働く為のルールを学ぶ。報連相の必要性を認識する。
27回目	(テスト前総復習)これまでに学習した内容を振り返り、改善につなげることができるようになる。
28回目	(後期試験)筆記試験・実技試験の実施。
29回目	(試験の解説)試験の解説ならびにまとめ。
30回目	(接客サービス動作演習)ロールプレイング。1年間の振り返りを実施し、自信を持つことができるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	3	担当教員	
開講科目名	国際観光Ⅳ						
開講科目英名	International TourismⅢ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

1988年から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる
 ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	理解度確認テスト実施
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験でいる様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらう事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語) ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)	

授業シラバス

授業科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	3	担当教員
開講科目名	国際観光V					
開講科目英名	International Tourism V	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			2		

【担当教員、実務者経験】

1988年から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる
 ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

回数	授業計画・内容
1回目	外国人から見た日本人の印象 日本人の心、本音と建て前の根底にあるもの(英語と日本語)で説明出来る様になる、
2回目	日本文化 神社仏閣の説明と参拝方法を英語と日本語で案内出来る様になる
3回目	京都の歴史(英語と日本語) 神社仏閣について(英語と日本語)で案内出来る様になる 京都の観光地研究
4回目	京都を英語で案内(竜安寺、三十三間堂、二条城)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現①
5回目	外国人の選ぶ人気の観光地とお土産物(国別) 好きな食べ物、嫌いな食べ物について知る、 浮世絵について(英語と日本語)で案内出来る様になる
6回目	奈良を英語で案内(東大寺、春日大社、鹿について)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現②
7回目	広島を英語で案内【厳島神社、宮島、原爆ドーム】(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現③
8回目	今まで学習したところの総復習、各自英語で案内出来る様、観光地を調べたり調べをする
9回目	京都、奈良、大阪についての質問に英語で答える練習をし、英語で答える事が出来る様になる
10回目	東京を英語で案内出来る様モデル会話学習(浅草寺、築地、皇居について)英語で質問に答える事が出来る様になる。
11回目	富士、箱根を英語で案内(富士山、富士五湖、箱根について)(英語で質問に答える事が出来る様になる
12回目	北海道を英語で案内(知床、阿寒湖、札幌等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
13回目	東北地方を英語で案内(松島、平泉、ねぶた等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
14回目	九州を英語で案内(別府、湯布院、阿蘇等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
15回目	総復習 今まで学習した地方についての質問に英語で答える事が出来る様になる。 レポート提出
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語) ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	映像制作						
開講科目英名	Video Production	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4		
【担当教員 実務者経験】							
フリーランスとして約10年、そして約5年キャンプがグオンを口口立ち上げ現在はマリンスポーツ施設のマネージメントを行いつつ、PV撮影やライブ配信といった映像制作も携わっています。							
【授業の学習内容】							
カメラ・PCまたはスマートフォンを用いて映像制作の基本を習得します。							
【到達目標】							
制作した映像の依頼者や見る人の気持ち考えられるような視点を身につけることも目標とします。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 前期の授業の流れを理解することができる。	16回目	これまでの学習をまとめ、理解度を確認できる				
2回目	映像制作における感動ポイントを見つけることができる①	17回目	作成した映像のフィードバックから、作品を手直してさらにレベル高い作品を作り上げることができる①				
3回目	映像制作における感動ポイントを見つけることができる② ※音なしで映像をみて感動ポイントを発見する	18回目	作成した映像のフィードバックから、作品を手直してさらにレベル高い作品を作り上げることができる②				
4回目	映像制作における感動ポイントを見つけることができる③ ※意見交換し、人との感動ポイントやテーマによって見方が変わることを理解する	19回目	授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる① テーマ発表。				
5回目	映像制作における感動ポイントを見つけることができる④ ※音響によって感動ポイントが変わることを理解する。	20回目	授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる②				
6回目	映像制作における感動ポイントを見つけることができる⑤ ※メッセージを入れることで、映像の見方が変わることを理解する。	21回目	授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる③				
7回目	映像制作における感動ポイントを見つけることができる⑥ ※映像の長さで、見ている人の気持ちが変わることを理解する。	22回目	授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる④				
8回目	2～7回目の授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる①。テーマ発表。	23回目	4～7回目の授業での映像を編集し、相手に作り手のこだわった”感動ポイント”がわかる映像を作成する①				
9回目	2～7回目の授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる②	24回目	4～7回目の授業での映像を編集し、相手に作り手のこだわった”感動ポイント”がわかる映像を作成する②				
10回目	2～7回目の授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる③	25回目	映像を見て、“感動ポイント”を見つけ出し、時間内に映像を作成することができる① ※課題1				
11回目	2～7回目の授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる④	26回目	映像を見て、“感動ポイント”を見つけ出し、時間内に映像を作成することができる② ※課題1				
12回目	8～11回目の授業での映像を編集し、相手に作り手のこだわった”感動ポイント”がわかる映像を作成する①	27回目	映像を見て、“感動ポイント”を見つけ出し、時間内に映像を作成することができる① ※課題2				
13回目	8～11回目の授業での映像を編集し、相手に作り手のこだわった”感動ポイント”がわかる映像を作成する②	28回目	映像を見て、“感動ポイント”を見つけ出し、時間内に映像を作成することができる① ※課題3				
14回目	映像発表 : 作り手の映像を見て、アドバイス・評価をしあって、さらにレベルの高い映像作成を目指すことができる①	29回目	映像発表 : 作り手の映像を見て、アドバイス・評価をしあって、さらにレベルの高い映像作成を目指すことができる①				
15回目	映像発表 : 作り手の映像を見て、アドバイス・評価をしあって、さらにレベルの高い映像作成を目指すことができる②	30回目	映像発表 : 作り手の映像を見て、アドバイス・評価をしあって、さらにレベルの高い映像作成を目指すことができる②				
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満し、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度評価 30% ・技術評価 70%						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

授業科目名	MICE・インバウンド	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
開講科目名	グローバルホスピタリティ I						
開講科目英名	Gloval Hospitality I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 1	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。報奨旅行の準備段階からの内勤業務や数千人規模のハワイツアーでの現地スタッフ業務も経験あり。現在は京都でのインバウンド向けサービスにも従事。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

回数	授業計画・内容
1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくらう:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	期末試験・今期のまとめ
15回目	試験・授業の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	イベント実践	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	イベントプランニング					
開講科目英名	Event Planning	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			2		

【担当教員、実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。
 様々な企業のブライダル事業及びブライダル装花部開設等コンサルトラーを務める。また、ホテルや商業施設装飾。CORAL SUITE VILLA淡路の創設等、多岐に渡る分野に従事。
 現在は、(株)ワールドウェディング場にてプロデュース事業部マネージャー、(株)セントカンパニー<空間フレグランス企業>にてマーケティングアンバサダーを担う。

【授業の学習内容】

企画立案から企画書作成。イベント運営まで必要なスキルや知識を学ぶ講義と実践を行います。

【到達目標】

イベントの企画、制作、運営。全てを担える力を取得する事を目標とします。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
2回目	企画立案力を身に付ける事ができる「アイデア出し～企画書作成まで」
3回目	制作スケジュールの考案と作成ができるようになる「グループワーク」
4回目	イベント概要書の作成ができるようになる「グループワーク」
5回目	企画書を作成できるようになる「グループワーク」
6回目	イベント制作の予算組み立てや見積もり書作成ができるようになる「グループワーク」
7回目	イベント当日に向けた準備に関するリスクマネジメントを理解できるようになる
8回目	イベント当日スケジュールを作成できるようになる「グループワーク」
9回目	イベント実施マニュアルが作成できるようになる
10回目	プレゼンテーションに必要な準備・ポイントができるようになる「プレゼンテーションリハーサル」
11回目	プレゼンテーション(7組) ※評価表に基づき、上位2チームのイベントを採用～2月9日本番実施
12回目	決定したイベント制作の流れを理解し、役割担当を明確にすることができるようになる
13回目	イベント報告書の作成が出来るようになる「イベント準備」
14回目	イベント実施(A班、B班)を通じて、これまでの学習の成果を発揮することができる
15回目	実施イベントの振り返りと報告書を作成する事ができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	資格試験講座	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	手話						
開講科目英名	Japaneses Sign Language	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
手話通訳士として、現在市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。							
【授業の学習内容】							
聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。							
【到達目標】							
職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 聴覚障害者とのコミュニケーション方法について考える 基本接客用語を学ぶ
2回目	接客の基本である挨拶の手話を学ぶ。指文字を学ぶ（清音）。
3回目	日程や曜日に使う数字を覚える。宿泊費や渡航費、予約日や時間を表現できるようにする。指文字を学ぶ（清音）。
4回目	日常会話や予約の時に使える人や家族、色などの手話を学ぶ。指文字を学ぶ（濁音・半濁音など）。
5回目	仕事や職業の手話を学ぶ。自分の職業を紹介できるようにする。指文字を15回目までに読み取れるようにする。
6回目	趣味の手話を学ぶ。主に日常会話で使えるようにする。指文字の復習。
7回目	疑問の手話を学び、お客様に質問できるようにする。指文字の復習。
8回目	動詞を学ぶ。フロントでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
9回目	楽しいや悲しいなど感情の手話を使ってコミュニケーションすることを学ぶ。指文字の復習。
10回目	テキストの例文を日常生活に置き換え、学習する。カウンターでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
11回目	今までの会話練習や手話コーラスを学習する。指文字の復習。
12回目	朝食や夕食、機内食などで使う食べ物の手話を学ぶ。指文字の復習。
13回目	試験のための復習（単語・指文字・数字等）で学んだ知識の定着を確認できる
14回目	試験（手話技能検定5級と会話試験） 模擬試験と1～13回の講義の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
15回目	学習のまとめとこれからの目標（手話技能検定4級受験）について概容を理解できる
16回目	これまでの復習 接客手話の知識を確認できる
17回目	乗り物の手話を学ぶ。道案内や路線についての会話ができるようになる。
18回目	生活の手話を学ぶ。フロントや受付で使用する筆談ができるようになる。
19回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ1。ホテル等で聴覚障害者からの依頼や質問に関する会話ができるようになる。
20回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ2。空港等の会話ができるようになる。
21回目	施設の手話を学ぶ1。ホテル等、館内施設の紹介や案内の会話ができるようになる。
22回目	施設の手話を学ぶ2。観光施設での会話ができるようになる。
23回目	これまでの復習及び数の手話を学ぶ。日常会話ができるようになる。
24回目	都道府県や地名の手話を学ぶ1。フロントやカウンターでの会話（おすすめの場所等）ができるようになる。
25回目	都道府県や地名の手話を学ぶ2。ツアーや旅行地での会話（おすすめの場所等）ができるようになる。
26回目	動詞の手話を学ぶ1。各自就職または就職を希望する分野の会話を考え、その会話ができるようになる。
27回目	動詞の手話を学ぶ2。今後に向けて聴覚障害者とのコミュニケーション方法を再度確認する。
28回目	試験（手話技能検定4級と会話試験） 模擬試験と1～13回の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
29回目	手話技能検定4級対策模擬試験を通して、これまでの学習を復習できる
30回目	後期のまとめとこれからの目標（手話技能検定4級）について概要を理解できる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	English Communication III	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
開講科目英名	English Communication III						
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U1.1 困難に直面した時の表現方法を学ぶ 現在の習慣についての表現を学ぶ
2回目	U 1.2 困ったことを表す表現を学ぶ 過去にあった習慣、困難なことについての表現を学ぶ
3回目	U1.3 強調表現、/f/の発音を学ぶ 様々なコミュニケーションの種類について学ぶ、問題についてディスカッションをする、また強く賛成する際の表現を学ぶ
4回目	U1.4 エッセイの組み立て方を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 宇宙、海洋探査に関する表現を学ぶ 比較を用いた表現を学ぶ
7回目	U2.2 自然界に関する単語を学ぶ 最上級を用いた表現を学ぶ
8回目	U2.3 アクセントの強弱、リズムについて学ぶ、/w/./v/の発音を学ぶ 情報を求める、また提供する際の表現を学ぶ
9回目	U2.4 数に関する表現を学ぶ 遠く離れた場所での生活についての記事を読む
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 性格のタイプに関する表現を学ぶ 関係詞を使った表現を学ぶ
12回目	U3.2 強い感情を表す単語を学ぶ 現在分詞を用いた表現を学ぶ
13回目	U3.3 語末の/t/の発音を学ぶ 礼儀正しいイントネーション(発音)を学ぶ、リクエストをする、また答える際の表現を学ぶ
14回目	U3.4 動物園の求人広告を読む パーソナルステイメントの書き方を学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
16回目	U4.1 仕事上の関係に関する表現を学ぶ [so..that][such..that][even][only]を用いた表現を学ぶ
17回目	U4.2 アイディアの評価に関する表現を学ぶ 再帰代名詞[sef][selves]、[other][another]を用いた代名詞について学ぶ
18回目	U4.3 子音-母音のリンキング(発音)について学ぶ、2語(フレーズ)でのストレス(発音)について学ぶ 有利な点、不利な点について話す
19回目	U4.4 チームワークについての記事を読む サマリーの書き方を学ぶ
20回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
21回目	U5.1 感情のコントロールに関する表現を学ぶ 仮定法を用いた表現を学ぶ
22回目	U5.2 やりたい事、気が進まない事に関する表現を学ぶ 「if」以外の仮定法の表現を学ぶ
23回目	U5.3 /l/./e/./æ/の発音について学ぶ、文中でのストレス(発音)を学ぶ 確かなもの、不確かなものを述べる際の表現を学ぶ
24回目	U5.4 翻訳アプリに関する記事を読む 自分の意見をサポートする例を述べる表現を学ぶ
25回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
26回目	U6.1 名声に関する表現を学ぶ 過去形・過去進行形・過去完了形・過去完了進行形を用いた表現を学ぶ
27回目	U6.2 「主張する」などの伝達動詞の表現を学ぶ [can]などの助動詞を用いた間接話法を学ぶ
28回目	U6.3 複合動詞の発音について学ぶ、母音の長短(発音)について学ぶ 憶測を立てる、また他人の憶測に反応する際の表現を学ぶ
29回目	U6.4 恥ずかしい失敗についての投稿を読む 長文や短文を用いた面白いストーリーの書き方を学ぶ
30回目	U6.5 Unitの復習 学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ホスピタリティヒューマンズスキル	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	社会人基礎力						
開講科目英名	Employment Support	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
商工会議所・企業・教育関係・病院などの企業や組織の新入社員研修・ビジネスマナー研修・コミュニケーション研修等の実務経験あり。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。							
【授業の学習内容】							
職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくための必要な基礎力を養うことを目的としている。特に重要なコミュニケーションを様々なコミュニケーションワークや教材を通じて、自分や相手との関係性の中で共に学び合う授業。「自己理解」「他者理解」「相互理解」を柱として進めていく。							
【到達目標】							
1. 社会人基礎力「考えぬく力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」を理解することができる。2. 社会にでた時に主体的にコミュニケーションを取ることができるようになる。3. 自分と自分以外のコミュニケーションの取り方を理解し実践できるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 社会人基礎力の要素が理解できるようになる
2回目	未来設計をイメージし自分のキャリアを意識できるようになる(人生の輪ワーク)
3回目	未来設計のための行動を主体的に促すことができるようになる①(ビジョンマップワーク)
4回目	未来設計のための行動を主体的に促すことができるようになる②(最高の状態・最低の状態ワーク)
5回目	コミュニケーションの仕組みを知り、意識し実践できるようになる
6回目	社会人に必要な傾聴力を学び、実践できるようになる
7回目	社会人に必要な質問力を学び、実践できるようになる
8回目	自分の事を知ることができるようになる(カラータイプ診断①)
9回目	相手の事を知り、言葉で表現できるようになる(カラータイプ診断②)
10回目	自分の苦手なコミュニケーションが分かるようになる
11回目	(補講日)自分も相手も大切にしながら主体的に行動できるようになる
12回目	自分ワークシートを完成(提出)
13回目	自分と相手の違いを知ることができるようになる(読書ワーク①)
14回目	自分と相手の違いを知ることができるようになる(読書ワーク①)
15回目	まとめを通じて知識の定着を確認できる
16回目	ホスピタリティ業界に必要な社会人即戦力を知ることができる
17回目	信頼関係のための聴き方が分かる(傾聴法)
18回目	アセスメントツールから自分の特性に気づくことができる
19回目	アセスメントツールから相手の特性に気づき、よりよいコミュニケーションの取り方を知ることができる
20回目	五感を通じて、自分や相手の大切にしていることを知ることができる
21回目	物語から大切にしていることはなにが分かるようになる
22回目	物語から、創造する力を伸ばすことができる
23回目	キャリア構築インタビューを通じて、今後のキャリアにいかすことができる
24回目	ストレス解消の方法が分かるようになる①
25回目	6か月間の体験をお互いに聴き、振り返りから残りの学生生活について考えることができる
26回目	セルフマネジメントの方法を知ることができる
27回目	ストレス解消の方法が分かるようになる②
28回目	未来設計をイメージしながらお金の設計ができるようになる
29回目	自信を持って行動できる自分スタイルが分かるようになる
30回目	まとめ(未来の手紙返却)を通じて知識の定着を確認できる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ビジネス	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	PRテクニック I			時間数 (単位)	30	
開講科目英名	PR technique I	授業形態	講義演習	開講区分		
学科	プライダルマネジメント科				2	
【担当教員 実務者経験】						
テレビ局にて番組制作・営業企画に携わる。その後ガールズのメガイベントの実行委員として従事。クロスメディアでのプロモーションの必要性を感じ、イベント企画運営の際にも様々な媒体と連携をとりながら、SNSでのプロモーションを独学で習得。現在はPR制作会社としてイベント企画運営・動画制作・メディアリレーション・外部広報をこなす。						
【授業の学習内容】						
PRはいつれの職業についても必要な項目。正しい広報のあり方を知り、プロモーションの基礎を学ぶ。また宣伝という分野では特にSNSのプロモーションのやり方、効果を学び、実践に役立てる。						
【到達目標】						
広報と宣伝の違いを知り、それぞれのメリットを知る。各 SNSの違いを知り、目的に応じたツールを選択することができるようになり、簡単な操作ができるようになる。						

回数	授業計画・内容
1回目	プロモーションの基礎について理解する。
2回目	コンプライアンスについて学び、発信する内容に責任を持つことを理解する。
3回目	インスタグラムの公式アカウント運用についてのルールを学び、指示されるアカウントの動向について学ぶ
4回目	インスタグラム 投稿のプランニングを学び、PR計画を立案できるようになる (PC使用)
5回目	インスタグラム 投稿用写真の構成について立案できるようになる (PC使用) 5限目
6回目	撮影スケジュールの策定・および撮影小道具の準備を行うことで、撮影準備の工程を学び習得する。
7回目	インスタグラム用 投稿写真撮影①
8回目	インスタグラム用 投稿写真撮影②
9回目	インスタグラム用 投稿写真撮影③
10回目	投稿用写真の加工 リール投稿動画の作成(PC使用)
11回目	投稿用写真の加工 リール投稿動画の作成(PC使用)
12回目	広報についての基礎知識、宣伝ツールの違いについて学び、それぞれの特徴を理解した上で的確なツールを選択できるようになる。
13回目	フェイスブックビジネスマネジャーで投稿する手法を知り、広告運用の基礎を学ぶ。
14回目	実習現場にてSNS投稿用写真撮影→ 投稿用画像・テキストの課題提出あり
15回目	実習現場にてSNS投稿用写真撮影→ 投稿用画像・テキストの課題提出あり
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される。□
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度 30% ・制作物[完成度(クオリティと訴求力) & 提出期限] 50% ・小テスト 20%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
スマホ・パソコン	

授業シラバス

授業科目名	コミュニケーション	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	リーダーシップ論 I					
開講科目英名	Leadership theory I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員 実務者経験】

株式会社Let's supprt 代表取締役 企業支援事業として、人事コンサルティング、人事代行、組織開発、新規事業サポート、キャリアコンサルティング、集客支援、営業支援など“企業が必要とする人財像”や“人が集まる企業の共通点”のノウハウを活かし、企業再生事業を展開中。

【授業の学習内容】

仕事に就き、即戦力となれるよう「リーダーシップ」の取れる人材を目指すため、「リーダーシップ」の取り方を学ぶ。

【到達目標】

リーダーシップとは何かを理解し、苦手な部分を発見し、意識して行えるよう力をつけることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業の流れを知ることができる。
2回目	リーダーシップとは？リーダーとリーダーシップの違いを知ることができる。
3回目	リーダーシップの3つの要素を理解することができる。
4回目	リーダーシップの3つの要素から、自分が今後強化しなければならないことは何かを理解することができる。
5回目	チームで求められるリーダーシップの力を具体的に考える。(事例①)
6回目	チームで求められるリーダーシップの力を具体的に考える。(事例②)
7回目	課題①)自分がリーダーシップをとるならどのように行動するか考察をする。
8回目	課題①)自分がリーダーシップをとるならどのように行動するか考察したものを検証することができ、他からアドバイスをもらう。
9回目	課題②)自分がリーダーシップをとるならどのように行動するか考察をする。
10回目	課題②)自分がリーダーシップをとるならどのように行動するか考察したものを検証することができ、他からアドバイスをもらう。
11回目	チームでのリスクマネジメントを考える。事例①
12回目	チームでのリスクマネジメントを考える。事例②
13回目	リーダーシップを身に着けることができる。実践チャレンジ①
14回目	リーダーシップを身に着けることができる。実践チャレンジ②
15回目	振り返り 改めてリーダーシップとは何か。各自リーダーシップをとれるよう目標を立てる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される□
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度 40% ・提出課題 60%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	



大阪ウェディング&ホテル・IR専門学校

評価方法記載事例①

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「*○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」とする。
*(制作課題の提出率および完成度とする)(提出課題の完成度およびプレゼンレベルとする)(筆記試験点数とする)(提出レポートの内容完成度とする)

評価方法記載事例②

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、以下の割合にておこなう。
◎テスト演習10%
◎演習課題の完成度_90%

授業シラバス

授業科目名	企業研究	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
開講科目名	セールスプランニング I						
開講科目英名	Sales Planning	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
ホテルの宿泊部門にて約15年勤務後に営業支配人を経由しながら本社営業部長にて約6年勤務後に自身にてW-makesを開業する。現在はホテル業界のコンサルタント業務全般ならびに企業の社員研修等を行い、ホテル業界への人材育成部門を中心に活動しております。							
【授業の学習内容】							
商品造成の仕組みや、販売する為に必要な行動や協力会社の繋がり、よりクリーンな職場環境をシフト作成して、企業の一員になる為の授業です。							
【到達目標】							
序盤はマネージメントとは？というテーマの元で幅広く理解して頂き、終盤部分ではグループ内でのリサーチ力&企画力&伝達力を学び、後々の新入社員での経験すべきであろう事業をこの授業の中で体験できる授業と考えております。							

回数	授業計画・内容
1回目	①講師の自己紹介並びに生徒の自己紹介 ②授業目的の説明
2回目	①ホテル業界における営業企画の1年間の業務を解説し商品造成のタイミングを理解する。②マーケティングの簡単な説明をして売れる構造を理解する。
3回目	グループディスカッション(以下GDと明記)にて大阪市内にて模擬店舗の構想を考える。①店のコンセプト②店舗名③メニュー(ランチ&ディナー)を考える。
4回目	3回目のGDからプレゼンを練習行い、クラス内にて発表を行う。
5回目	GDにて指定された土地と来場者数から食イベントを開催し、売上目標並びに会場レイアウト&マンニングシフト&売上目標を掲げる
6回目	5回目のGD延長にてイベントスペース内での経費なども、各グループにて考慮したイベント作成を行う。
7回目	5回目、6回目におけるGDから発表を行う。
8回目	5回目、6回目、7回目の授業より感想レポートを作成し、それを小テストという位置付けにて、評価材料とする。
9回目	GDにて指定された土地より模擬旅館をコーディネートする。①旅館ネーミング②コンセプト③宿泊プラン④アクティビティ⑤集客方法⑥人材募集などを考える。(PART①西日本)
10回目	9回目の延長にて資料作成を行う。
11回目	9回目及び10回目のクラス内にて発表を行い。プレゼンの仕方、話し方などを覚える。
12回目	今までの振り返ってクラス全体で反省会並びに、プレゼンGDに向上が必要であろうとするスキルの確認を行う。
13回目	GDにて指定された土地より模擬旅館をコーディネートする。①旅館ネーミング②コンセプト③宿泊プラン④アクティビティ⑤集客方法⑥人材募集などを考える。(PART①東日本)
14回目	13回目の延長にて資料作成を行う。
15回目	13回目及び14回目のクラス内にて発表を行い。プレゼンの仕方、話し方などを覚える。
16回目	いままでのGDより得た知識の元で再度マーケティングの授業を行い、企画の大事さ、スタッフの大切さ、連帯感や伝達力の重要性を再認識してもらう。
17回目	大阪市内にて模擬の土地にてホテルを立案させる。①ホテル名②総客室数③各部屋タイプの広さ④このホテルにしかないサービス など
18回目	17回目の延長にて①そのホテルの組織図も作成させレストランコンセプトなど、ホテル全体をプロデュースさせる。
19回目	GDにより出来た成果物の確認を発表における構成をして発表の練習を行う。
20回目	17回目よりGDの発表を行う。
21回目	ホテル見学 大阪市内
22回目	ホテル見学 大阪市内
23回目	大阪市内にて模擬の土地にてホテルを立案させる。①ホテル名②宴会場③結婚式場④このホテルにしかないサービス など
24回目	17回目の延長にて①そのホテルの組織図も作成させブライダルのコンセプトなど、マンニングなどホテル全体をプロデュースさせる。
25回目	GDにより出来た成果物の確認を発表における構成をして発表の練習を行う。
26回目	13回目から23回目までの感想レポートを提出しそれを小テストという位置付けにて、評価材料とする。
27回目	大阪市内にて模擬の土地にてゲストハウスを立案させる。①施設名②会場内レイアウト③コース料理④サービスクオリティの維持 などなど
28回目	17回目の延長にて①そのゲストハウスの組織図も作成させブライダルのコンセプトなど、マンニングなどホテル全体をプロデュースさせる。
29回目	GDにより出来た成果物の確認を発表における構成をして発表の練習を行う。
30回目	総復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ホテル宿泊オペレーション	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	ホテルマネジメント I					
開講科目英名	Hotel Management I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。
現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートル・ド・テル連盟 副会長、メートル・ド・セルヴィスの会 幹事、国際メートル・ド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サービスコンクール日本大会(メートル・ド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

ホテル全体のマネジメント、部門別(オペレーション部門、サポート部門)のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。

【到達目標】

ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	ホテルマネジメントの基本原則① 1. 科目の概要、目標解説。 2. ホテル分類を理解できるようになる。
2回目	ホテルマネジメントの基本原則② 1. 経営マネジメント 4. 運営マネジメントを理解できるようになる。
3回目	ホテルの経営形態① 1. ホテルにおける所有・経営・運営 2. ホテルの資産マネジメントを理解できるようになる。
4回目	ホテルの経営形態② 1. ホテルの経営方式を理解できるようになる。
5回目	世界のホテルビジネス① 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)を理解できるようになる。
6回目	世界のホテルビジネス② 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)を理解できるようになる。
7回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴① 1. オペレーションシステムとサービス 2. ホテルブランドの確立と戦略を理解できるようになる。
8回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴② 1. レベニューマネジメントを理解できるようになる。
9回目	ホテルの収益構造① 1. ホテルの売上げ構成比率 2. 部門別収益構造の違いを理解できるようになる。
10回目	ホテルの収益構造② 1. GOPを理解できるようになる。
11回目	ホテルの情報システム 1. 宿泊部門の情報システム 2. 料飲部門の情報システム 3. 管理部門の情報システムを理解できるようになる。
12回目	ホテルの会計基準 1. ホテルの会計基準の特徴 2. ホテル業の収益会計と費用会計 3. ユニフォーム・システムを理解できるようになる。
13回目	ヒューマン・リソース・マネジメントを理解できるようになる。
14回目	試験: 1. 用語定義・概念解説 2. 論述式
15回目	振り返り: 1. 前期試験解説 2. その他質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。 参考書籍: ホテルマネジメント、ホテル・ビジネス・ブック、観光庁統計資料等。	

授業シラバス

授業科目名	ホテル宿泊オペレーション	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	ホテルマネジメントⅡ					
開講科目英名	Hotel Management Ⅱ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェ이터、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。
現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

ホテル全体のマネジメント、部門別(オペレーション部門、サポート部門)のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。

【到達目標】

ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	ホテルの収益構造① 1. ホテルの売上げ構成比率 2. 部門別収益構造の違いを理解できるようになる。
2回目	ホテルの収益構造② 1. GOPを理解できるようになる。
3回目	部門別マネジメント(Rooms Division): 1. KIPと計数管理 2. 客室稼働率 3. ADR 4. Rev PAR 5. Double Occupancy 6. Room Rate 7. Revenue Managementを理解できるようになる。
4回目	部門別マネジメント(Food & Beverage): 1. 料飲部門の収益構造と特徴 2. レストランにおけるKPI 3. Revenue Managementを理解できる様になる。
5回目	部門別マネジメント(Banquet Service): 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのプライダル戦略を理解できるようになる。
6回目	部門別マネジメント(Sales & Marketing): 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門を理解できるようになる。
7回目	部門別マネジメント(Human Resources): 1. 人材マネジメント(外資系ホテルと日系ホテルとの違い) 2. トレーニングシステムが理解できるようになる。
8回目	ホテルの会計基準① 1.ホテルの会計基準の特徴 2. ホテル業の収益会計と費用会計を理解できるようになる。
9回目	ホテルの会計基準② 3. ユニフォーム・システムを理解できるようになる。
10回目	ヒューマン・リソース・マネジメントを理解できるようになる。
11回目	リスクマネジメント(危機管理)① 1. 防火管理を理解できるようになる。
12回目	リスクマネジメント(危機管理)② 2. 事故管理 3. 防犯管理(盗難犯罪の防止) 4. UG。暴力団への対応 5. 遺失物管理 を理解できるようになる。
13回目	ホテル総支配人の役割 1. ホテル部門の配置 2. 総支配人の仕事 3.外資系・日系ホテル組織の相違点 4. 小規模ホテルと旅館
14回目	試験: 1. 用語定義・概念解説 2. 論述式
15回目	振り返り: 1. 後期試験解説 2. その他質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。 参考書籍: ホテルマネジメント、ホテル・ビジネス・ブック、観光庁統計資料等。	

授業シラバス

授業科目名	企業研究	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
開講科目名	企業研究Ⅱ						
開講科目英名	Company Research II	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。 CGBサーヴィスコンクール日本大会 審査員							
【授業の学習内容】							
企業(ホテル)のプロモーションを実際に企画提案することにより、企画提案書の立案、作成、プレゼンテーションを学ぶ。							
【到達目標】							
ホテルのプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、プレゼンテーション力を高める。							

回数	授業計画・内容
1回目	【科目概要・目標解説】科目の概要、目標解説を行い、プロジェクトの目的を確認することができる。
2回目	【テーマ発表】 企業訪問を行い、見学、課題説明を受けた後、情報収集、ヒアリング、質疑応答を行い、プロジェクトをスタートさせる。
3回目	【現地視察】 クライアント元を視察し、プロジェクトに必要な情報を収集できる。
4回目	【現地視察】 クライアント元を視察し、プロジェクトに必要な情報を収集できる。
5回目	【研究概要の構築】 企画書の目的設定を行う。
6回目	ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出を行い、個人のプロジェクト開始の土台を形成することができる。
7回目	プランの絞込みを行い、提案内容の実行できる方法論を策定できる
8回目	予算を計算し、スケジュールの策定を行うことができる。
9回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認を行うことができる。
10回目	問題点の整理を行い、提案内容(プラン)の決定、提案のメリット構築を行う。
11回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法を決定させることができる。
12回目	提案書の作成ができる
13回目	問題点の整理、提案内容、提案のメリット、予算、スケジュールを再度確認し決めることが出来る。また 問題点とその解決方法を考えることができる。
14回目	問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。
15回目	問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。
16回目	プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。
17回目	最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる
18回目	【第1回プレゼンテーション】 ・プレゼンテーション ・フィードバックを行い、プランの見直し、不足点をあらい出すことができる。
19回目	【プレゼンテーション内容精査】 企画書の目的設定精査、ゲストターゲットの設定精査を行う。
20回目	前回のプレゼンテーションの反省を踏まえ、プレゼンテーション・プランの最終決定させることができる。
21回目	提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。
22回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。
23回目	提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。
24回目	提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。
25回目	プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。
26回目	最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる
27回目	【最終プレゼンテーション】 ・企業様の前でプレゼンテーションを行い、採用プランの決定を行う。 ・フィードバックをいただき、改善点を見つめなおすことができる。
28回目	フィードバックを踏まえ、プレゼンテーションを改善できる
29回目	改善したプレゼンテーションを改めて発表し、他者の発表に対するフィードバックを行うことができる
30回目	プロジェクトを通して学んだ内容、授業を通じて成長した点を確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	Global Communication VI	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
開講科目英名	Global Communication VI						
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授経験2年以上の講師							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	U1.1 困難なことの対処方法について話す
2回目	U1.2 過去にあった困難なことについて話す
3回目	U1.3 過去と現在にあったものを比較し、ディスカッションをする
4回目	U1.4 意見を述べるエッセイを読む、書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング評価: ロールプレイ・プレゼンテーション「過去の懐かしい思い出」 ・前期発表と連動する内容
6回目	U2.1 比較を用いた表現を使って、探究や研究について話す
7回目	U2.2 最上級を用いた表現を使って、異なる環境下での生物について話す
8回目	U2.3 重要な情報の交換、自由時間の行動についてアドバイスする
9回目	U2.4 場所についての説明文を書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「アウトドア計画を立てる」 ・前期発表と連動する内容
11回目	U3.1 様々な性格のタイプについて話す
12回目	U3.2 現在分詞を使って、好きなもの・嫌いなものについて話す
13回目	U3.3 リクエストや助けが必要な場面での会話を練習する
14回目	U3.4 パーソナルステートメントを書く
15回目	U3.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「就職面接」 ・前期発表と連動する内容
16回目	U4.1 生活の中でのサポートチームについて話す
17回目	U4.2 再帰代名詞を使って、何かを決定するために必要な評価について話す
18回目	U4.3 有利な点/不利な点などの観点からジョブシェアリングについて話す
19回目	U4.4 記事のサマリーを書く
20回目	U4.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「資金調達のためのイベントを計画する」 ・前期発表と連動する内容
21回目	U5.1 仮定法の表現を使って、新しい技術が人に与える影響について話す
22回目	U5.2 未来のコミュニケーションについてディスカッションをする
23回目	U5.3 ビデオゲームについてディスカッションをする 確かなもの・不確かなものについて話す
24回目	U5.4 オンライン記事に対するコメントを、例を交えて書く
25回目	U5.5 Time to Speak: ・スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「コミュニティ改善計画」 ・前期発表と連動する内容
26回目	U6.1 時制を用いた表現を使って、予期せぬ名声について話す
27回目	U6.2 間接話法を使って、予期できない状況について話す
28回目	U6.3 予期せぬ状況の中での会話を練習する
29回目	U6.4 面白いストーリーを書く
30回目	U6.5 Time to Speak: 前期発表
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
開講科目名	プレゼンテーションスキルⅣ					
開講科目英名	Presentation skillⅣ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					

【担当教員 実務者経験】
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書業務に就く。その後、企業研修講師、講師育成講師を行いながら、専門学校では就職指導の講師を担当する。産業カウンセラー協会では研修の企画、広報を担当すると同時に若年者への指導、女性活用を推進させるプロジェクトにも参加、活動を行っている。

【授業の学習内容】
伝わるコミュニケーションの基礎を理解して身につけ、プレゼンテーションの基本から応用までを、復習しながら確実に習得していく。様々なワークを通して、責任感、協調性、マナー、個人ワークを通じて主体性、パソコンスキルなど社会人として必要となる基礎力も同時に習得する。情報共有のツールとして、Teamsを積極的に活用していく。

【到達目標】
人に聞いてもらえる、人に共感してもらえる、人に行動してもらえるプレゼンテーションができるようになることを目指す。より聞き手に伝わるプレゼンの構成を作ることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業内容、評価等の説明、マインド設定など最終目標に向けてモチベーションを高める。わかりやすいプレゼンとは何かを追究することができる。
2回目	聞き手がわかりやすく納得するプレゼンとはなにかを考えることができる。
3回目	聞き手がわかりにくく、戸惑うプレゼンとは何かを考えることができる。
4回目	前期に作成したPPTを見直し、わかりやすい資料とわかりにくい資料のポイントを考えることができる。
5回目	スクリーンを通してPPT資料を確認し、気を付けるポイントを検証することができる。
6回目	スライドレイアウトの基本原則が守られているかどうかを確認する。
7回目	オブジェクトが綺麗にそろっているかを確認する(ズレていた際の見え方にも気を付ける)
8回目	結論が明確に伝わっているかを検証することができる。
9回目	具体的に話せているかどうかを検証することができる。
10回目	ボディランゲージを加えて話せているかどうかを検証することができる。
11回目	最終練習①(動画撮影を撮影し、確認をすることの繰り返し)
12回目	最終練習②(動画撮影を撮影し、確認をすることの繰り返し)
13回目	発表と評価① レベルアップの検証を行う
14回目	発表と評価② レベルアップの検証を行う
15回目	振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業取り組み姿勢・・・30% ・最終プレゼン発表・・・70%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	料飲オペレーション	必修 選択	必修	年次	4	担当教員
開講科目名	料飲解説・ソムリエ実習					
開講科目英名	Sommelier Training	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科					
【担当教員 実務者経験】						
1994年奈良ホテルに入社以降、宴会食堂部(メインダイニングルーム「三笠」・バー「ザ・バー」・日本料理「花菊」、宴会、婚礼等のサービス)、宿泊部、総務部、経営企画、営業企画、ジェイアール西日本ホテル開発へ出向(ホテルグランヴィア京都にて勤務) 等さまざまな業務に携わる。2013年7月、世界最大のカクテルコンペティションである「ディアジオワールドクラス2013」世界大会で「キングス・オブ・フレイバー」部門優勝、アジア・パシフィックチャンピオンを獲得し、総合世界第3位の栄誉に輝いた。現在、営業本部 宴会食堂部付課長として勤務し、「バーとカクテルの価値を高める」使命の元、国内外でアンバサダーとしてカクテル作りのワークショップや講演、オリジナルカクテルの開発などを積極的に行っている。						
【授業の学習内容】						
基礎知識、ワインサービス実習、テイステイング						
【到達目標】						
ホテルマン、サービスマンとして最低限知っておかないといけないワインの基礎知識とワインサービスの基本を修得していただく。						

回数	授業計画・内容
1回目	ワインとはどのようなお酒で、どのような歴史を歩んできたかを理解する
2回目	赤ワイン、白ワインがどうやってできるかを知ることができるようになる
3回目	ワインの抜栓ができるようになる Part.1
4回目	ワインの抜栓ができるようになる Part.2
5回目	フランス・ブルゴーニュのワインを知ることができるようになる
6回目	ボジョレー・ヌーボーが何か知ることができる
7回目	フランス・ボルドーのワインを知ることができるようになる
8回目	スパークリングワインとは何か理解することができるようになる
9回目	ワインのサービスができるようになるようになる
10回目	授業の復習をし、学習内容を復習することができる
11回目	中間試験により知識の定着を確認できる
12回目	ワインの保存、管理ができるようになるようになる
13回目	ソムリエの仕事を理解できるようになる
14回目	オールドワールドのワインを知ることができるようになる
15回目	ニューワールドのワインを知ることができるようになる
16回目	赤ワインのテイステイングでブルゴーニュとボルドーの違いを知ることができるようになる
17回目	白ワインのテイステイングでブルゴーニュとボルドーの違いを知ることができるようになる
18回目	フランス・ボルドーとブルゴーニュのワインをより深く知ることができるようになる
19回目	赤ワインテイステイングでイタリア、スペイン、ドイツのワインを知ることができるようになる
20回目	白ワインテイステイングでイタリア、スペイン、ドイツのワインを知ることができるようになる
21回目	オールドワールドのワインを知ることができるようになる
22回目	赤ワインテイステイングでフランスとアメリカのワインの違いを知ることができるようになる
23回目	白ワインテイステイングでフランスとアメリカのワインの違いを知ることができるようになる
24回目	アメリカのワインをより深く知ることができるようになる
25回目	赤ワインテイステイングでニューワールドのワインの違いを知ることができるようになる
26回目	白ワインテイステイングでニューワールドのワインの違いを知ることができるようになる
27回目	ニューワールドのワインをより深く知ることができるようになる
28回目	ワインを安全にスマートにサービスできるようになる
29回目	ワインのアップセールスができるようになる
30回目	試験、シャンパン・サーヴェラーージュを知ることができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	4	担当教員	
開講科目名	エアライン接客Ⅱ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
開講科目英名	Airline ServiceⅡ						
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
相手に好印象を与え、信頼につなげられるよう基本的なマナーを身につける。 仕事や社会生活に活かすべく実践演習を行う。							
【到達目標】							
社会人として必要なマナーの習得を目標とする。 本授業終了時には、自信を持って自ら考え行動ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)授業概要説明。自己紹介。良好な人間関係を築く要となる礼儀とマナーを理解する。
2回目	(第一印象)第一印象の重要性を学び、好印象へ導くポイントを理解することができる。
3回目	(身だしなみ)身だしなみチェックシートを用いて身だしなみを整える。 (立ち居姿勢)正しい立ち居姿勢、美しいお辞儀・挨拶ができるようになる。
4回目	(挨拶・お辞儀)挨拶・お辞儀をVTR撮影し、自己を認識し改善ができるようになる。
5回目	(表情トレーニング)表情筋を鍛えることで、豊かな表情を作ることができるようになる。 (言葉遣い)社会人としての正しい敬語を身につけることができるようになる。
6回目	(言葉遣い小テスト)社会人としての正しい敬語を身につけることができるようになる。
7回目	(コミュニケーション)コミュニケーションの重要性を理解する。 (話し方・聴き方)感じの良い話し方、聴き方ができるようになる。
8回目	(来客対応)良い印象を与える来客対応ができるようになる。
9回目	(訪問対応)訪問先にて、責任のある行動ができるようになる。
10回目	(電話対応)電話対応の基本的流れを習得する。 (発声練習)腹式呼吸を意識して、印象の良い応対ができるようになる。
11回目	(電話対応)電話対応の基本的流れを復習し、取りついでみる。
12回目	(顧客心理)ご要望を理解し、満足いただけるサービスを提供することができるようになる。
13回目	(試験対策)前期授業内容の振り返り。 (接客サービス動作チェック)様々なシチュエーションに対応することができるようになる。
14回目	(前期試験)筆記試験実施。
15回目	(試験解説)試験の解説後、前期の振り返りを実施し、成長を実感することができるようになる。
16回目	(オリエンテーション)後期授業の流れを説明。 (学生と社会人の違い)「働く、社会人」への理解を深め、仕事の品質を高めるための意識を習得する。
17回目	(第一印象)表情が相手に与える影響を実感して、改善につなげることができるようになる。 (身だしなみ)社会人として求められている身だしなみを復習。
18回目	(挨拶・お辞儀)対面・オンラインでの感じの良い挨拶・お辞儀を復習し、誠意ある対応ができるようになる。
19回目	(立ち居振る舞い)品格のある立ち居振る舞いについて復習。 ビデオ撮影をして自身の対応を振り返り、改善に繋げることができるようになる。
20回目	(電話対応)電話対応の知識について復習し、正しい姿勢・声の出し方を習得することができるようになる。 (コミュニケーション)円滑なコミュニケーションができるようになる。
21回目	(来客・訪問対応)良い印象を与え、責任ある行動ができるようになる。
22回目	(名刺交換)スムーズな名刺交換ができるようになる。 (言葉遣い)社会人としての正しい言葉遣いを身につけることができるようになる。
23回目	(手紙・封筒)手紙と封筒の基本的な書き方を学び、実際に記入する。 (FAX・メール)FAX・メールを送る際の基本的なマナーを学ぶ。
24回目	(贈答とお返し)相手への気持ちをより分かりやすく、形にして伝えることができるようになる。 (冠婚葬祭)人生や生活の節目の重要な行事について理解することができるようになる。
25回目	(食事のマナー)基本的なテーブルマナーを身につけ、美しい振る舞いができるようになる。 (和のマナー)和の基本的な知識を学びし、説明することができるようになる。
26回目	(仕事の進め方)組織の一員として働く為のルールを学ぶ。報連相の必要性を認識する。
27回目	(テスト前総復習)これまでに学習した内容を振り返り、改善につなげることができるようになる。
28回目	(後期試験)筆記試験・実技試験の実施。
29回目	(試験の解説)試験の解説ならびにまとめ。
30回目	(接客サービス動作演習)ロールプレイング。1年間の振り返りを実施し、自信を持つことができるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	4	担当教員	
開講科目名	国際観光VI						
開講科目英名	International Tourism VI	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

1988年から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	理解度確認テスト実施
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験でいる様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらう事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

授業科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	4	担当教員	
開講科目名	国際観光Ⅶ						
開講科目英名	International TourismⅦ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

1988年から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

回数	授業計画・内容
1回目	外国人から見た日本人の印象 日本人の心、本音と建て前の根底にあるもの(英語と日本語)で説明出来る様になる、
2回目	日本文化 神社仏閣の説明と参拝方法を英語と日本語で案内出来る様になる
3回目	京都の歴史(英語と日本語) 神社仏閣について(英語と日本語)で案内出来る様になる 京都の観光地研究
4回目	京都を英語で案内(竜安寺、三十三間堂、二条城)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現①
5回目	外国人の選ぶ人気の観光地とお土産物(国別) 好きな食べ物、嫌いな食べ物について知る、 浮世絵について(英語と日本語)で案内出来る様になる
6回目	奈良を英語で案内(東大寺、春日大社、鹿について)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現②
7回目	広島を英語で案内【厳島神社、宮島、原爆ドーム】(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現③
8回目	今まで学習したところの総復習、各自英語で案内出来る様、観光地を調べたり下調べをする
9回目	京都、奈良、大阪についての質問に英語で答える練習をし、英語で答える事が出来る様になる
10回目	東京を英語で案内出来る様モデル会話学習(浅草寺、築地、皇居について)英語で質問に答える事が出来る様になる。
11回目	富士、箱根を英語で案内(富士山、富士五湖、箱根について)(英語で質問に答える事が出来る様になる
12回目	北海道を英語で案内(知床、阿寒湖、札幌等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
13回目	東北地方を英語で案内(松島、平泉、ねぶた等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
14回目	九州を英語で案内(別府、湯布院、阿蘇等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
15回目	総復習 今まで学習した地方についての質問に英語で答える事が出来る様になる。 レポート提出
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語) ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)	

授業シラバス

授業科目名	リゾート・ホテルオペレーション	必修 選択	必修 選択	年次	4	担当教員	
開講科目名	IR基礎						
開講科目英名	IR Basic	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 2	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
ラスベガス・ディーラーズスクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授、トヨタ旅行ホテル専門学校のカジノマネージャー講座の非常勤講師を歴任。日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書「IRの有効性とカジノの本質」)							
大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)							
【授業の学習内容】							
2018年夏にカジノを収益のエンジンとしたIR(Integrated Resort)を合法化するための法案が可決された。まだ日本ではIRとカジノを同じものにとらえる風潮が残っているがそれは間違いである。また、日本ではカジノを合法化する最後の国となり、なおかつ世界で規制が最も厳しくなりそうである。本講義では日本のIRの「本質」を学習する。							
【到達目標】							
①観光産業にどのような形でIRが寄与できるかを理解できる。②日本におけるIRの制度がどのようなものであるかについて深く理解できる。							

回数	授業計画・内容
1回目	IR施設とは何かを理解できる
2回目	日本における観光政策の歴史と今後の課題を理解できるようになる
3回目	日本の観光産業の基本構造と、IR施設の重要性を理解できる
4回目	1964年東京オリンピック、2020年東京オリンピック、1970年大阪万博、2025年大阪万博について理解できるようになる。
5回目	日本における合法的なギャンブル産業について理解できるようになる
6回目	日本における合法的なギャンブル産業について論じることができる
7回目	日本におけるギャンブル依存症対策について理解できるようになる
8回目	日本におけるギャンブル依存症対策について論じることができる
9回目	日本におけるIRの制度設計について理解できるようになる
10回目	日本におけるIRの制度設計について論じることができる
11回目	日本におけるIRの課題について理解できるようになる
12回目	日本におけるIRの課題について論じることができる
13回目	日本におけるIRの制度の詳細な点について理解できるようになる
14回目	日本におけるIRの制度の詳細な点について論じることができる
15回目	アメリカのカジノについて理解できるようになる
1回目	ラスベガスのIRについて理解できるようになる。
2回目	インディアンカジノについて理解できるようになる。
3回目	マカオのIRについて理解できるようになる。
4回目	シンガポールの観光振興、依存症対策について理解できるようになる。
5回目	シンガポールのIRについて理解できるようになる。
6回目	モナコの観光振興について理解できるようになる
7回目	世界の主要なIR運営会社を学び、それぞれの特徴を理解することができる
8回目	【フィールドワーク】IR建設予定地を見学し、具体的な建設計画を理解できる
9回目	【フィールドワーク】IR建設予定地を見学し、具体的な建設計画を理解できる
10回目	訪日外国人の特徴から、日本のIRの運営方針を考察できる
11回目	IRにおけるノンゲーミングの重要性について理解できるようになる。
12回目	学習内容を踏まえ、建設予定のIR施設に関する架空のプランを構築できる
13回目	学習内容を踏まえ、建設予定のIR施設に関する架空のプランを構築できる
14回目	【プレゼンテーション】IR施設のプランを発表することができる
15回目	まとめ(日本版IR)を通じて知識の定着を確認できる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらおうと、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり(日本語) ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)	

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	イベントプロデュース I					
開講科目英名	Event produce I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員 実務者経験】

ファッションや何事にも制作することが好きで、学生時代よりファッションショーやライブイベントのプロデュースを手掛け、コンテスト入賞をはじめ、神戸コレクションのショースタッフの経験を活かし、カラーコンサルタント会社にて、イベントやセミナーの企画運営、営業、雑貨デザインを担当する。現在教育機関にて、実務で活用できるビジネススキルを養成するべく、教育機関にてコミュニケーションや思考判断を重視した指導を実施し、「伝える技術」「伝わるコミュニケーション」を取り入れ、能動的に学ぶ指導に評価をいただき活動の幅を拡大している。

【授業の学習内容】

立案したイベント内容・概要を把握し、役割をもって回し、成功させることを目的とします。

【到達目標】

イベント当日の運営を行うことができるようになる。
イベントをプランナー目線で考慮・配慮し、取り仕切ることができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
3-4回目	【全体把握】 イベントの全体的な流れを把握し、イベントの目的を再認識することができる。
5-6回目	【全体把握】 イベントスケジュールを再確認し、必要事項をあげる。
7-8回目	【全体把握】 どのような役割が必要かを考慮することができる。
9-10回目	【全体把握】 役割に対して、どのような情報共有をすることが必要かを考えることができるようになる。
11-12回目	【全体把握】 イベントスケジュールを見直し、役割担当者のスケジュールを立てていくことができる①
13-14回目	【全体把握】 イベントスケジュールを見直し、役割担当者のスケジュールを立てていくことができる②
15-16回目	【イベント準備】 イベントのシミュレーションをし、足りない部分を発見し考えることができる①
17-18回目	【イベント準備】 イベントのシミュレーションをし、足りない部分を発見し考えることができる②
19-20回目	【イベント準備】 イベントのシミュレーションをし、足りない部分を発見し考えることができる③
21-22回目	【最終確認】 イベント直前の最終確認を行い、スムーズに進行できるようにする。
23-24回目	
25-26回目	【イベント実施】 準備を行ってきた通りにイベントを実施する
27-28回目	
29-30回目	【振り返り】 イベントを振り返りを行い、成果発表を行い、改善点やよかったポイントを確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・イベントへの取り組み 80% ・準備姿勢 20%
連絡	総合コースのイベントとは別です。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	MICE・インバウンド	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
開講科目名	MICEビジネス概論						
開講科目英名	MICE Business Basic	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
ラスベガス・ディーラーズスクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授、トヨタ旅行ホテル専門学校のカジノマネージャー講座の非常勤講師を歴任。日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書「IRの有効性とカジノの本質」)							
大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)							
【授業の学習内容】							
MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。							
【到達目標】							
MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	ガイドランス-MICE産業とは？ 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界 MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	Convention(国際会議)ビジネスの世界 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	Exhibition(展示会)ビジネスの世界 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	MICE産業の歴史 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでどのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	MICE産業の現状①(世界、日本) 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	MICE産業の現状②(大阪) 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー) 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	MICE産業を支える施設①(国際会議場) MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	これまでの学習内容を復習できる
14回目	試験を通して知識の定着を確認できる
15回目	試験のレビューを通して知識の定着を確認できる
16回目	MICE産業を支える施設と仕事②(展示場) 地域の経済産業の活性化に必要な不可欠装置である展示場の役割について理解を深める。
17回目	展示場視察(インテックス大阪) 西日本最大規模の本格的展示場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに展示場細部を視察し理解を深める。
18回目	MICE産業を支える施設と仕事③(ホテル) ホテルのMICE機能について知識を深め、どのようなMICEビジネスを受入れ運営するかについての理解を深める。
19回目	ホテル視察(ハイアットリージェンシー大阪 or ヒルトン大阪) MICEビジネスの取り組みに実績のある外資系ホテルを訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受け、ホテルにおけるMICEビジネスの理解を深める。
20回目	国際会議の作り方 国際会議が実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し国際会議ビジネスについて理解を深める。
21回目	展示会の作り方 展示会がどのように企画され、実施されていくかの一連の流れを把握し展示会ビジネスについての理解を深める。
22回目	インセンティブ・イベントの作り方 MICEビジネスの中で一般ではほとんど触れることのないインセンティブ・イベントについて映像等の事例も踏まえ実態を把握し理解を深める。
23回目	国際会議におけるプロトコール 国際会議、特にハイレベル国際会議受入れに必要な不可欠なプロトコール(国際儀礼)についてG20サミットの実例などを踏まえて理解を深める。
24回目	ユニークベニューの開発と活用 ユニークベニューの概念や実際にどのように開発し活用していくかを事例を踏まえて理解し、開発や活用に関する演習を行う。
25回目	ユニークベニュー視察(大阪市中央公会堂、大阪市立自然史博物館) 大阪で実際に活用されているユニークベニューを訪問し、担当者から施設の概要やMICEイベントを開催する際の留意点などを説明を受け理解を深める。
26回目	MICEの統計、経済波及効果及びMICE商品の作り方 MICEビジネスの効果測定に必要な統計や経済波及効果について理解を深めるとともに経済波及効果を高めるために必要なMICE商品の作り方について理解する。
27回目	MICEトレードショーの実務体験(インターンシップ)2020年12月2日(水) 大阪観光局が主催するMICEトレードショー「大阪MICEデスティネーション・ショーケース2020」の運営に一部携わり、展示商談会の運営を実体験する
28回目	試験を通して知識の定着を確認できる
29回目	IR(統合型リゾート)におけるMICEビジネス 今後の日本におけるMICEビジネスにとって重要な施設となるIR内のMICE施設に関して知識を深めるとともに、今後のビジネスへの発展性について理解を深める。
30回目	MICEビジネス概論総括 2020年度の講義を振り返り理解を深めるとともに、次年度実施される海外実習でのMICEビジネス実務習得のポイントを認識する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ブライダル・ビジネス	必修 選択	必修 選択	年次	4	担当教員
開講科目名	フラワーデザイン					
開講科目英名	Flower Design	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科				1	

【担当教員、実務者経験】

2007年フローリストナ開業、2011年国家検定1級フラワー装飾技能士資格取得、大阪府知事認定講師資格取得。高島屋・スイスホテルの装飾やドレスショップTHE HANYの専属フラワーコーディネーターを務める。その他、ベイサイド迎賓館、セントフォーリアなどのゲストハウス在中フローリストを務めるなど。花全般多岐にわたる事業に携わる。2019年G20にも参画

【授業の学習内容】

サービス業のホスピタリティとして欠かせない花の出来ない花についての役割を知り、花が持つセラピー要素、また色彩感覚、空間コーディネートに触れる事により、提案力の高いサービスマンを目指す事が出来るようになる。

【到達目標】

日本人の生活習慣に馴染みのない花がホスピタリティにどのように関係するかを意識できるようになる。また、感性を刺激し、新たな視野をもてるようになるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション
2回目	花の流通と花の持つ特性。また各々の場所での役割や価格についてを知る事ができる ハロウエイアレンジが作れるようになる
3回目	花束が作れるようになる
4回目	ブートニアが作れるようになる(坂口先生コラボ授業)
5回目	ホテル装飾(課外授業)
6回目	ホテル装飾(課外授業)
7回目	ハーバリウムが作れるようになる
8回目	Xmas装飾施工
9回目	正月しめ飾りが作れるようになる
10回目	レジンアクセサリが作れるようになる
11回目	アレンジが作れるようになる
12回目	ドライフラワーブーケが作れるようになる ※宿題あり(オリジナル作品のイメージ提示と花材あげ)
13回目	造花のリースが作れるようになる
14回目	オリジナル作品の制作
15回目	花言葉・アニバーサリーフラワーなどの意味を知る事ができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ブライダル・ビジネス	必修 選択	必修 選択	年次	4	担当教員
開講科目名	テーブルコーディネート					
開講科目英名	Table Decoration	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科				1	

【担当教員、実務者経験】

2007年フローリストナ開業、2011年国家検定1級フラワー装飾技能士資格取得、大阪府知事認定講師資格取得。高島屋・スイスホテルの装飾やドレスショップTHE HANYの専属フラワーコーディネーターを務める。その他、バイサイド迎賓館、セントフォーリアなどのゲストハウス在中フローリストを務めるなど。花全般多岐にわたる事業に携わる。2019年G20にも参画

【授業の学習内容】

テーブルコーディネートの役割を知り、色彩感覚、食空間コーディネートに触れる事により、提案力の高いサービスマンを目指す事が出来るようになる

【到達目標】

テーブルコーディネートがホスピタリティにどのように関係するかを意識できるようになる。また、提案力を身に着ける事ができる

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーションおよび、デコレーションの概念と、テーブルコーディネートの様式が理解できるようになる
2回目	テーブルコーディネート(テーブルリネン含む)の基礎知識を知る事ができるようになる
3回目	ペーパーアイテムの知識を得る事ができるようになる
4回目	センターピースの種類や使用方法について理解できるようになる&人気のセンターピースのマーケットリサーチ
5回目	ヨーロッパスタイルのテーブルコーディネート企画
6回目	ヨーロッパスタイルのテーブルコーディネートの装飾ができるようになる
7回目	Xmasのテーブルコーディネート企画
8回目	Xmasのテーブルコーディネートの装飾ができるようになる
9回目	和のテーブルコーディネート企画
10回目	和のテーブルコーディネートの装飾ができるようになる
11回目	ナチュラルテイストのテーブルコーディネート企画
12回目	ナチュラルテイストのテーブルコーディネートの装飾ができるようになる
13回目	オリジナルテーブルコーディネートの企画
14回目	オリジナル作品の制作
15回目	花言葉・アニバーサリーフラワーなどの意味を知る事ができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	MICE・インバウンド	必修 選択	必修 選択	年次	4	担当教員
開講科目名	イベントプランニングⅡ					
開講科目英名	Event planningⅡ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			1		

【担当教員、実務者経験】

2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。報奨旅行の準備段階からの内勤業務や数千人規模のハワイツアーでの現地スタッフ業務も経験あり。現在は京都でのインバウンド向けサービスにも従事。

【授業の学習内容】

企画立案・企画書作成、プレゼンテーション力、そして、イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
2回目	【企画立案力を身に付ける】 企画を立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画」が出来るようになる
3回目	【企画書の作り方を身に付ける】 ① 企画書とは…／ ② 公演概要を理解する
4回目	【企画書の作り方を身に付ける】 ③ 制作スケジュールを理解する
5回目	【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する
6回目	プレゼンテーション
7回目	プレゼンテーションのフィードバック イベント制作の流れを理解する（打ち合わせ／準備物／下見とは）
8回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルについて理解する
9回目	【イベント制作の基礎知識】 タイムスケジュールを作成が出来るようになる
10回目	実施に向けて準備進行
11回目	実施に向けて準備進行
12回目	(イベントを終えて)反省会～報告書の作成が出来るようになる
13回目	【イベント制作の基礎知識】 収支を含む必要経費等の算出・概算予算について理解する
14回目	【イベント制作の基礎知識】 集客するとは
15回目	振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	MICE・インバウンド	必修 選択	必修 選択	年次	4	担当教員
開講科目名	イベントプランニングⅢ					
開講科目英名	Event planning Ⅲ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科			1		

【担当教員、実務者経験】

2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。報奨旅行の準備段階からの内勤業務や数千人規模のハワイツアーでの現地スタッフ業務も経験あり。現在は京都でのインバウンド向けサービスにも従事。

【授業の学習内容】

企画立案力・企画書作成・プレゼンテーション力、そしてイベント制作・運営を行う為の知識を身に付けて頂くべく講義を中心にを行います。そして、グループワークの中でのコミュニケーション力・役割分担・情報共有の大切さを育みます。イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントをゼロから企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
2回目	【企画立案力を身に付ける】 企画立案の流れを理解する／企画を立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる
3回目	【企画書の作り方を身に付ける】 公演概要書の作成が出来るようになる / グループワーク ①
4回目	【企画書の作り方を身に付ける】 企画書の作成が出来るようになる / グループワーク ②
5回目	【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する / グループワーク ③
6回目	プレゼンテーションへ向けて準備進行 / グループワーク ④
7回目	プレゼンテーションのリハーサルとフィードバックを行います
8回目	プレゼンテーションのリハーサルとフィードバックを行います
9回目	プレゼンテーション
10回目	【イベント制作の基礎知識】 制作スケジュールの重要性を理解し、制作スケジュールを作成出来るようになる / 実施に向けて準備進行 ①
11回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルの作成が出来るようになる / 実施に向けて準備進行 ②
12回目	【イベント制作の基礎知識】 イベント制作の流れを理解する / 実施に向けて準備進行 ③
13回目	試験日
14回目	【イベント制作の基礎知識】 反省会～報告書の作成が出来るようになる / 実施に向けて準備進行 ④
15回目	振り返り / 実施に向けて準備進行 ⑤
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	資格試験講座	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
開講科目名	旅程管理主任者						
開講科目英名	Tour Conductor Licence	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ホスピタリティマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
2001年から添乗員として国内全都道府県・海外40か国を訪問。老若男女のお客様と旅をする。報奨旅行の準備段階からの内勤業務や数千人規模のハワイツアーでの現地スタッフ業務も経験あり。現在は京都でのインバウンド向けサービスにも従事。							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな旅行業・添乗員の地位と役割を理解し、旅行業界用語と打合せの手順を習得する。 ・実際のバスツアー参加やJRツアーの受付現場見学し、自分で添乗業務をしているイメージをつかむ。 ・お客様に楽しんでいただくための各種案内・誘導方法を身に付けて正しく理解し業務に活かす。 							
【到達目標】							
国内旅程管理主任者(通称:ツアーコンダクター)として添乗業務内容の把握と必要知識の取得							
添乗員に限らず、サービス業に携わる者としてのリーダーシップ、現場力や即戦力を養います。							

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス 添乗員(正式名称:国内旅程管理主任者)の役割と仕事内容を知る。 募集型企画旅行 通称:パッケージツアーでの添乗員の仕事を知る
2回目	課題(Ⅰ) 添乗員に必要な旅行地理① 日本国内の業務する可能性の高い観光地を確認し、調べ、課題として提出。(旅程管理試験の出題範囲)
3回目	課題(Ⅱ) 添乗員に必要な旅行地理② 日本国内の業務する可能性の高い観光地を確認し、調べ、課題として提出。(旅程管理試験の出題範囲)
4回目	課題(Ⅲ) 添乗員に必要な旅行地理③ 日本国内の業務する可能性の高い観光地を確認し、調べ、課題として提出。(旅程管理試験の出題範囲)
5回目	課題(Ⅳ) 添乗員に必要な旅行地理④ 日本国内の業務する可能性の高い観光地を確認し、調べ、課題として提出。(旅程管理試験の出題範囲)
6回目	受付 バス添乗での受付・集合の流れを理解します。 乗務員との打ち合わせ時の留意点を確認します。 出発までの注意点やよくあるトラブルについて学びます。
7回目	出発あいさつ バス出発後の車内業務の流れを理解します。 ツアーのリーダーとしての車内挨拶のポイントを確認します。 出発の挨拶原稿を作成します。(出発挨拶の原稿なし実施を旨とします。)
8回目	観光地案内 観光地到着前の車内案内のポイントを確認します。 観光地での業務の流れと誘導方法を理解します。 (出発挨拶の原稿なし実施を旨とします。)
9回目	誘導練習① 徒歩誘導の練習に出かけます。 (校外授業) 屋外誘導のポイントに留意し、実践する。
10回目	誘導練習② 徒歩誘導の練習に出かけます。 (校外授業) 屋外誘導のポイントに留意し、実践する。
11回目	振り返り 練習での成功点や改善点を確認します。 バス研修などの実践に活かせるよう共有します。
12回目	食事・立寄り 食事・立寄り施設到着前の車内案内のポイントを確認します。 観光地での業務の流れと誘導方法を理解します。
13回目	復路 解散場所到着前の車内業務の流れを理解します。 ツアーのリーダーとしての車内挨拶のポイントを確認します。
14回目	受付(JR編) バス添乗での受付との違いを理解します。 受付業務の留意点を確認します。 出発までの注意点やよくあるトラブルについて学びます。
15回目	誘導練習③ 新大阪駅での受付・誘導の練習に出かけます。 (校外授業) 屋内受付・誘導のポイントに留意し、実践する。
16回目	誘導練習④ 新大阪駅での受付・誘導の練習に出かけます。 (校外授業) 屋内受付・誘導のポイントに留意し、実践する。
17回目	振り返り 練習での成功点や改善点を確認します。 バス研修などの実践に活かせるよう共有します。
18回目	打合せ① 今まで学んだ旅行中の業務を考えて打合せの重要性を確認します。 クーポン券とパウチャーの違いと使用方法を理解します。
19回目	打合せ② 今まで学んだ旅行中の業務を考えて各種関係機関への確認連絡の重要性を確認します。 各種関係機関への確認連絡の方法を理解します。
20回目	打合せ③ 今まで学んだ旅行中の業務を考えて各種関係機関への確認連絡の重要性を確認します。 各種関係機関への確認連絡の方法を理解します。
21回目	期末テスト 知識習得の確認をします。 筆記試験の実施
22回目	振り返り 期末試験の答え合わせを行い、ご認識を正します。 バス研修などの実践に活かせるよう共有します。
23回目	バス研修実践を通して知識と技術の定着を確認できる
24回目	バス研修実践を通して知識と技術の定着を確認できる
25回目	バス研修実践を通して知識と技術の定着を確認できる
26回目	バス研修実践を通して知識と技術の定着を確認できる
27回目	旅程管理試験対策講座: 必要な知識を学ぶことができる
28回目	旅程管理試験対策講座: 必要な知識を学ぶことができる
29回目	旅程管理試験対策講座: 必要な知識を学ぶことができる
30回目	旅程管理試験対策講座: 必要な知識を学ぶことができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	